

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第166集

ひがし ご り た
東五里田遺跡Ⅱ

長野県佐久市野沢東五里田遺跡Ⅱ発掘調査報告書
(奈良時代)

2009. 3

佐久市教育委員会

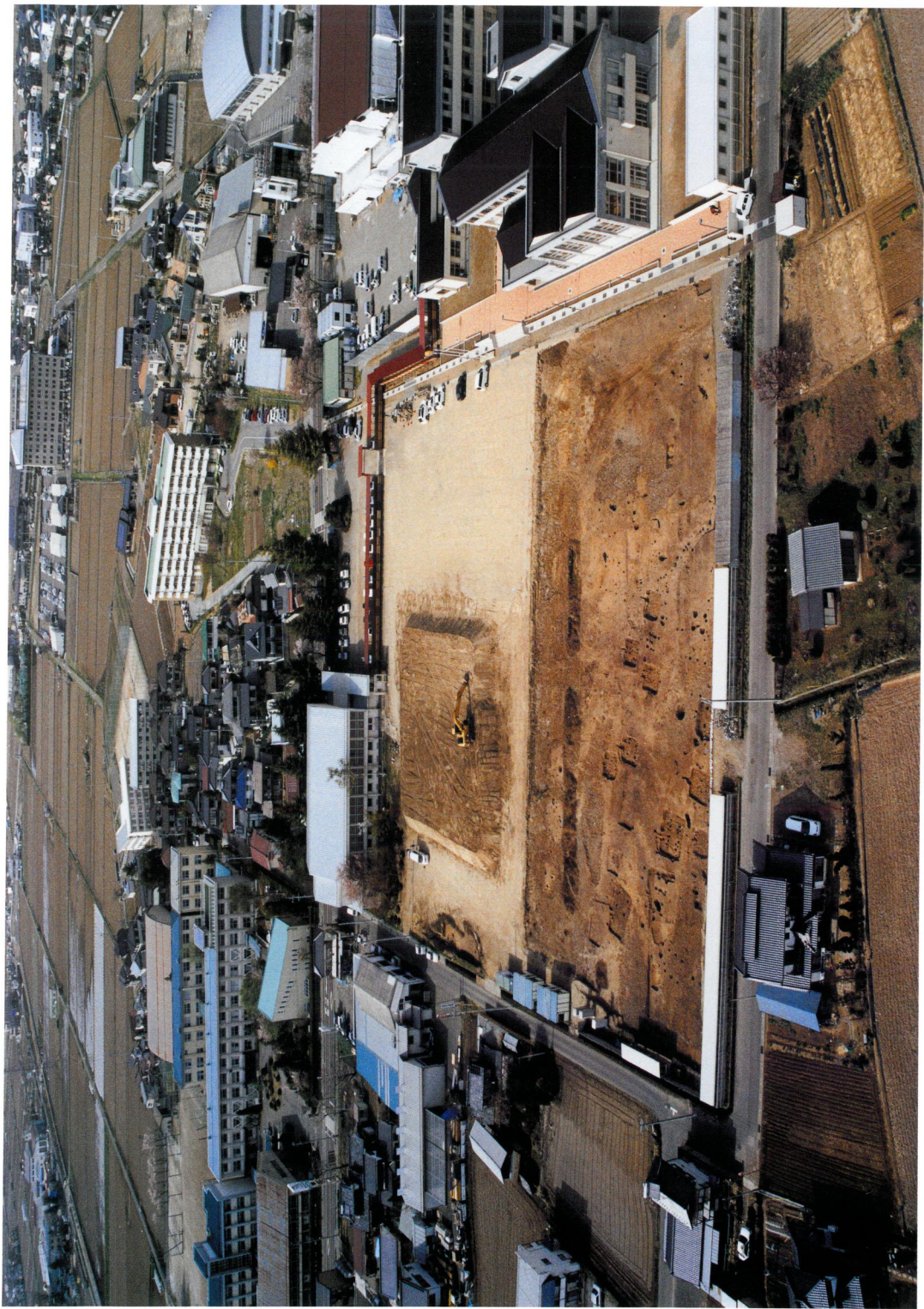
佐久市埋蔵文化財調査報告書 第166集

ひがし ご り た
東五里田遺跡Ⅱ

長野県佐久市野沢東五里田遺跡Ⅱ発掘調査報告書
(奈良時代)

2009. 3

佐久市教育委員会



東五里田遺跡Ⅱ 全景 航空写真 (2006 共同測量社撮影) (南より)



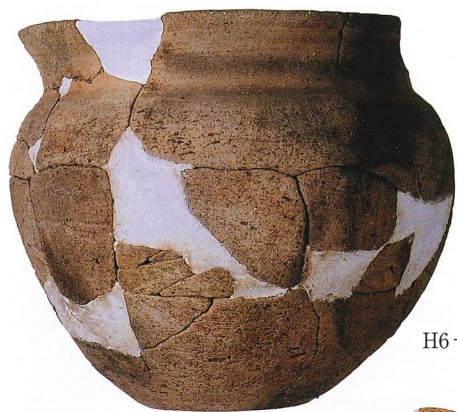
東五里田遺跡Ⅱ 全景 航空写真 (2006 共同測量社撮影) (西より)



東五里田遺跡Ⅱ 遠景 航空写真 (2006 共同測量社撮影) (東より)



H11号竪穴住居址 全景 (南より)



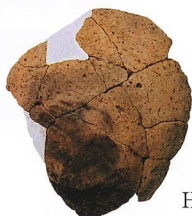
H6-10



H7-2



H6-8



H6-9



H7-1



H7-4



H7-3



H8-1



H8-9



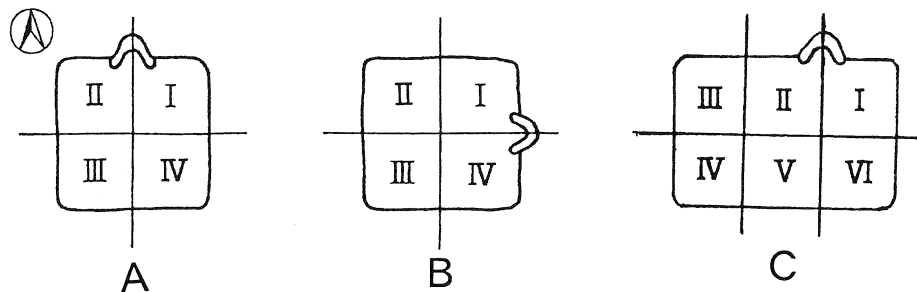
H8-7

例 言

1. 本書は平成18年度の佐久市立野沢中学校の改築工事に伴う発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、佐久市教育委員会文化財課が実施した。
3. 調査原因者 佐久市教育委員会学校教育課
4. 遺 跡 名 東五里田遺跡Ⅱ
5. 所 在 地 佐久市野沢東五里田441-2他
6. 調査期間 現場作業 平成18年4月1日～5月1日
平成18年9月15日～11月30日
整理作業 平成18年5月～平成19年3月
平成20年4月～平成21年3月
7. 調査面積 6,300㎡（開発面積15,120㎡）
8. 本書の航空写真は株式会社協同測量社に委託した。
9. 本書に掲載した地図は、佐久市発行（平成4年修正）の基本図（1：2,500）
国土地理院発行（平成11年発行）・2万5千分の1・5万分の1（平成16年発行）を使用した。
10. 発掘調査は小林真寿・佐々木宗昭・森泉かよ子が行い、本書の執筆・編集は森泉かよ子が行った。
11. 本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。
H－竪穴住居址、F－掘立柱建物址、D－土坑、P－単独ピット、M－溝址
2. 挿図中の遺構の縮尺は原則として1／80である。異なる場合は図中に明記してある。
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 挿図中の遺物の縮尺は1／4である。異なる場合は図中に明記してある。
5. 土層の色調は1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
6. 遺物一覧表の「○」は完全実測、「△」は回転実測、「拓」は拓本と断面実測のことである。
7. 遺物・遺構一覧表の（ ）は推定、〈 〉は残、－は計測不能を表している。蓋の計測値は上から口径、つまみ径、器高を測っている。
8. 竪穴住居址の出土地点は下図の分割によるものである。






9. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構

地山断面  焼 土  粘 土 

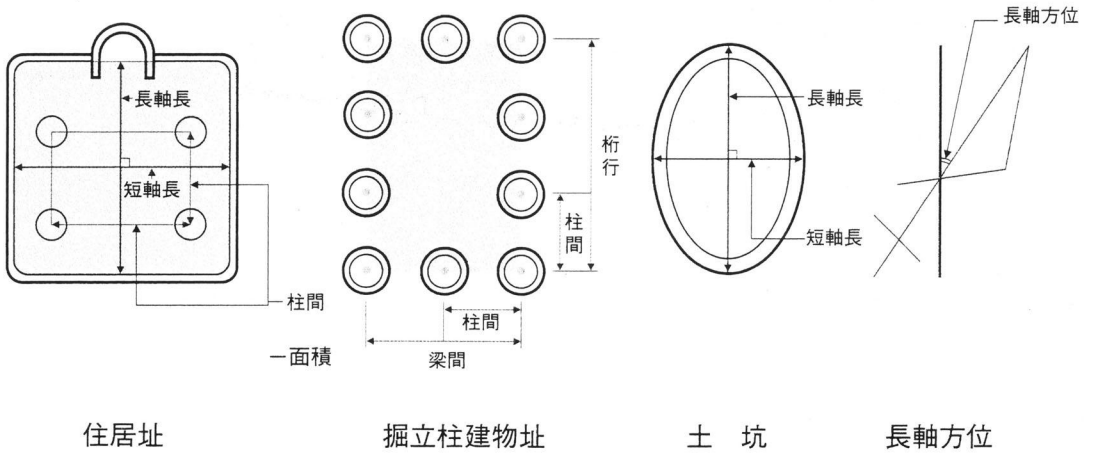
柱 痕  堀 方 

遺物

須恵器断面  黒色処理  礫 

釉  磨耗・スリ面 

10. 各遺構の計測は下図に示した凡例にしたがっている。面積は長軸長×短軸長から求めたものである。



目次

巻頭カラー図版

例 言・凡 例

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の概要	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査組織	2
第3節 調査日誌	2
第4節 検出遺構・遺物の概要	4
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	6
第1節 自然環境	6
第2節 歴史的環境	7
第Ⅲ章 基本層序	10
第Ⅳ章 遺構と遺物	11
第1節 竪穴住居址	13
第2節 掘立柱建物址	52
第3節 単独ピット・グリット	56
第4節 土坑	61
第5節 溝址	67
第Ⅴ章 総 括	70
引用参考文献	77
遺構一覧表	77
写真図版	

図版目次

巻頭図版一	東五里田遺跡Ⅱ全景	航空写真（南より、2006 協同測量社撮影）	
巻頭図版二	東五里田遺跡Ⅱ全景	航空写真（西より、2006 協同測量社撮影）	
巻頭図版三	東五里田遺跡Ⅱ遠景	航空写真（東より、2006 協同測量社撮影）	
	H11号竪穴住居址全景（南より）		
巻頭図版四	東五里田遺跡Ⅱ H 6・H 7・H 8号竪穴住居址出土遺物		
図版一	H 1～H 3号竪穴住居址	図版十一	H10～H12出土遺物
図版二	H 3～H 6号竪穴住居址	図版十二	H12出土遺物
図版三	H 7～10号竪穴住居址	図版十三	H12・H13出土遺物
図版四	H11～H13・H19・H22号竪穴住居址・M 1号溝址	図版十四	H14・H16～H22出土遺物
図版五	M 1・M 3～M 6号溝址・⑤地点全景	図版十五	F 1・土坑・溝址・単独ピット
図版六	H 1・H 2出土遺物	図版十六	石製品
図版七	H 2出土遺物	図版十七	石製品
図版八	H 3～H 5出土遺物	図版十八	石製品・青銅製品・鉄製品
図版九	H 5・H 6出土遺物		
図版十	H 8～H10出土遺物		

挿図目次

第1図	東五里田遺跡Ⅱ位置図	1	第27図	H16号住居址	44
第2図	東五里田遺跡Ⅱ発掘区設定図	3	第28図	H17号住居址	45
第3図	東五里田遺跡Ⅱ遺構配置図	5	第29図	H18号住居址	46
第4図	千曲川概念図	6	第30図	H19号住居址	47
第5図	周辺遺跡分布図	8	第31図	H20号住居址	48
第6図	基本層序模式図	10	第32図	H21号住居址	49
第7図	東五里田遺跡Ⅱ全体図	11	第33図	H22号住居址	50
第8図	H1号住居址	14	第34図	H23号住居址	51
第9図	H2号住居址(1)	16	第35図	F1号掘立柱建物址	52
第10図	H2号住居址(2)	17	第36図	F2・F3・F4号掘立柱建物址	54
第11図	H2号住居址(3)	18	第37図	F5・F6・F7号掘立柱建物址	55
第12図	H3号住居址	21	第38図	F8号掘立柱建物址	56
第13図	H4号住居址	22	第39図	単独ピット・グリット(1)	57
第14図	H5号住居址(1)	24	第40図	単独ピット・グリット(2)	58
第15図	H5号住居址(2)	25	第41図	単独ピット・グリット(3)	59
第16図	H6号住居址	27	第42図	単独ピット・グリット(4)	60
第17図	H7号住居址	29	第43図	D1～5・7・11・12・14号土坑	62
第18図	H8号住居址	30	第44図	D6・D13・D21号土坑	63
第19図	H9号住居址	32	第45図	D9・D10・D15・D25号土坑	64
第20図	H10号住居址	34	第46図	D16・D17・D18・D20・D22・D23号土坑	65
第21図	H11号住居址	36	第47図	M1～M7号溝址(1)	68
第22図	H12号住居址(1)	38	第48図	M1～M7号溝址(2)	69
第23図	H12号住居址(2)	39	第49図	土器編年図(1)	72
第24図	H13号住居址(1)	41	第50図	土器編年図(2)	73
第25図	H13号住居址(2)	42	第51図	土器編年図(3)	74
第26図	H14・15号住居址	43	第52図	竪穴住居址変遷図	75

付表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	7	第17表	H17号住居址出土遺物一覧表	44
第2表	H1号住居址出土遺物一覧表	13	第18表	H18号住居址出土遺物一覧表	45
第3表	H2号住居址出土遺物一覧表	15	第19表	H19号住居址出土遺物一覧表	48
第4表	H3号住居址出土遺物一覧表	20	第20表	H20号住居址出土遺物一覧表	48
第5表	H4号住居址出土遺物一覧表	23	第21表	H21号住居址出土遺物一覧表	50
第6表	H5号住居址出土遺物一覧表	23	第22表	H22号住居址出土遺物一覧表	51
第7表	H6号住居址出土遺物一覧表	27	第23表	F1号掘立柱建物址出土遺物一覧表	52
第8表	H7号住居址出土遺物一覧表	31	第24表	単独ピット・グリット出土遺物一覧表	56
第9表	H8号住居址出土遺物一覧表	31	第25表	土坑出土遺物一覧表	61
第10表	H9号住居址出土遺物一覧表	31	第26表	溝址出土遺物一覧表	67
第11表	H10号住居址出土遺物一覧表	33	第27表	竪穴住居址遺構一覧表	77
第12表	H11号住居址出土遺物一覧表	35	第28表	掘立柱建物址遺構一覧表	78
第13表	H12号住居址出土遺物一覧表	37	第29表	溝址遺構一覧表	78
第14表	H13号住居址出土遺物一覧表	42	第30表	土坑一覧表	78
第15表	H14号住居址出土遺物一覧表	43	第31表	単独ピット一覧表	79
第16表	H16号住居址出土遺物一覧表	43			

第 I 章 発掘調査の概要

第 1 節 調査の経緯

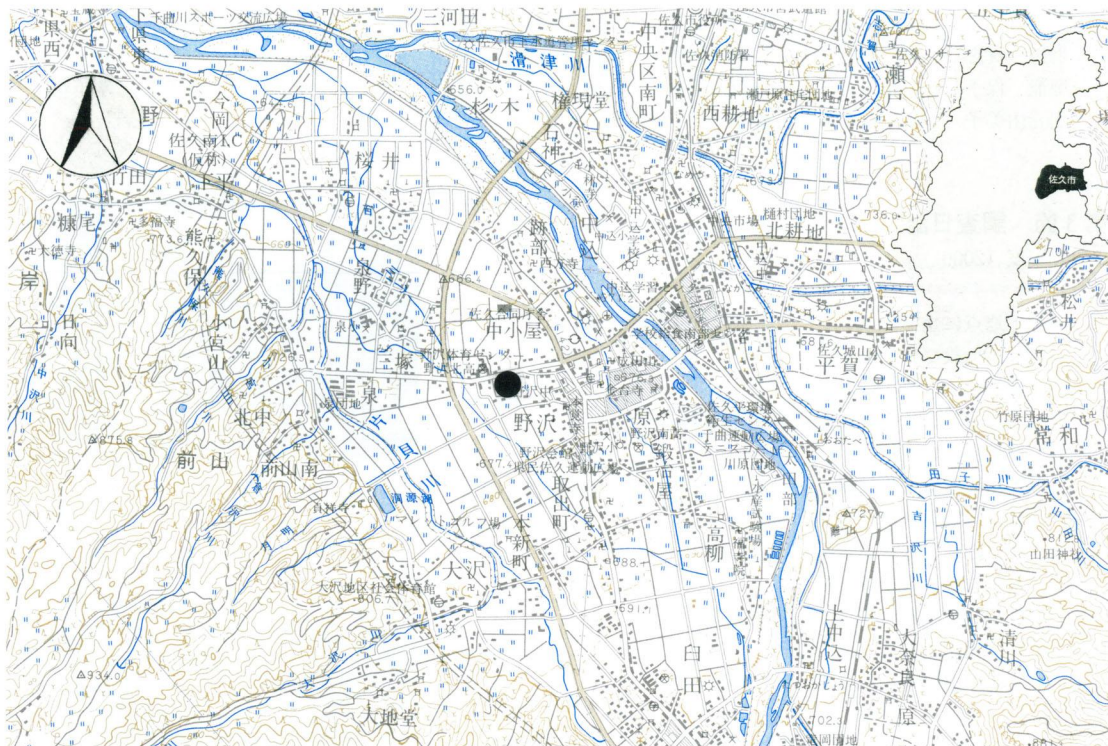
東五里田遺跡は佐久市の南部、佐久平の南にあたる佐久市野沢地区に所在する。千曲川の左岸にあり、沖積地に立地し、標高は674mを測る。

佐久市立野沢中学校の改築工事が計画され、管理特別教室棟・普通教室棟・屋内運動場を校庭として使用している地点に建設することとなり、平成15年に東五里田遺跡Ⅰの発掘調査を行った。調査の結果、奈良時代・中世の遺構群と弥生時代前期の水Ⅱ式の土器群など注目される資料を得た。

今回、引き続き新校舎西側に校庭造成工事が行われることになり、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。削平により破壊される南側と校庭を取り囲む防球ネット部分の発掘調査を行うこととなった。また、破壊されない北半分は埋土保存することとした。なお、南側の調査範囲の内、旧校舎地点は既に遺構は破壊されていた。

発掘調査は、佐久市教育委員会学校教育課の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が実施した。

遺 跡 名	東五里田（ひがしごりた）遺跡Ⅱ（略号 NHGⅡ）
所 在 地	佐久市野沢東五里田441-2 他
調 査 委 託 者	佐久市教育委員会学校教育課
開 発 事 業 名	野沢中学校校庭造成工事
発掘調査期間	平成18年4月1日～5月1日、平成18年9月15日～11月22日
調 査 面 積	6,300㎡（開発面積15,120㎡）
調 査 担 当	小林眞寿 佐々木宗昭 森泉かよ子



第 1 図 東五里田遺跡Ⅱ 位置図（1：50,000）

第2節 調査組織

平成18年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	三石 昌彦					
事務局	社会教育部長	柳沢 義春						
	社会教育委員	山崎 明敏						
	文化財課長	中山 悟						
	文化財係長	高柳 正人						
	文化財調査係	林 幸彦	三石 宗一	須藤 隆司	小林 眞寿	羽毛田卓也		
		富沢 一明	上原 学	神津 格	出澤 力			

平成20年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	木内 清					
事務局	社会教育部長	内藤 孝徳						
	社会教育次長	柳澤 本樹						
	文化財課長	森角 吉晴						
	文化財係長	三石 宗一						
	文化財調査係	並木 節子	林 幸彦	須藤 隆司	小林 眞寿	羽毛田卓也		
		富沢 一明	上原 学	神津 格	出澤 力			

調査体制

調査担当者	小林 眞寿	佐々木宗昭	森泉 かよ子
調査副担当者	堺 益子		
調査員			

浅沼 勝男	浅沼ノブ江	阿部 和人	甘利 隆雄	有賀 晴美	市川 明子	市川 昭
市川 光吉	磯貝 律子	岩崎 滋子	斉藤 恵李	上原 幸子	上原 悦子	碓水 知子
小幡 弘子	柏木 義雄	加藤 信一	菊池 喜重	小林喜久子	小林 妙子	小林 幸子
小林百合子	小山 功	里見 理生	鈴木 幹子	清水 澄生	清水 律子	大工原達江
田中ひさ子	土屋 武士	中山 清美	萩原 宮子	橋詰 勝子	橋詰 信子	花岡美津子
羽田 貴恵	林 美智子	比田井久美子	広瀬梨恵子	細谷 秀子	本田 慶二	堀籠 滋子
堀籠 保子	宮川百合子	百瀬 秋男	依田 好行	依田 三男	柳沢亜矢子	柳沢 孝子
山元由美子	横尾 敏雄	柳澤千賀子	山本 徳明	渡辺久美子		

第3節 調査日誌

平成18年度（2006）

4月

- 1日 ①地点に重機・ダンプによる表土除去作業を開始。
- 3日 現場仮設プレハブ・トイレ設置。
- 5日 機材準備・搬入。
- 6日 調査員による発掘調査開始。遺構検出作業。
標準杭設定開始。
検出面が礫の堆積層であるため締まり、プランがつかめず
検出・掘り下げが困難。
- 7日 検出と並行して遺構掘り下げ開始。
- 15日 重機による表土除去終了。
- 28日 H13住を最後に①地点の発掘調査終了。
航空撮影用清掃をおこなう。
現場の機材の撤収。

5月

- 1日 ラジコンヘリによる空中写真撮影。風が強く終日かけて撮影。



①地区（西より）



①地区（西より）

機材の清掃・整理。室内での遺物洗浄・注記・接合・復元、
 図面修正・トレース・土器実測作業。

- 8日 重機・ダンプによる埋め戻しを開始。
- 27日 重機・ダンプによる埋め戻し終了。
- 9月
- 15日 プレハブ設置。機材の搬入。
 ②地点の校庭の防球ネット設置部分の調査。
 重機・ダンプによる表土除去作業を行う。
- 19日 現場に調査員入る。標準杭設定。
- 20日 ②地点の調査終了。
- 23日 重機・トラックによる埋め戻し。
- 10月
- 4日 ③地点に重機により表土除去作業を行う。
 ④埋土部分に確認のためトレンチを入れる。
- 5日 調査員入る。
- 18日 H17住と埋土部分の試掘部分の図を作成して、⑤地点ができる
 まで一時中断。
- 11月
- 1日 ⑤地点の駐輪場・物置部分を重機により表土除去。
 調査員入る。
- 6日 基準杭設定。
- 8日 重機による表土除去作業終了。
- 22日 現場での発掘調査すべて終了。機材撤収。
- 30日 重機による埋め戻し作業終了。

平成20年度（2008）

- 4月
- 1日 室内にて整理事業開始。
 図面修正・写真整理・土器接合・石膏復元・遺物実測・
 遺構図トレース・遺物図のトレース
 掲載図作成・掲載写真撮影・報告書の編集・原稿執筆作業を
 始める。
- 3月
- 報告書を刊行する。



①地区（西より）



①地区（南西より）



②地区（南より）



②地区（北より）



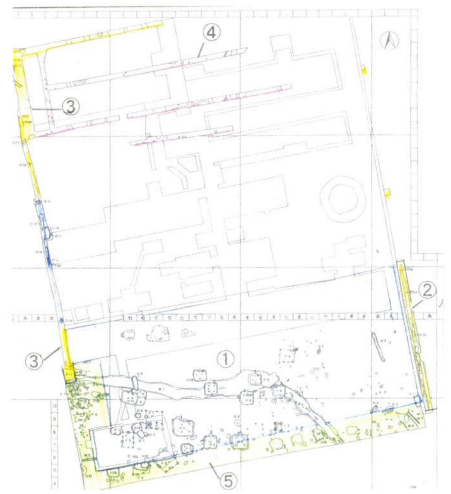
③地区（北より）



③地区（南より）



⑤地区（北より）



第2図 東五里田Ⅱ発掘区設定図（1：10,000）

第4節 検出遺構・遺物の概要

平成15年の東五里田遺跡Ⅰでは、弥生前期・奈良時代・中世・近世の遺構・遺物が検出されている。

平成18年の東五里田遺跡Ⅱでは、奈良時代の竪穴住居址23棟と8棟の掘立柱建物址を主たる成果として収めた。奈良時代の東五里田遺跡Ⅰ地点は大型の竪穴住居址と、それを取り巻く数棟の掘立柱建物址が2群みられた。

今回の東五里田遺跡Ⅱ地点では大型住居址はないが、東五里田遺跡Ⅰの住居址と同じ時期、それから半世紀に及ぶであろう竪穴住居址の変遷をたどることができた。ほぼ同一期の集落構成も少なからず復元できた。また、東五里田遺跡Ⅱの調査では掘立柱建物址の数が少ないことも遺跡の性格を物語るのであろうか。

中世では南西に掘立柱建物址2棟とピット群、土坑が密集し、中世の遺構群が確認された。遺物は少ないが、青磁連弁文碗片などがある。東五里田遺跡Ⅰにおいては中央の南北に貫く溝と掘立柱建物址・ピット群があった。溝は流路として中世～近世にかけてのもので、中世の出土遺物には土師質Ⅲ・中国産磁器（白磁、青白磁、青磁）・国産の古瀬戸・在地の播り鉢・渡来銭・板碑があり、時代は14c～15c頃に集中している。中世に帰属するであろう掘立柱建物址は6棟あり、屋敷地であったであろうか。東五里田遺跡Ⅱの中世遺構群とは200m程の距離をもつ。

(平成18年)

遺 構		遺 物	
竪穴住居址		縄文時代	前期・中期土器・打製石斧
奈良時代	23棟	弥生時代	前期土器・打製石鋏・石鏃
掘立柱建物址	8棟	奈良時代	須恵器（杯・高台付杯・鉢・壺・甕）土師器（杯・壺・鉢・甕）
奈良時代	6棟		青銅製品（留金具？）鉄製品（鎌・刀子・釘）
中世	2棟	中世	青磁連弁文碗
土坑	23基	近世	寛永通寶・陶磁器
奈良（井戸址？）	2基	近代	陶磁器
中世	12基		
風倒木	9基		
単独ピット	409個		
溝	7本		
弥生	1本		
奈良・平安	1本		
近代	1本		
不明	4本		

ⅠとⅡの調査ではⅠが東五里田遺跡の奈良時代初期の整った様相がうかがえ、Ⅱでは集落が奈良時代を通して展開してきたことが判明した。

(平成15年)

遺 構		遺 物	
竪穴住居址		縄文時代	前期・中期・後期土器片
奈良時代	2棟	弥生前期	土器 (浅鉢・壺・甕)、有茎石鏃、打製石斧、スリ石、剥片
掘立柱建物址	21棟	奈良時代	須恵器 (杯・高台付杯・壺・甕) 土師器 (杯・壺・甕)
奈良時代	7棟		編物石 凹石 砥石 金環 漆紙
中 世	6棟	中世	白磁碗・青白磁・青磁碗・渡来銭・板碑
不 明	8棟	近世	陶磁器・寛永通寶
単独ピット	160個	近代	陶磁器
土坑	16基		
弥生前期	5基		
奈 良	1基		
中 世	1基		
不 明	9基		
溝	2本		
奈 良	1本		
中世・近世	1本		



第3図 東五里田Ⅱ遺構配置図 (1:2,000)

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 自然環境

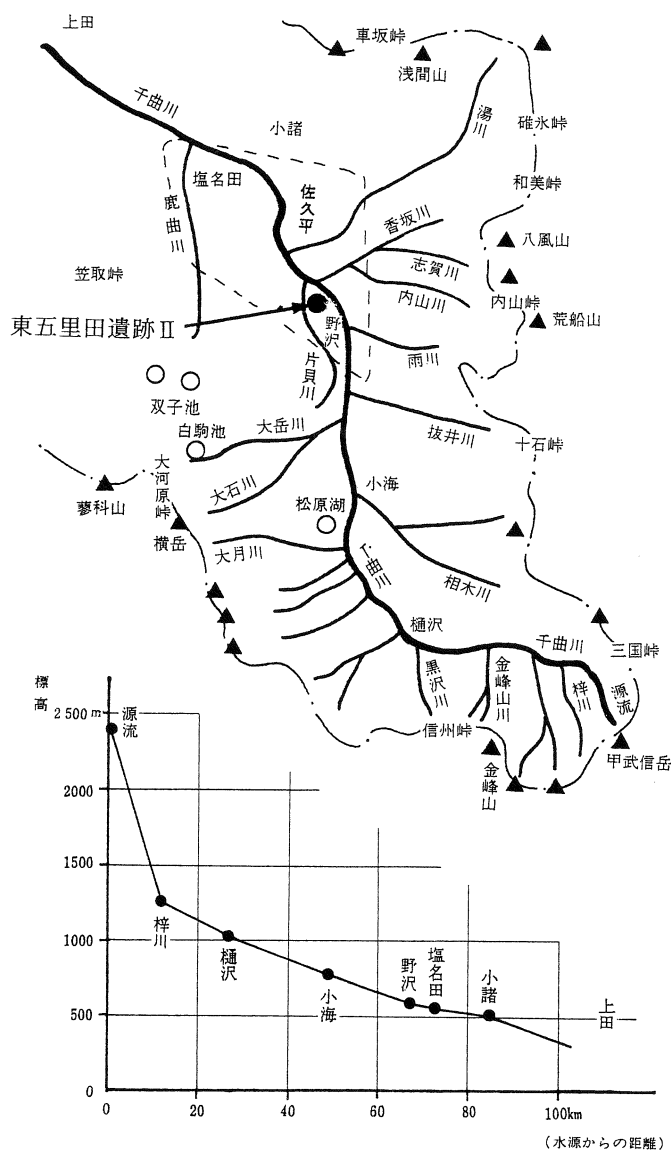
佐久市野沢のこの付近が佐久平のほぼ中心である。この佐久平の中央を南から北へ多くの支流を集めて千曲川が貫流している。

地形構造の上から佐久平は①浅間火山の噴出物の堆積する北東部、小諸・岩村田地域、②佐久山地古期岩層周辺の頭部地域南佐久東半部、③千曲川より西の八ヶ岳蓼科山麓部分の南佐久郡西部と北佐久郡川西地方の浅科村・望月町・立科町地域に大別区分される。その境界は南北で、ほぼ千曲川の流路であり、①と②境界は内山川と志賀川が合流して千曲川に注ぐ滑津川の示している東西線で旧南佐久と北佐久郡の境界の断崖線でもある。(図)

③は北佐久郡御牧村、小諸市の一部、望月町、立科町、浅科村、佐久市西部、南佐久郡白田町、佐久市の西半部地域の八ヶ岳蓼科火山山麓平地で、火山基盤の集塊岩は佐久平周辺まで到達し、洪積層と合わさって台地状地形を作っている部分もあるが火山溶岩の露出はなく、山麓傾斜面は厚いローム層に覆われている部分が多い。縄文遺跡が発見されているのもこの段丘台地面で佐久平周辺部は耕作適地土壤に恵まれている。

遺跡はこの千曲川以西、佐久市南部の佐久平中心部に位置し、千曲川本流より、約1km西の沖積地の带状微高地、

自然堤防上にある。標高674.00m～673.00mを測り、この付近は佐久平中心部の沖積氾濫源の堆積地帯で、自然状態の遺構確認面以下の地層は上部から黄褐色の砂質細粒粘土層が40cm内外の厚さで堆積している。この堆積層理状態から氾濫静水の沈殿層と観察された。その下部は大小の円礫を多数に含む砂礫層が観察され、50cm以下は確認することができなかったが数メートルの厚層であることは付近の古井戸から推定される。これらをあわせて堆積状況と大小の円礫の交混から、長期の洪水氾濫堆積によるものと考えられる。大小の円礫を岩質別に多いものから列記すると、安山岩・集塊岩（八ヶ岳火山系）・チャート・硬砂岩・砂岩・粘板岩・輝緑凝灰岩・石英閃緑岩・流紋岩・その他（佐久山地古期岩層地帯産）であって、量の多い八ヶ岳火山系のもの数が多く大型で、佐久山地のものは小型で数も少ない傾向は佐久市内を流れている千曲川原の現河床礫とほとんど同率で大差は認められない。（1988 白倉『薊沢』より一部抜粋 町村名は1988年段階である。）



第4図 千曲川概念図

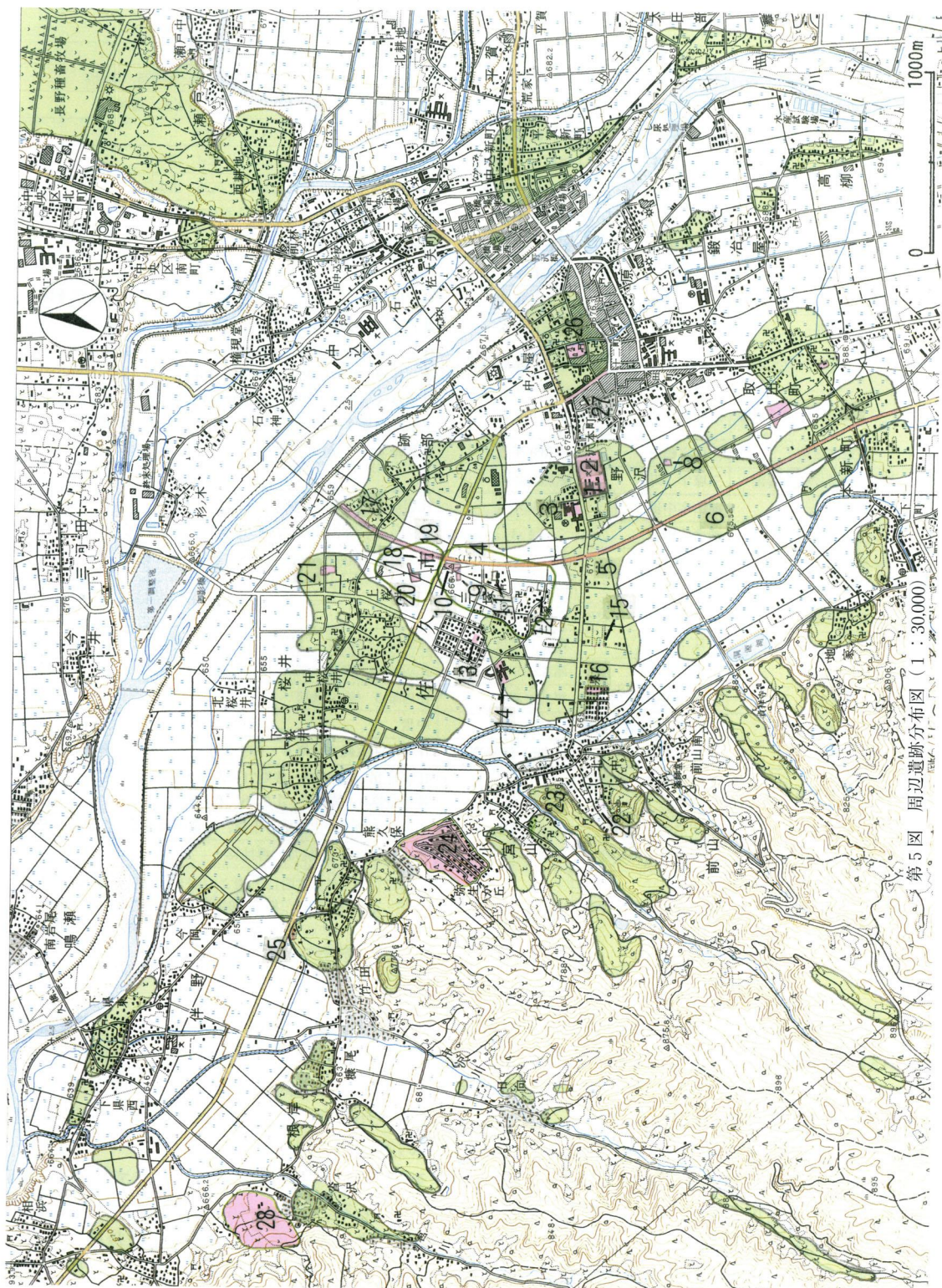
第2節 歴史的環境

No.	遺跡名	所在地	調査年度	検出遺構・出土遺物等
1	東五里田遺跡Ⅱ	野沢字東五里田	本調査	住居址21(奈良21)、掘立柱建物址6、土坑25、溝址7
2	東五里田遺跡	野沢字東五里田	平成14年度	住居址2(奈良2)、掘立柱建物址、土坑、溝址
3	薊沢遺跡Ⅰ・Ⅱ	野沢字薊沢	昭和62年度	住居址6(奈良2・平安4)、土坑4
4	市道遺跡Ⅲ	跡部字市道	平成16・17年度	住居址60、掘立柱建物址25、土坑54、溝址4
5	辻遺跡	野沢字辻	平成16・17年度	住居址28、掘立柱建物址12、土坑28、溝址7
6	儘田遺跡Ⅱ	野沢字儘田	平成17年度	住居址19、掘立柱建物址9、土坑52、溝址7
7	西裏遺跡	野沢字西裏	平成17年度	住居址2、掘立柱建物址1、土坑3
8	儘田遺跡	野沢字儘田	昭和45年度	住居址4(奈良・平安)、土坑9
9	市道遺跡Ⅰ	三塚字市道	昭和49年度	住居址10(古墳中期1・古墳後期7・平安1・不明1)、特殊遺構5
10	市道遺跡Ⅱ	三塚字市道	平成10年度	住居址5(古墳後期2・奈良3)、掘立柱建物址4、土坑10、溝址3
11	三千東遺跡群宮添遺跡	三塚字宮添	平成11年度	住居址4(古墳前期1・古墳後期1・奈良2)、竪穴状遺構2(中世)、掘立柱建物址1(中世)、土坑3(古墳前1、平安1)ピット39
12	三千東遺跡群寺添遺跡	三塚字寺添	平成6年度	住居址29(古墳中期3・古墳後期12・奈良3・不明11)、掘立柱建物址6、井戸址4(中世2)、土坑3、周溝址1
13	三塚鶴田遺跡	三塚字鶴田	昭和50年度	住居址4(平安)、土坑3
14	和泉小学校敷地遺跡	三塚字一町田	昭和40年度	
15	中道遺跡Ⅰ	前山字中道	昭和46年度	住居址7(奈良・平安)、奈良三彩(蓋)
16	中道遺跡Ⅱ	前山字中道	平成9・11・13年度	住居址17(弥生後期1・古墳中期3・古墳後期2)
17	跡部儘田遺跡	跡部字儘田	平成11年度	19の跡部儘田遺跡Ⅱと合わせて住居址86(古墳～平安)
18	跡部町田遺跡Ⅰ	跡部字町田	昭和50年度	住居址5(古墳)、土坑2、溝1
19	跡部町田遺跡Ⅱ	跡部字孫次郎・反田	平成11年度	
20	三塚町田遺跡	三塚字町田	昭和49年度	住居址6(古墳)、竪穴状遺構1、土坑、溝
21	上桜井北遺跡	桜井字橋詰	昭和52年度	住居址18(古墳～平安)、特殊遺構10
22	瀧の下遺跡	前山字瀧の下	平成2年度	住居址3(縄文後期)
23	前山城跡	小宮山字城山・伴野城根		中世
24	後沢遺跡	小宮山字後沢	昭和51・52年度	住居址50(縄文前期6・弥生後期35・古墳8・平安1)
25	西裏・竹田峯遺跡	伴野字西裏、根岸字竹田峯	昭和60年度	住居址26(弥生中期～後期21・古墳3・奈良1・平安1)、ピット、特殊遺構4、周溝3、土坑26、溝7
26	野沢館跡Ⅳ	野沢字居屋敷	平成14年度	館跡主郭調査、土師器、土鍋、近現代陶磁器、石製品、古銭
27	野沢館跡Ⅷ～Ⅹ	野沢字下木戸・居屋敷	平成17～19年度	竪穴状遺構6、土坑71、溝址18
28	榛名平遺跡	根岸字榛名平・坪の内	平成5・6年度	住居址122(縄文前期12・縄文中期8・弥生後期29・古墳中期10・奈良平安63)、掘立柱建物址30(弥生1・古墳3・奈良平安12・中世近世14)、土坑(縄文75・弥生15・奈良平安60・中世土壙墓65)古墳2基、ほか

第1表 周辺遺跡一覧表

今回調査された東五里田遺跡Ⅱは野沢市街地の西にあり、中世からの歴史を持つ県史跡の野沢館跡から西に約600mほどの地点である。この地点は千曲川の左岸にあり、西の山地にいたる間は2kmほどにわたって千曲川氾濫によって形成された沖積地である。かつて微高地は畑地として耕作されていたが、現在は圃場整備により水田とされ、旧の微地形は失われ推測しがたい状況となっている。本遺跡はその沖積地中程にあたり、带状微高地、自然堤防上の遺跡である。

この自然堤防上に連なる一連の遺跡は、一覧表の3.薊沢遺跡から21.上桜井北遺跡まで19遺跡が部分的ではあるが発掘調査がなされ、概要を類推できるものである。これらの調査で住居址の時代的初見は11.宮添遺跡に1棟ある古墳前期後半からである。時間があいて古墳中期後半、古墳後期、奈良、平安時代、そして中世と続いている。東五里田遺跡Ⅰからは弥生前期の遺物が土坑より出土し、貴重な資料を得た。この地点より西の山地に近い16.中道遺跡Ⅱでは弥生後期の住居址があり、片貝川沿いには弥生後期の集落がみられる。既出資料では貞祥寺の東にある弥生後期の遺物が出土した大門下遺跡が知られている。



第5図 周辺遺跡分布図 (1:30,000)

15.中道遺跡Ⅰでは古墳中期後葉から奈良の住居址があり、昭和46年の調査時に奈良三彩の蓋が出土している。28.榛名平遺跡からも奈良三彩蓋が出土している。この三彩の出土地点は、群衙などの官衙跡・寺院跡・墳墓・祭祀跡・集落跡などが多く、それらの遺跡はその地域の中心的地位を持ち得るものや交通の要所にあたる所であることが多いという。東五里田遺跡Ⅰ・Ⅱは奈良時代の住居址25棟、すぐ北の薊沢遺跡でも奈良時代の住居址2棟がある。さらに北に市道・宮添・寺添遺跡、西の辻遺跡、南では儘田遺跡と奈良時代の住居址が分布している。

千曲川から西に2km地点は低地に望む山地であり、蓼科山北山麓が河川に浸食され、数多くの谷と尾根が形成され、その尾根や南斜面には遺跡が残されている。低地に望む台地上部には縄文と弥生の遺跡が多くみられ、ことに弥生後期の集落である24.後沢遺跡、25.西裏・竹田峯遺跡があげられる。後沢遺跡は宅地造成にともない昭和51・52年度に調査され、縄文前期・弥生後期・古墳後期・平安時代の住居址が調査され、弥生後期の住居址は35棟を数える。

その北にある西裏・竹田峯遺跡では弥生中期から後期の住居址が21棟と弥生時代の集落が台地上にみられる。

縄文時代は後沢遺跡で縄文前期の住居址6棟が検出され、南に続く山地では縄文土器を表採できる遺跡が多い。

東五里田遺跡から600m東にある野沢館跡は、鎌倉時代以来伴野氏の居館跡として知られており、昭和40年に『伴野城跡』として長野県史跡に指定されている。平成11年度に薬師寺本堂の改築（野沢館跡Ⅱ）、平成13年度にマンション建設（野沢館跡Ⅲ）、平成14年度には町作り総合支援事業城山公園整備事業（野沢館跡Ⅳ）にともない遺構確認調査が行われた。北東土塁の一部切断により、現状土塁の表面層である昭和51～54年の改修層、その下層は大きく2期にわたる構築層があった。昭和の改修層下の土塁からは中世の遺物である常滑甕、石臼、土鍋片を出土する層があり、さらに下層には土盛りの側壁両側に石積みをしている土塁が残っていた。また南の館跡入り口には土橋が構築され、堀の線は現伴野神社の拝殿前と一致することが判明し、土塁外方の基部幅で南北約100m東西80mの長方形プランであることが確認された。室町時代（14C）の遺構・遺物が出土した。

伴野氏は小笠原長清が文治元年（1185）に伴野荘・大井荘の地頭に任命され、六郎時長に伴野荘を知行させたことに始まる。これ以前には野沢氏がすでにこの地に居住し、野沢館が成立されていたと推定されている。13C前半伴野氏は鎌倉の有力御家人として幕府の要職につき活躍していた。弘安8年（1285）の霜月騒動により、領地は一部を除き没収される。建武～正平年間（1335～1353）伴野長房により再興され、大徳寺領伴野荘を支配する。23.前山城は文明年間（1471～）頃、大沢の荒山城跡の支城として整備された。天文9年（1540）には武田氏の侵入により、伴野氏は武田氏に帰属する。天正10年（1582）依田信蕃により、攻略され、伴野氏は滅亡する。

東五里田遺跡ⅠのM1号溝址から中世の青磁や陶器の碗片が出土している。これらは13～14C頃の龍泉窯系の青磁碗、古瀬戸の陶器であり、伴野氏が再興した室町時代に関連するものであろうか。28.榛名平遺跡において同時期の青磁碗が出土しており、鎌倉とのつながりを指摘している。

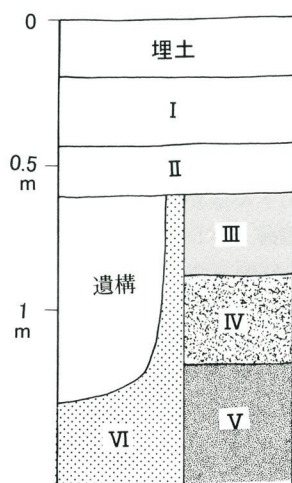
第Ⅲ章 基本層序

東五里田遺跡Ⅱは千曲川の左岸、片貝川と千曲川に挟まれた中間地点に位置している。今回の調査地点は水田耕作地を埋めて、野沢中学校のテニスコートと校舎に利用されていた。テニスコート地点はことに締まっていた。

調査区の検出面の標高は674.00m前後を測り、南西地点が最も高い。河床礫を地盤とし、南西を弧状に囲むM1あたりはシルト質土が堆積する。校舎造成前は北東に向かって標高を下げ、調査区北東は谷が入り込んでいる。低地では水田層が2面確認される。

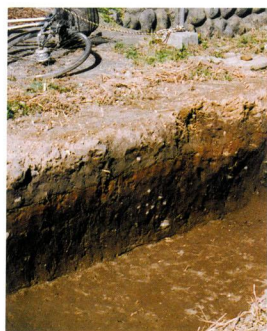
遺構検出面は河床礫ないし黄褐色シルト層である。低地では暗褐色土層の堆積がみられた。しかし千曲川氾濫原であるため、黄褐色シルトなどの堆積がないまま円礫層となる地点もある。上面水田耕作層は、低地では1面または2面にわたる水田がみられる。

遺構は低地では第Ⅲ層黒色土層、第Ⅳ層暗褐色土層、第Ⅴ層黄褐色土層、高所では第Ⅵ層河床礫を切り込んで構築されている。



第6図 基本層序模式図

- 埋土 褐灰色土層 (10YR4/1)
グランド盛り土。
- 第Ⅰ層 褐灰色土層 (10YR5/1)
水田層。
- 第Ⅱ層 にぶい黄橙 (10YR7/4)
鉄分沈殿層。
- 第Ⅲ層 黒色土層 (10YR2/1)
小石少量含む。低地に堆積。
しまり・粘性あり。
- 第Ⅳ層 暗褐色土層 (10YR3/3)
小石少量含む。
しまり・粘性あり。
- 第Ⅴ層 黄褐色土層 (10YR5/6)
黄色シルト層。
しまり・粘性ややあり。
- 第Ⅵ層 灰黄褐色土層 (10YR5/2)
黄色砂粒、褐色砂粒が混じる円礫層。



調査区 西



調査区 南東隅



調査区 北東(低地)



第7図 東五里田遺跡Ⅱ全体図 (1:500)

第Ⅳ章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址

1) H1号住居址 (第8図・図版一・六・十六)

調査区南西、の8グリットにあり、北壁は攪乱により壊される。カマドは西壁の中央よりやや南に設けられる。東西に長軸をもち320cm、南北は残長で248cmを測るが、全長にほぼ近い数値と思われる。形態は隅丸長方形を呈すであろう。壁残高は最大で17cmと浅い。主軸はN-86°-Wを測る。カマドの奥壁は良く焼け赤褐色を呈する。袖は崩れていたが、右袖は芯材の石が傾いてはいたが、残っていた。カマドの奥行き長さ88cmを測り、煙道側から1/3あたりに安山岩の支脚石を置いている。また構築材に使用したであろう須恵器の大甕破片がカマド構築粘土崩壊層から出土した。

床面は暗褐色土と黄褐色土のブロックが混在した土を貼り、カマドの前面は締まっていた。主柱穴はないが、カマドの右脇に灰落としと思われる径52cm深さ20cmの円形ピット、北西に長さ52cmのピットがある。南壁下には長さ28cmの小ピット、南壁中央にも小ピットがみられた。

出土遺物は須恵器・土師器・石製品がある。須恵器では須恵器杯、杯の二次利用された土板、須恵器甕がある。杯は1・2・5が回転糸切り底、3が回転ヘラ切り、4は切り離しは不明だが、切り離した後回転ヘラケズリを施している。3は底径が口径にたいし0.63と高いが他は0.5~0.57と底径が小さい。

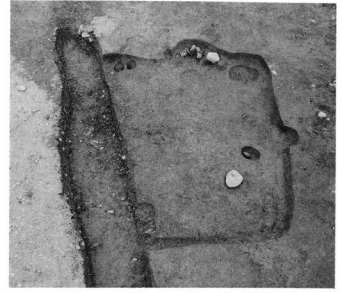
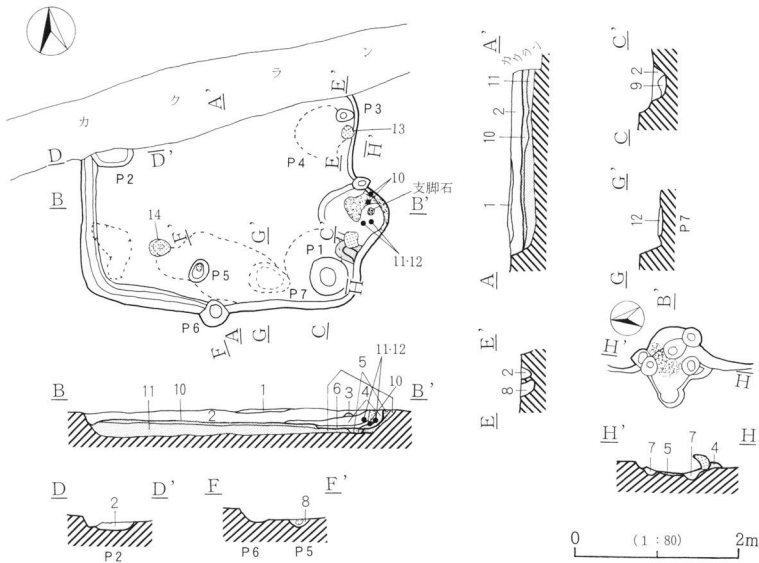
土師器は杯と甕がある。杯は実測できなかつたが、底部を欠損し内湾気味の口縁で、外面ロクロナデ、内面ミガキで、二次比熱を受け、黒色が消えている。この土師器杯は、床下の焼土ブロックを含む浅いピットよりでている。甕は口縁が外反している「武蔵甕」である。器肉は非常に薄く、胴上部はヘラケズリが施される。

石はあまり顕著な使用痕がないが窪みを持ち、窪み石でスリ面がある。

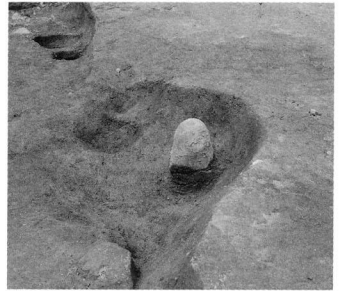
これらより本住居址は奈良時代であろう。

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 杯	(13.8)・(7.0)・3.7	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	1/3	△	Ⅳ区堀方	細砂粒含む。
2	須恵器 杯	(13.6)・(7.8)・3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	1/3	△	Ⅳ区堀方	縄文密。黒色ほかし粒。
3	須恵器 杯	(13.4)・(8.6)・3.5	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り一部ヘラナデ	底部1/2	△	Ⅳ区堀方	細白色粒含む。
4	須恵器 杯	(14.6)・(8.0)・4.2	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ削り	1/3	△	Ⅲ区	内外面火だすきあり。緻密、1mm大砂粒含む。
5	須恵器 円板	8.6・9.0・1.2	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部完	○	Ⅲ区	2~3mm大白色粒子含む。
6	土師器 甕	(20.8)・6.0・-	内 横ナデ 外 口縁横ナデ 胴部ヘラ削り	1/4	△	Ⅳ区堀方	細砂粒含む。
7	須恵器 壺	-	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	破片	拓	Ⅰ区	
8	須恵器 壺か甕	-	内 ナデ 外 タタキ	破片	拓	Ⅰ区	
9	須恵器 甕	-	内 ナデ 外 タタキ	破片	拓	Ⅲ区	
10	須恵器 甕	-	内 ナデ 外 タタキ	破片	拓	No.1	
11	須恵器 甕	-	内 タタキ 外 タタキ	破片	拓	No.1	
12	須恵器 甕	-	内 ナデ 外 タタキ	破片	拓	No.1	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置	備考
13	スリ石	9.7	8.4	3.7	480	Ⅰ区	安山岩
14	スリ石	27.3	20.9	7.5	5,630	Ⅲ区	表面全体に黒くなっている。安山岩

第2表 H1号住居址出土遺物一覧表



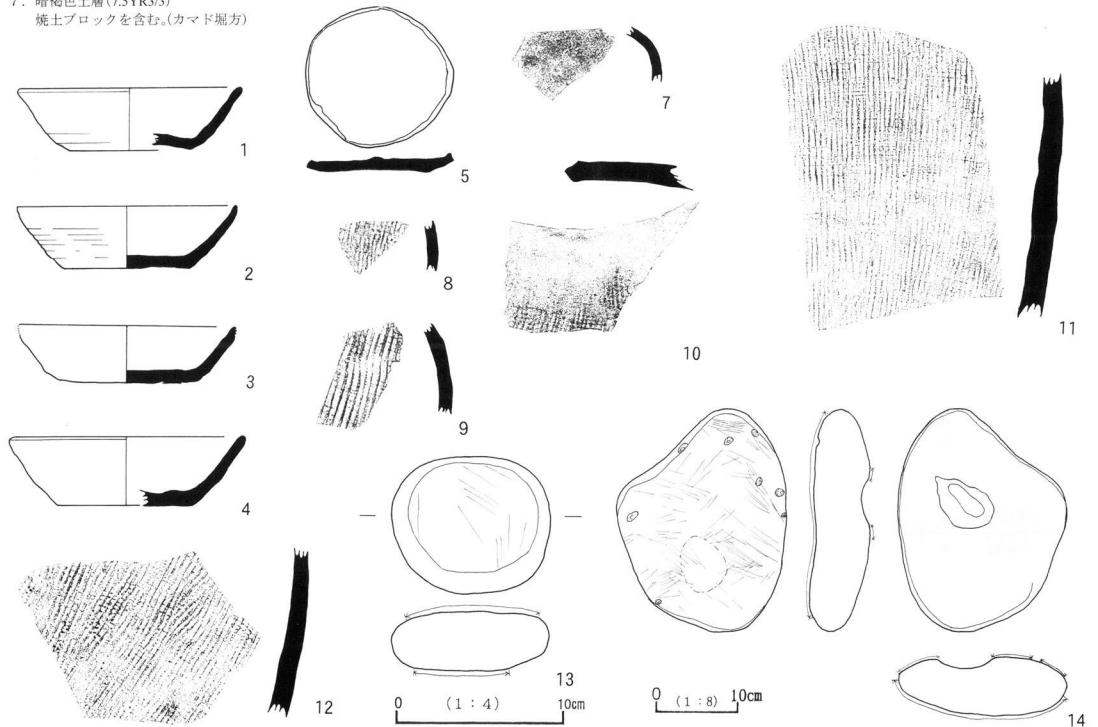
H1 完掘 (西より)



H1 カマド支脚 (南より)

H1 土層説明

- | | |
|--|---|
| <p>1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
シルト質土を含む。</p> <p>2. 黒褐色土層 (10YR3/2)</p> <p>3. 粘土焼ける。</p> <p>4. 暗褐色土層 (10YR3/3)
シルト質土粒子。(粘土)</p> <p>5. 焼土</p> <p>6. 黒褐色土層 (10YR2/3)
灰、炭化物、焼土粒子を含む。</p> <p>7. 暗褐色土層 (7.5YR3/3)
焼土ブロックを含む。(カマド堀方)</p> | <p>8. 暗褐色土層 (10YR3/3)</p> <p>9. 黒褐色土層 (10YR3/2)
10YR3/4ブロックを含む。</p> <p>10. 暗褐色土層 (10YR3/3)
暗褐色土ブロックと黄褐色土ブロック混在。(貼床)</p> <p>11. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
地山土と暗褐色土を含む。(堀方)</p> <p>12. 10YR4/3 に焼土ブロックを含む。</p> |
|--|---|



第8図 H1号住居址

2) H2号住居址 (第9~11図・図版一・六・七・十六)

て9グリットにあり、2棟が重複している。プランを確認できず同時に調査した。西床面に南北の周溝があり、そこで新旧を分けた。東側のカマドの残る住居址を新住居址とした。

新住居址は北壁中央にカマドをもち、南北長466cm、東西長480cmの隅丸方形を呈す。壁高は44cmを測り、壁は角度をもって立ち上がる。東・南・西壁下に周溝を持つ。主軸はN-1°-Wでほぼ北を指す。覆土は黒褐色土層である。カマド前面には構築材に使用したであろう河床円礫がみられた。

カマドは両袖と奥壁が残っており、河床円礫を芯材に粘土で覆って構築している。カマドの間口60cm、奥行き56cm、火床に支脚石痕が2穴あった。

床面は締まり、褐色土ブロックで貼り床されていた。主柱穴はP1~P4が最終のものと思われる、西の内側にあるP5・P6は住居址の拡張により、埋められた柱穴のようである。柱痕の覆土からはP1~P4が同時期と考えられる。長さ21cm、幅12cmの楕円の柱痕がP1で確認された。

カマドの右脇には隅丸方形で、深さ8cmの浅い隅丸長方形の焼土・炭化物粒子を多く含む灰落としのピットがある(D1)。南西隅では貯蔵穴であろうか深さ16cmの円形ピットがある(P9)。

新住居址は、床下にカマドの袖先の掘り込みのピットがあり、新住居址の床下住居がある。

旧住居址は新住居によりカマドが壊され、煙道と住居の西端が残っている。規模は新住居に壊され東西は不明、南北は448cmを測る。主柱穴はP12~P15の4本で、P16・17も旧住居拡張ピットであろう。旧住居のカマドは煙道のみ残り、幅32cm長さ132cmと細長く、先端は円形に掘り込まれている。煙道は焼け込み、先端の円形部は炭化物層がみられた。

旧住居の西側はテラスがあり、浅い別遺構があった可能性もある。

出土遺物には須恵器・土師器・石製品がある。新旧のプランをともに掘り下げたため、調査の際分割して遺物をあげた(住居分割図C)Ⅲ・Ⅳ区の遺物が旧住居址にあたる。しかし一部は新住居址の西端にあたり、完全に分離はできない。

須恵器は蓋の1・3~5が新住居、2が旧住居(Ⅲ・Ⅳ区)である。2の蓋は口径が大きく、つまみの頂部が膨らみ、口縁端部の折り返しの外稜が外に出ている。須恵器杯は新住居のものは、9の小振りの須恵器杯が底部静止糸切り、16を除く10~17が回転糸切り離しの杯である。旧住居と思われるⅢ・Ⅳ区の須恵器杯は、22が底部回転ヘラ切り後ヘラナデを施す。22を除く19~25は底部の最終調整はヘラナデないしヘラケズリを施す。26は長頸壺の口縁があり、Ⅳ区より出土する。須恵器甕は破片のみである。32がⅢ・Ⅳ区から出土する。

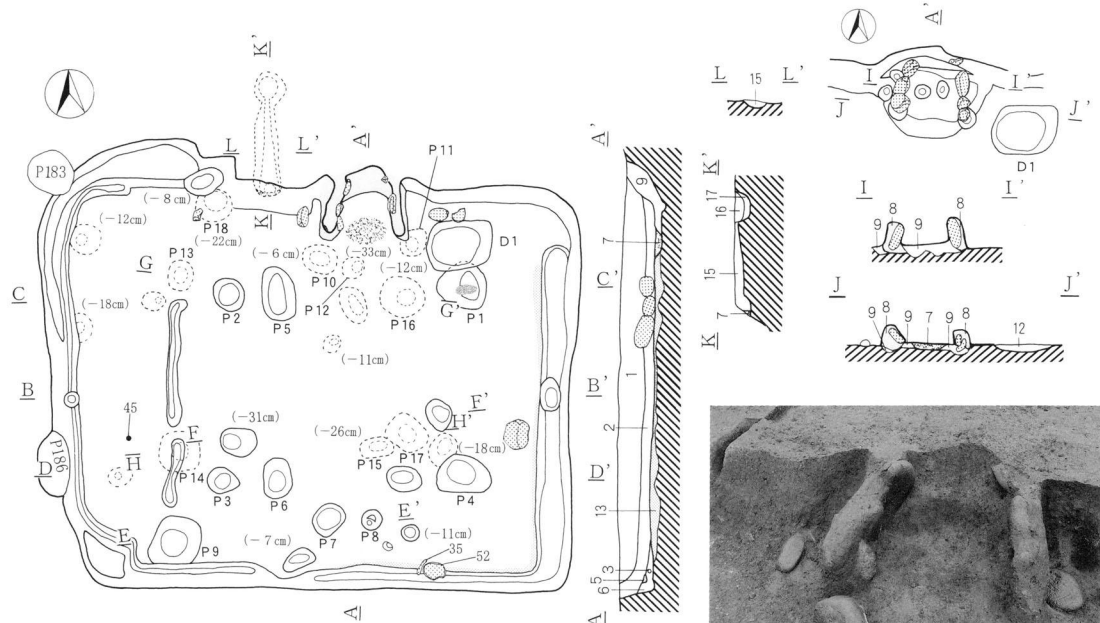
土師器杯の39は平底・内面ミガキ黒色処理され、分厚い作りである。38は薄手で底部丸底気味、内面黒色処理、ミガキは磨耗して分からない。40は杯としたが壺蓋であるかも知れない。内外面黒色処理ミガキ調整される。土師器甕は武蔵甕の41と43が新住居に伴う。いずれも口縁上部に折れの傾向をもち、「コ」の字形を呈し始めている。42は口縁全体が外反している。44はⅢ区から出土したロクロ甕で胴部までロクロ調整される。37はロクロ甕の底部である。他に甌の把手、土版がある。

南壁下から搗臼状の窪み石があり、他に方柱形の凝灰岩製砥石、スリ石がある。

これらより新旧ともに奈良時代で、新旧住居の床下にも各々ピットが確認された。

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 蓋	(16.0)・--・3.4	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→宝珠つまみ貼付	1/3	△	V区	細砂粒含む。
2	須恵器 蓋	(18.4)・--・4.1	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部ヘラケズリ→宝珠つまみ貼付	1/2	△	VI区	細かい砂粒含む。
3	須恵器 蓋	(19.0)・--・(2.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→天井部ヘラケズリ	1/5	△	V区・VI区	1~3mm大砂粒含む。
4	須恵器 蓋	(15.8)・--・(2.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→天井部ヘラケズリ	口縁1/4	△		2mm大赤色粒子含む。火だすきあり。
5	須恵器 蓋	(13.8)・--・(2.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→天井部ヘラケズリ	1/3	△	I区	1mm大赤色粒子含む。
6	須恵器 高台付杯	(13.7)・(9.3)・4.9	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付→底面ナデ	1/4	△	II区	黒色粒子含む。(内面見込み磨耗) 口縁端部磨耗。

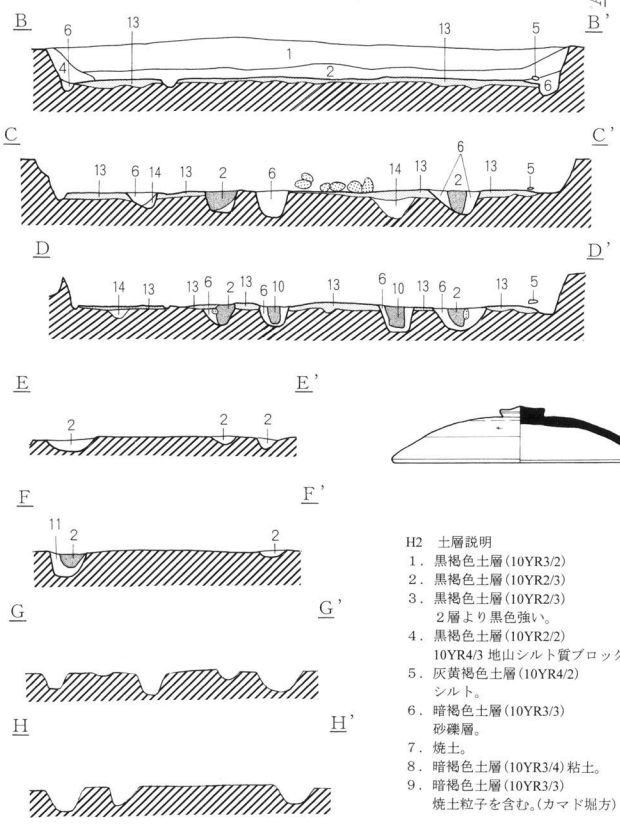
第3表 H2号住居址出土遺物一覧表



H2 カマド完掘 (南より)



H2 完掘 (北より)

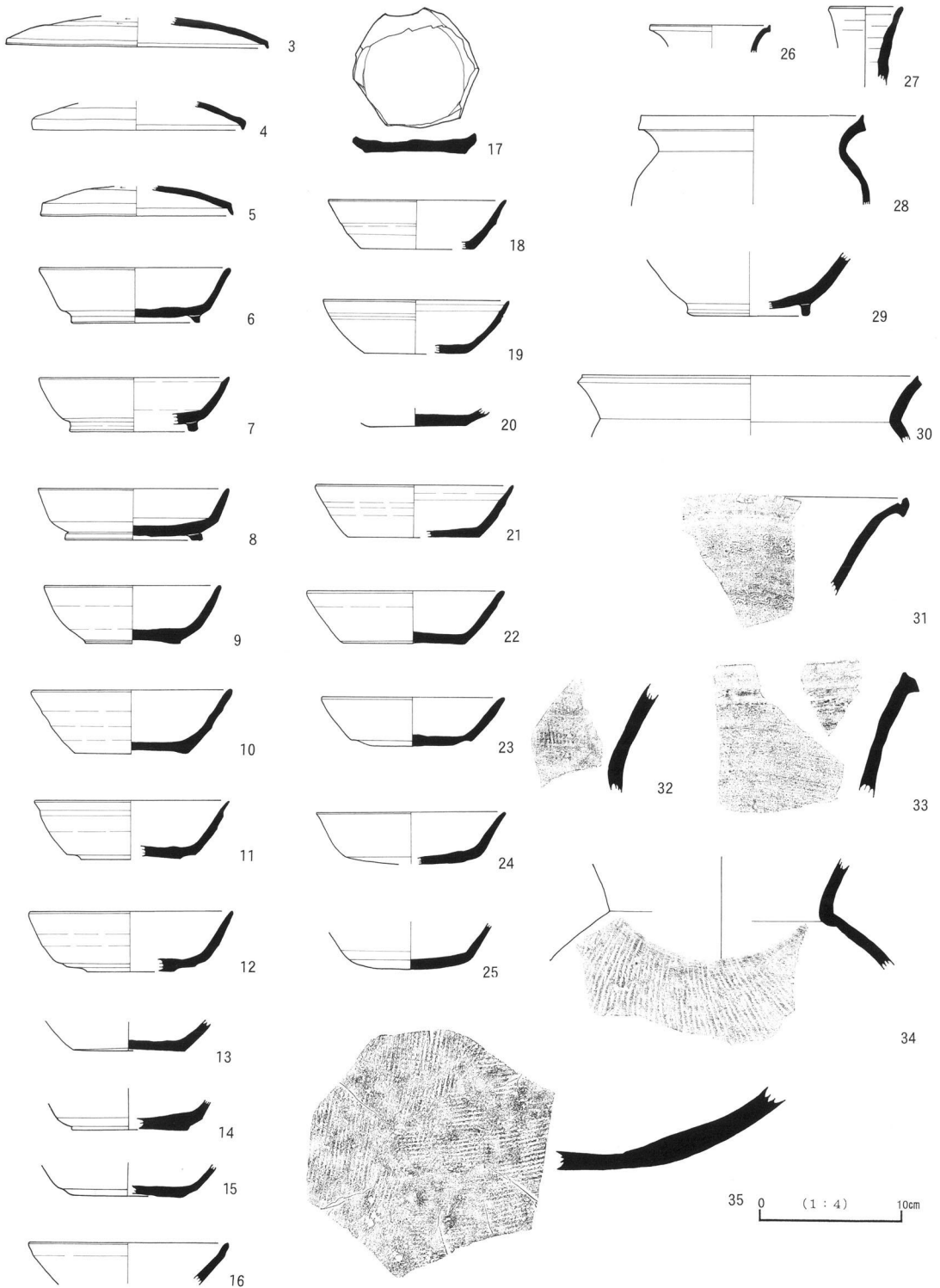


H2 土層説明

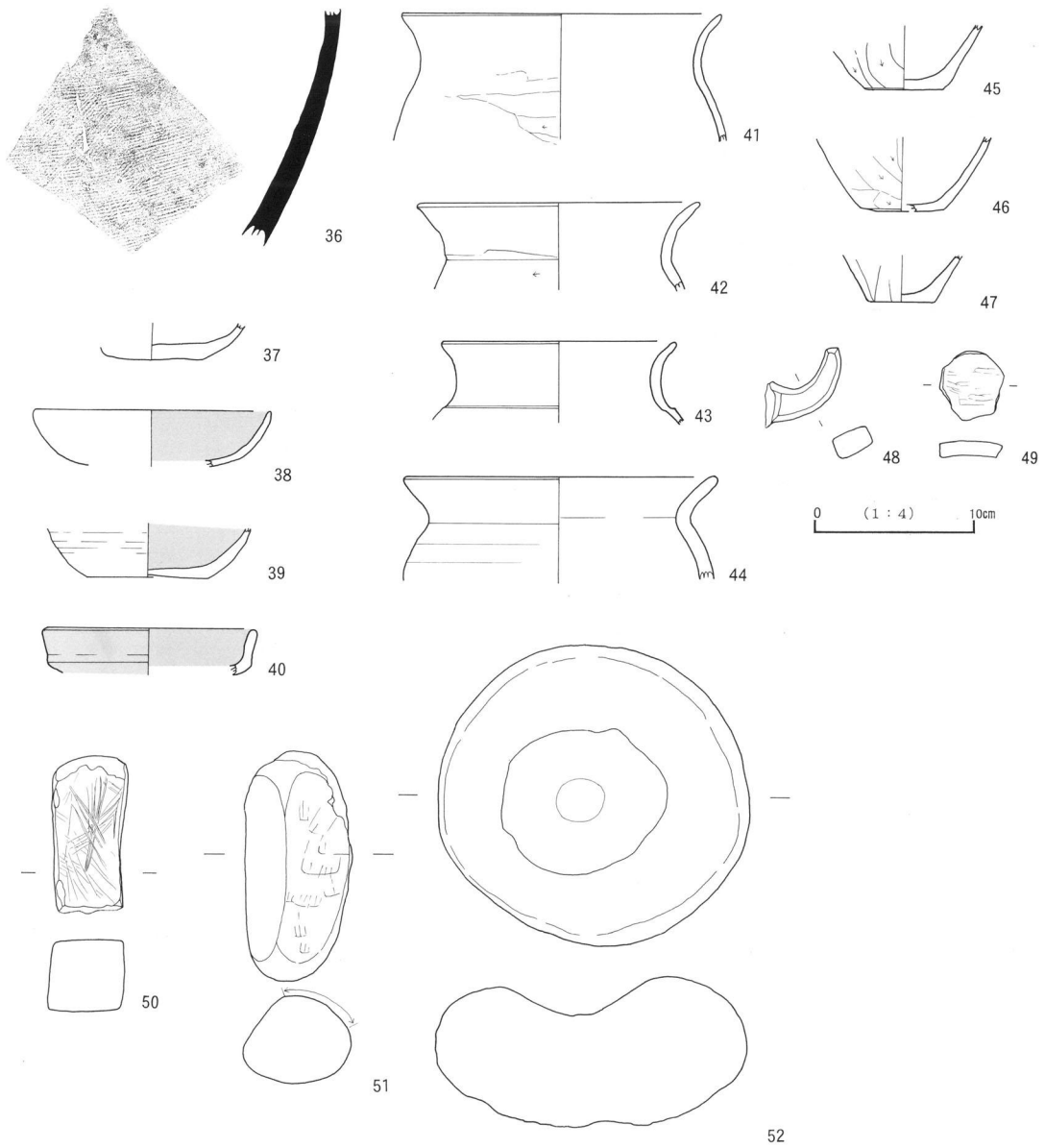
1. 黒褐色土層(10YR3/2)
2. 黒褐色土層(10YR2/3)
3. 黒褐色土層(10YR2/3)
2層より黒色強い。
4. 黒褐色土層(10YR2/2)
10YR4/3 地山シルト質ブロックを含む。
5. 灰黄褐色土層(10YR4/2)
シルト。
6. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂礫層。
7. 焼土。
8. 暗褐色土層(10YR3/4)粘土。
9. 暗褐色土層(10YR3/3)
焼土粒子を含む。(カマド堀方)
10. 暗褐色土層(10YR3/3)柱痕。
11. 暗褐色土層(10YR3/3)
地山砂ブロックを含む。
12. 暗褐色土層(10YR3/3)
焼土、炭化物粒子を多く含む。
13. 黒褐色土層(10YR2/3)
10YR4/4 土ブロックを含む。(貼床)
14. 黒褐色土層(10YR3/2)砂礫。
15. 暗褐色土層(10YR3/3)
地山土を多く含む、焼ける。
16. 黒褐色土層(10YR3/1)
焼土ブロック、炭化物粒子を含む。
17. 黒色土層(10YR2/1)
炭化物粒子を多量に含む、焼土粒子を含む。

0 (1:4) 10cm

第9図 H2号住居址(1)



第10図 H2号住居址(2)



第11図 H2号住居址(3)

0 (1:3) 10cm

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
7	須恵器 高台付杯	(13.6)・(9.0)・3.9	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部高台貼付	1/3	△	Ⅲ区	細砂粒含む。
8	須恵器 高台付杯	(13.6)・(9.6)・3.7	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部糸切り→ナデ→高台貼付	1/2	△	Ⅳ区	細砂粒、黒色粒子多く含む。 (内面見込み磨耗)
9	須恵器 杯	(12.8)・6.8・4.1	内外 ロクロナデ 自然釉 ナデ→底部糸切り	1/2	△	Ⅱ区	鉄分粒子発砲。 火だすきあり。
10	須恵器 杯	(14.4)・(8.2)・4.5	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	1/4	△	Ⅴ区	やや軟質。砂粒微かに含む。 火だすきあり。
11	須恵器 杯	(14.0)・(7.0)・4.2	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	1/4	△	Ⅰ区	1mm大砂粒含む。 火だすきあり。

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
12	須恵器 杯	(14.6)・(6.2)・4.2	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	1/3	△	Ⅲ区	火だすきあり。砂粒少し含む。軟質に焼ける。
13	須恵器 杯	―・8.0・(2.3)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/2	△	Ⅱ・Ⅴ区	火だすきあり。2mm大粗粒まれに含む。
14	須恵器 杯	―・(8.2)・(2.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部糸切り→周縁部回転ヘラ切り	底部1/2	△	ケン	2~3mm大茶褐色粒子含む。
15	須恵器 杯	―・(7.6)・(2.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部糸切り→周縁ナデ	底部1/3	△	Ⅳ区	火だすきあり。見込み磨耗。細かい黒色粒子含む。
16	須恵器 杯	14.2・―・(3.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/4	△	Ⅵ区	細砂粒含む。
17	須恵器杯 円板	9.0・8.6・0.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部完	○	Ⅱ区	黒色細粒子含む。
18	須恵器 杯	(12.8)・(8.0)・4.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/4	△	Ⅱ・Ⅴ区	細白色粒多く含む。
19	須恵器 杯	(13.2)・(7.2)・3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→ヘラナデ	1/3	△	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ区	緻密、細かい。わずかに黒色細粒含む。
20	須恵器 杯	―・(6.8)・(1.2)	内 ロクロナデ→刷毛ナデ 外 ロクロナデ→底部ヘラナデ	底部1/2	△	Ⅳ区	2mm大褐色粒子含む。見込み磨耗。
21	須恵器 杯	(14.2)・(9.2)・3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部ヘラケズリ→ヘラケズリ	1/3	△	Ⅲ区	2~3mm大褐色粒子含む。
22	須恵器 杯	15.2・7.4・3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ →底部回転ヘラ切り→ヘラナデ	3/4	△	Ⅳ区	1mm大黒色粒子含む。
23	須恵器 杯	(13.2)・(6.2)・3.5	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→ヘラナデ	1/3	△	Ⅲ区	砂っぽい、細かい黒色粒子含む。
24	須恵器 杯	(13.6)・(9.6)・3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部手持ヘラケズリ	1/3	△	Ⅳ区	火だすきあり。(内面見込み磨耗)黒色粒子含む。
25	須恵器 杯	―・8.2・(3.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部ヘラケズリナデ	底部3/4	△	Ⅵ区	褐色粒子1mm大少し含む。底部磨耗。
26	須恵器 長頸壺	9.0・―・(1.7)	内 ロクロナデ 自然釉 外 ロクロナデ			Ⅳ区	
27	須恵器 壺	5.4・―・(5.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁3/4	△	Ⅰ区	緻密。
28	須恵器 壺	(16.2)・―・(6.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/8	△	Ⅰ・Ⅱ区	
29	須恵器 壺	―・9.2・(4.5)	内 ロクロナデ 自然釉 外 胴部ヘラケズリ→底部回転糸切り→高台貼付	底部1/3	△	Ⅴ区	高台底磨耗
30	須恵器 甕	(24.2)・―・(4.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/12	△	Ⅱ区	1mm大砂粒含む。
31	須恵器 甕	(23.4)・―・(6.8)	内 ロクロナデ 自然釉 外 ロクロナデ→波状文	口縁1/12	△	Ⅴ区	
32	須恵器 甕	―	内 ロクロナデ 自然釉 外 タタキ→ヨコナデ	口縁破片	拓	Ⅳ区	
33	須恵器 甕	―	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁破片	拓	Ⅱ区	
34	須恵器 甕	―	内 口縁ロクロナデ・胴部ナデ 外 ロクロナデ・胴部タタキ	頸部破片	拓	Ⅵ区	
35	須恵器 甕	―	内 ナデ 外 タタキ	胴部破片	拓		No.2
36	須恵器 甕	―	内 タタキ 外 タタキ	胴部破片	拓	Ⅰ・Ⅲ区	
37	土師器 甕	―・(6.6)・(2.3)	内 磨耗 外 ヘラケズリ?	底部1/2	△	Ⅱ区	全体に器面あれる。砂質、緻密。
38	土師器 杯	(15.0)・―・(3.6)	内 剥落 黒色処理 外 剥落	1/4	△		内黒。
39	土師器 杯	―・(7.6)・(3.2)	内 ミガキ→黒色処理 外 ロクロナデ→底部ヘラケズリ?	底部1/2	△		
40	土師器 杯	(13.8)・―・(2.9)	内 ミガキ→黒色処理 外 ヨコナデ→黒色処理	1/6	△	Ⅰ区	
41	土師器 甕	(20.6)・―・(8.1)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	1/6	△		砂質、緻密。
42	土師器 甕	(10.4)・―・(5.5)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	1/8	△	Ⅳ区	まれに5mm大砂粒含む。
43	土師器 甕	(15.0)・―・(5.1)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ロクロナデ・胴部ヘラケズリ	1/3	△	カマド	
44	土師器 甕	(20.2)・―・(6.5)	内 器面あれる 外 口縁ヨコナデ・胴部ロクロナデ	1/8	△	Ⅲ区	1mm大赤色粒子含む。
45	土師器 甕	―・5.0・(4.2)	内 ナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部完	○		No.3 砂質、緻密。
46	土師器 甕	―・(5.2)・(5.7)	内 ナデ 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/3	△		砂質、緻密。
47	土師器 甕	―・4.2・(3.0)	内 剥落 外 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	底部1/2	△	Ⅳ区	赤色粒子含む。
48	土師器 把手	―	内 外	把完 破片	△		

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
49	土製 円板	4.3・4.1・0.9	内 外	ナデ ミガキ			完	○		
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
50	砥石	〈7.6〉	3.7	2.9	170	IV区		凝灰岩		
51	スリ石	11.0	5.2	4.2	280	ケン				
52	凹石	15.0	14.6	7.3	1,870			No.1		

3) H3号住居址 (第12図・図版一・二・八・十六)

て7グリットにあり、礫層中に構築している。ほぼ住居の全容が残る。方形に近い隅丸長方形を呈し、南北303cm、東西338cm、壁残高は最大30cmを測る。

主軸はN-5°-Wで北にカマドを持つ。覆土は粘質土に大小の円礫を含み、床面は河床礫を含む暗褐色土を貼り、締まっていた。北西には周溝がある。

カマドは北壁中央より東にあり、南北長84cm、両袖は地山を掘り残し、右袖は芯材に円礫を使用している。支脚石が奥壁に接して立つ。

支柱穴は4個検出したが深いものではなく、明確ではない。下面は礫床である。南壁中央下には径48cm深さ16cmの円形ピットがあった。

出土遺物には須恵器・土師器、混入品の打製石斧がある。

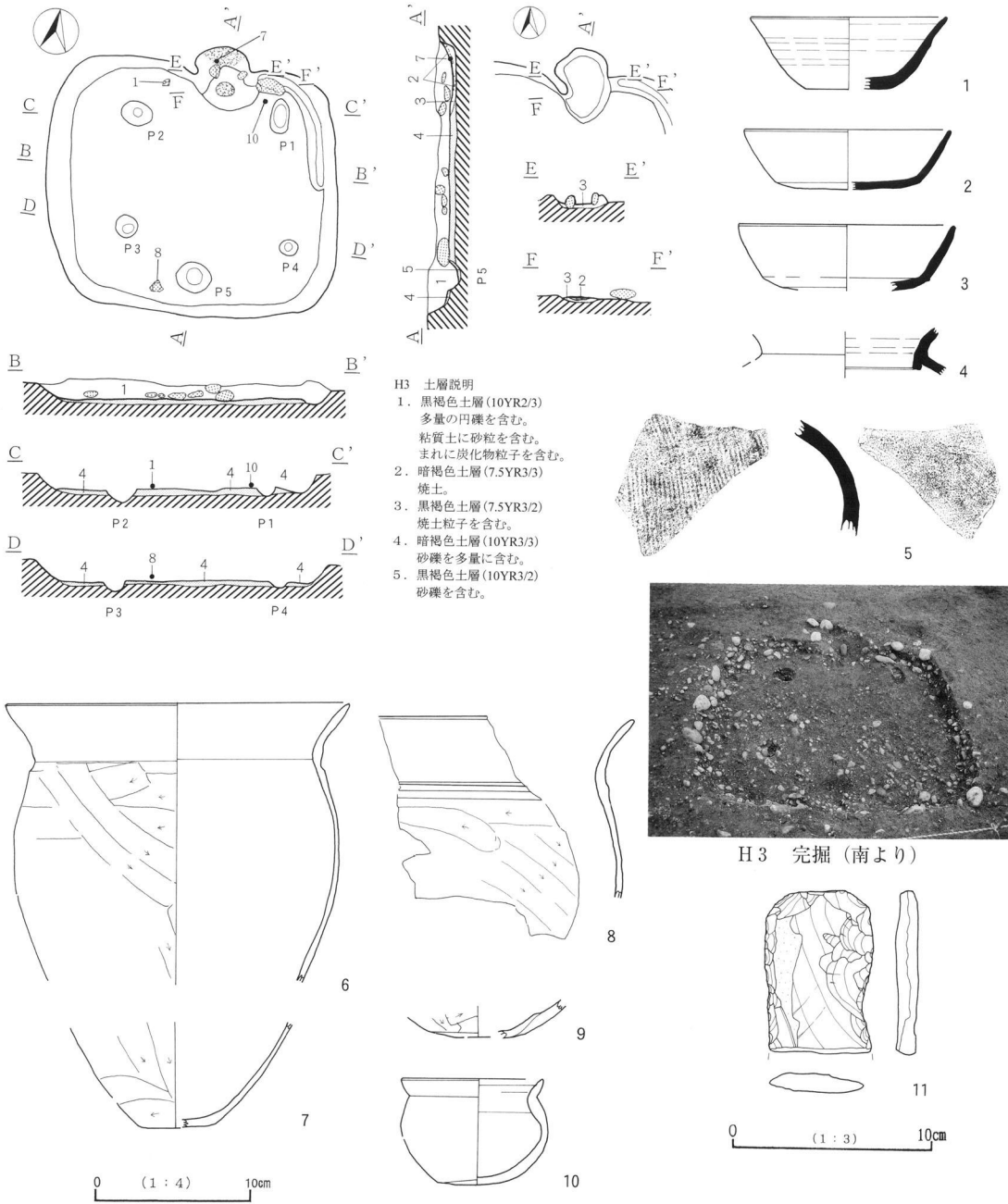
須恵器は杯、壺、甕があり、壺・甕は破片である。須恵器杯の1は底径が小さく、比高のあるもので底部は回転ヘラ切りされる。3は回転ヘラ切り後ヘラナデが施される。

土師器甕は6～9が武蔵甕で、カマドから出土した6は口縁部が「く」字形に外傾し、口縁が長い。10の小型の甕は丸底気味であり、胴部は磨耗してはつきりしないが、頸部から斜め手前にヘラケズリされているようである。比熱をうけている。

これらより本址は奈良時代であろう。

号番	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 杯	(13.2)・(6.0)・4.8	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラ切り			1/3	△		内外面磨耗。No.2 1～2mm大赤色粒子含む。
2	須恵器 杯	(13.8)・(7.0)・4.0	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラ切り			1/2	△	Ⅲ区	1～2mm大黒色粒子含む。外部一部 磨耗。見込みことに磨耗。
3	須恵器 杯	(14.6)・(11.2)・4.3	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部ヘラナデ			1/4	△	I区	極まれに1～2mm大黒色粒子 含む。砂質。
4	須恵器 平瓶	---・(3.1)	内 外				破片	△	Ⅲ区	わずかに黒色砂粒含む。 白色細粒含む。
5	須恵器 甕	-	内 外	ナデ タタキ			破片	拓	Ⅱ区	
6	土師器 甕	(13.0)・---・(18.6)	内 外	口縁ヨコナデ・胴部ナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ			1/3	△	カマド	細かい砂粒含む。
7	土師器 甕	---・5.0・(7.0)	内 外	ナデ 胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ			底部1/2	△	カマド	砂質。 No.4
8	土師器 甕	-	内 外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ			口縁破片	△		No.3
9	土師器 甕	---・6.4・(2.4)	内 外	ナデ ヘラケズリ			底部1/4	△		砂粒含む。
10	土師器 甕	(9.4)・5.2・7.0	内 外	ナデ 器面あれる 胴部ヘラナデ・器面あれる・底部手持ヘラケズリ			3/4	△		～2mm大砂粒含む。No.1
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
11	打斧	8.2	5.5	1.0	70	IV区				

第4表 H3号住居址出土遺物一覧表



第12図 H3号住居址

4) H4号住居址 (第13図・図版二・八・十六)

ち8グリットにあり、礫層中に構築している。単独ピットと重なり切られるが、ほぼ全容を残している。南北392cm東西384cmを測り、方形を呈する。最大の壁残高は30cmである。主軸はN-2°-Eでほぼ北をさし、カマドは北壁中央に設けられる。覆土は円礫を含む黒褐色土である。

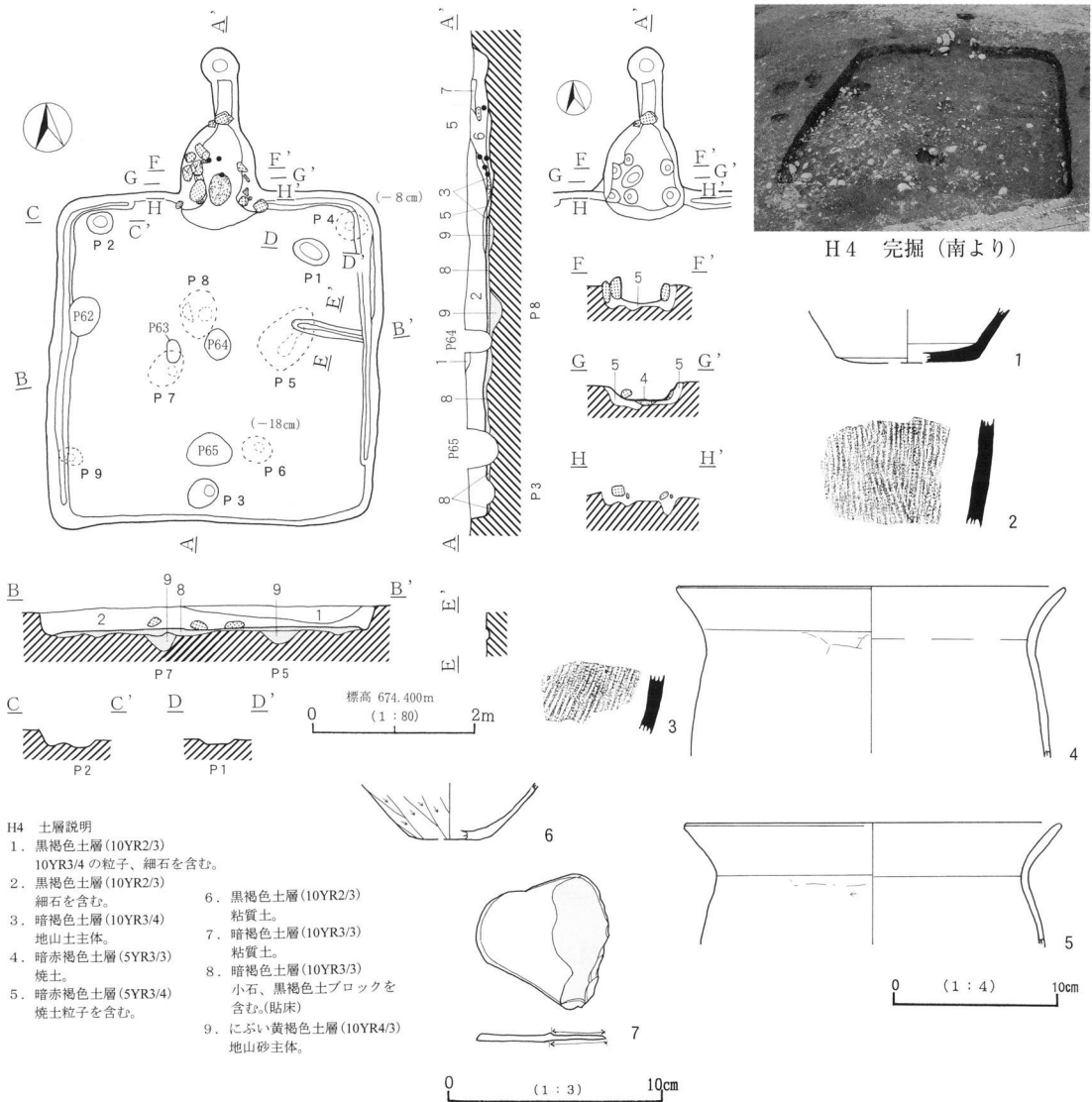
カマドは、住居の外周線から飛び出し、長さ132cmの燃焼部に92cmの細長い煙道が付き、カマドの間口は48cmを測る。カマド内からは武蔵甕が出土する。

主柱穴はP1・2があるがいずれも浅い。南壁下中央に径40cm深さ12cmを測るP3がある。床面は礫を含み締まっていた。南壁を除いて周溝が廻っている。床下にはピットがあるが伴うかは分からない。遺物は須恵器・土師器・スリ石がある。遺物は少ない。

須恵器は杯とタタキ目の甕片がある。杯は破片で底部丸底気味、磨耗している。実測はできないが高台付杯片がある。

土師器は武蔵甕でカマドから出土している。口縁部形態が「く」字形を呈する。口縁に最大径を持っている。

これらより本住居址は奈良時代であろう。



第13図 H4号住居址

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 杯	-(8.8)・(3.3)	内	ロクロナデ			底部1/3	△	I区	
2	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ	破片	拓	I区	
3	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ	破片	拓	IV区 1層	
4	土師器 甕	(24.2)・-(10.5)	内	磨耗			口縁1/3	△	カマド	砂質。
5	土師器 甕	(23.6)・-(7.5)	内	口縁ヨコナデ			口縁1/3	△	II区 2層	
6	土師器 甕	-(4.8)・(3.5)	内	ナデ	外	ヘラケズリ	底部1/3	△	カマド	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
7	石製品	6.3	6.2	0.4	20	床直				

第5表 H4号住居址出土遺物一覧表

5) H5号住居址 (第14・15図・図版二・八・九・十六・十八)

そ8グリットにあり、南が駐輪場であったため一度に調査できず2回に分けて調査している。南北432cm、東西496cmで東西に長軸を持ち、隅丸長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、P431に切られている。壁の最大高は47cmを測る。

主軸はN-5°-Wを測る。覆土は礫・砂粒を多く含み、床面は暗褐色土ブロックと礫を含む土で貼り床され、締まっていた。

カマドは北壁中央にあり、両袖が残っていた。右袖は安山岩の切り石を袖芯にして、粘土を貼って構築している。付近に崩壊した粘土とカメ片が潰れてみられた。燃烧部は奥行96cm、間口120cmの隅丸長方形を呈し、火床からは支脚石痕が複数みられることから、2口のカマドとみられる。カマドの左袖の外側付け根左には径40cmの浅いピットがある。

主柱穴は4個あり、東西柱間260cm、南北間200cmを測り、P1からP3は柱痕が分からない径60~72cm深さ44~56cmのピットである。P4は径36cmほどの柱痕が看取された。南壁下には長径60cmの楕円形で、深さ32cmのピットがある。堀方からは現カマド前面に焼土がみられ、旧カマドがあったようで、住居址は拡張されたようである。

出土遺物には須恵器、土師器、スリ石、青銅製の留め金具、混入品の石製の鍬がある。

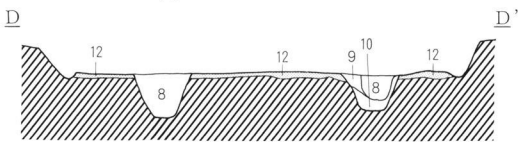
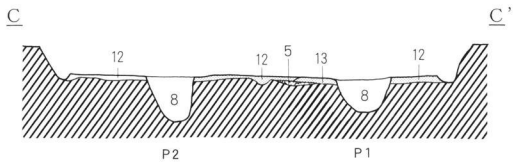
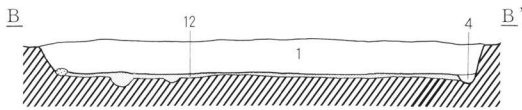
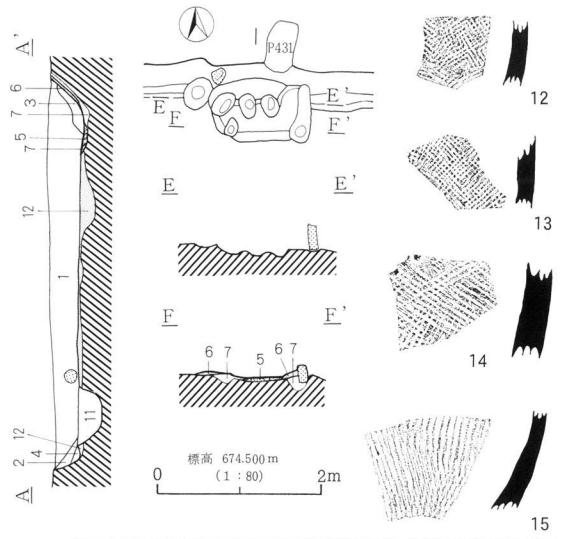
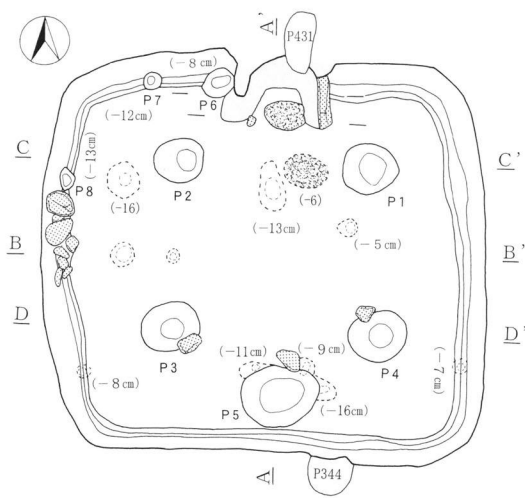
須恵器は高台付杯、杯、壺、甕、鉢がある。1の高台付杯は浅く、高台の外稜が出る。高台底は磨耗している。2は器高の深いタイプである。底は平で、高台は外に開き接地面は細い。杯は底部のあるものは10の杯が静止糸切り痕を残し、他は回転ヘラ切り痕を残す。3・8はヘラ記号の沈線があり、4・5はヘラナデ痕を残す。破片では壺の肩部片、タタキ目の甕片がある。21は鉢で外反する短い口縁から上位で肩が張る。内外面ロクロ調整される。

土師器は杯と武蔵甕がある。土師器杯は、内湾する口縁、底部は平底。ヘラナデ調整される。内面はミガキ黒色処理される。土師器甕は口縁部形態「く」字形を呈し、口縁部に最大径を持つ。

これらより本住居址は奈良時代であろう。

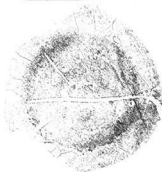
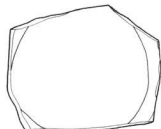
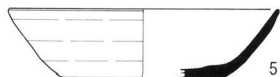
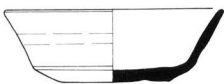
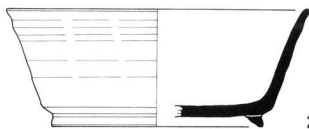
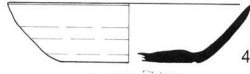
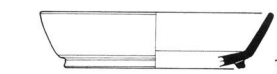
番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 高台付杯	(14.4)・(11.0)・3.5	内	ロクロナデ			1/3	△	IV区	
2	須恵器 高台付杯	(18.6)・(13.0)・7.2	内	ロクロナデ			1/3	△	III区	1~2mm大黒色粒子少し含む。細白色粒子含む。
3	須恵器 杯	13.5・6.6・4.5	内	ロクロナデ	見込み凸部磨耗		2/3	○	II・III区	1~3mm大黒色粒子まれに含む。ヘラ記号あり。
4	須恵器 杯	(15.0)・(8.2)・3.6	内	ロクロナデ			1/3	△	III区	1~2mm大白色・黒色粒子含む。
5	須恵器 杯	(16.8)・(5.0)・4.2	内	ロクロナデ			1/4	△	床E	1~3mm大赤褐色・白色粒子多く含む。
6	須恵器 杯	14.8・8.8・4.1	内	ロクロナデ			1/3	△	カマド	1~3mm大褐色・白色粒子含む。

第6表 H5号住居址出土遺物一覧表



H5 北側完掘 (西より)

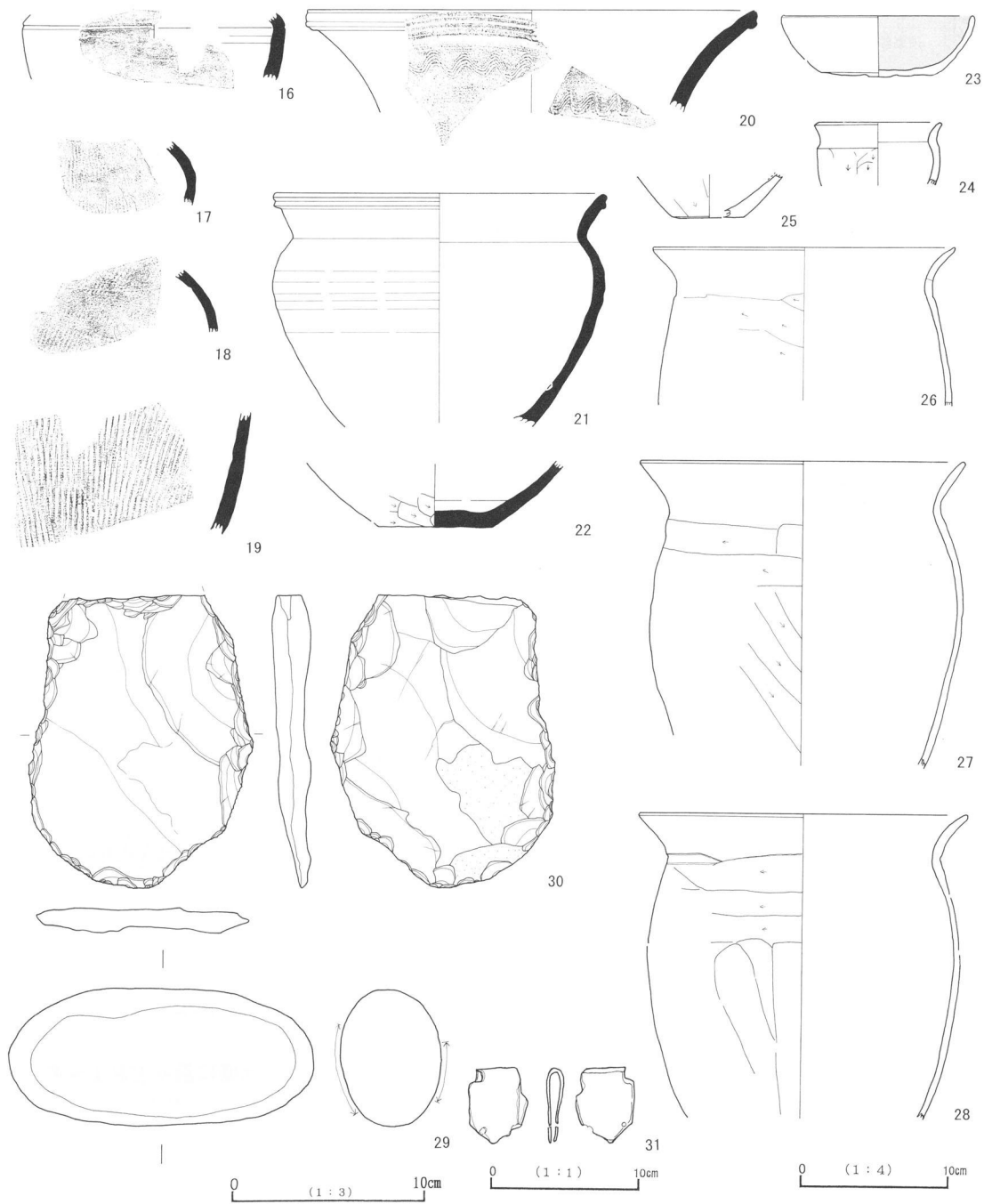
H5 完掘 (西より)



- H5
1. 黒褐色土層(10YR2/3) 礫、砂粒を多く含み、炭化物を少し含む。
 2. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) 砂礫。
 3. 暗褐色土層(10YR3/4) 粘土粒子主体。炭化物を含む。
 4. 黒褐色土層(10YR2/3)(周溝)
 5. 褐色土層(7.5YR4/3) 焼土。
 6. 暗褐色土層(10YR3/3) 粘土。
 7. 黒褐色土層(10YR2/3) 焼土粒子をいくらか含む。
 8. 黒褐色土層(10YR2/3) 礫、砂粒を含む。
 9. 黒褐色土層(10YR3/2) 小礫を少し含む。
 10. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂礫を含む。
 11. 黒褐色土層(10YR2/3) 大礫を含む。
 12. 暗褐色土層(10YR3/3) 暗褐色土ブロックと砂礫を含む(貼床)
 13. 砂利。

0 (1:4) 10cm

第14図 H5号住居址(1)



第15图 H5号住居址 (2)

番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考			
7	須恵器 杯	14.0・--・(3.7)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/4	△	Ⅱ区	細かい白色粒子含む。	
8	須恵器 土板 転用	7.8・5.7・0.9	内外	ロクロナデ	ロクロナデ底部ヘラ切り→ナデ		底部1/2	○	Ⅰ区	ヘラ記号あり。	
9	須恵器 土板	9.4・7.6・0.7	内	ロクロナデ	外	底部回転ヘラ切り	底部完	○	カマド	杯転用。	
10	須恵器 杯	--・7.0・(2.5)	内外	ロクロナデ	ロクロナデ→底部静止糸切り?→ナデ		底部3/4	○	Ⅳ区	1~3mm大褐色、小石多めに含む。	
11	須恵器 杯	--・8.0・(3.1)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部ヘラケズリ	底部1/3	△	Ⅰ・Ⅱ区	1mm大白色粒子含む。	
12	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ	破片	拓	Ⅳ区		
13	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ	破片	拓	Ⅳ区		
14	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ	破片	拓	Ⅳ区		
15	須恵器 甕	-	内	自然釉	外	タタキ	破片	拓	Ⅰ区		
16	須恵器 壺	-	内	自然釉	外	タタキ	破片	拓	Ⅰ区		
17	須恵器 壺	-	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	破片	拓	Ⅳ区		
18	須恵器 壺	-	内	ナデ	外	タタキ	破片	拓	Ⅰ・Ⅳ区		
19	須恵器 甕	-	内	ナデ	自然釉	外	タタキ	破片	拓	Ⅲ区	
20	須恵器 甕	(30.1)・--・(7.0)	内外	ヨコナデ	自然釉 ヨコナデ→波状文		破片	拓	東		
21	須恵器 鉢	(22.3)・(12.8)・(16.0)	内外	ロクロナデ	ロクロナデ		1/10	△	東	1~3mm大黒色粒子まれに細かい白色粒子含む。	
22	須恵器 甕	--・7.8・(4.6)	内外	ロクロナデ	ロクロナデ→下部ヘラケズリ・底部ヘラナデ		1/2	○	東西	細かい黒色・白色粒子含む。	
23	土師器 杯	(13.4)・8.0・4.2	内外	ミガキ	→黒色処理 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→ナデ		3/4	△	Ⅰ区	1~3mm大褐色粒子、細白色・透明粒子含む。	
24	土師器 小型甕	(8.8)・--・(4.4)	内外	ヨコナデ	口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ		口縁1/8	△	Ⅰ区		
25	土師器 甕	--・5.0・(3.0)	内外	ナデ	胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ		底部1/3	△	東	細かい砂粒含む。	
26	土師器 甕	(21.0)・--・(11.0)	内外	ヨコナデ	口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ		口縁1/3	△	カマド	1~3mm大赤褐色粒子含む。	
27	土師器 甕	22.5・--・(21.0)	内外	口縁ヨコナデ・胴部ナデ	口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ 胴部ススける		口縁1/3	△	カマド	極まれに5mm大砂粒含む。1mm大砂粒含む。	
28	土師器 甕	22.8・--・(21.0)	内外	口縁ヨコナデ・胴部ナデ	口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ		口縁3/4	△	カマド 堀方	細かい砂粒含む。緻密。	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考			
29	スリ石	15.9	7.1	5.3	820	Ⅰ区		安山岩			
30	石鋏	(15.2)	(11.7)	(1.9)	340	西側		刃部に使用による磨減痕。溶結・凝灰岩			
31	青銅製品	2.6	2.0	0.1	4.39			両面に2個ずつ穴があく。			

6) H6号住居址 (第16図・巻頭四・図版二・九・十八)

そ11グリットにあり、南北長383cm、東西長392cmを測り、方形を呈す。壁最大残高12cmを測る。この下に内周する別のH22号住居址があり、H22のⅡ・Ⅳ区の床まで下げた段階で重複を確認した。また、Ⅰ区の上面で焼土範囲が検出され、H6として浅い面を別遺構にした。焼土範囲は、ほぼ円形で径52cm深さ8cm範囲にあり、その南北にP11・P12の小ピットがあり、径12・16cm、深さ4cmを測る。置きカマドを設置したのであろうか。

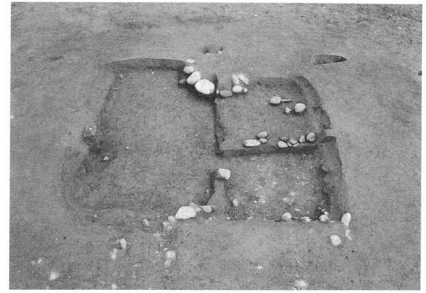
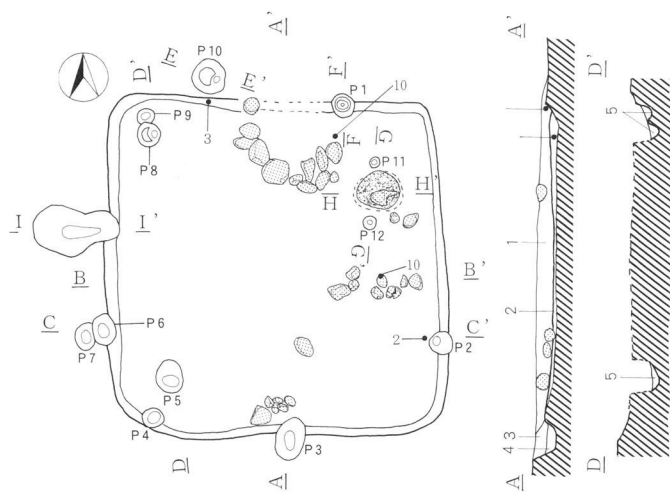
覆土は暗褐色土である。床面は貼り床され、黒褐色土がみられた。柱穴は壁に沿ってP1~P10の浅い小ピットがあり、住居を切っている。北壁際には円礫が径132cmの環状にみられた。

遺物には須恵器・土師器・鉄製の刀子がある。

須恵器は須恵器杯と甕片がある。須恵器杯の1は回転糸切り、2は回転ヘラケズリが施される。器高は浅く、口径と底径の比が0.54~0.6の値となり、底径が口径にたいし小さい値の範囲にある。

土師器は小型の把手が付くものと甕がある。8の中型の甕は口縁が直線的に外傾し、胴部上部は球形に張る。口縁部横ナデ、外面肩部中位より横のヘラケズリが施される。10の甕は口縁が外傾外反し「く」字形を呈し、胴肩部が張るものである。口縁部横ナデ、胴部に横方向のヘラケズリがみられる。長胴の甕がなく、これらの鉢器形だけが出土するケースは少ない。住居址Ⅰ区の中央に焼土範囲のみが残り、鉢器形だけがⅠ区から出土していることなどは、本址の性格と関連があるのであろうか。

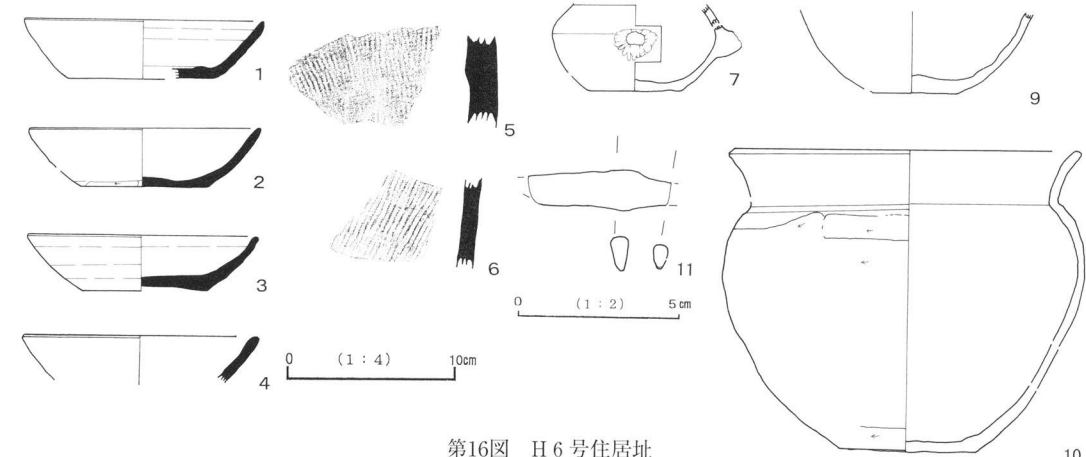
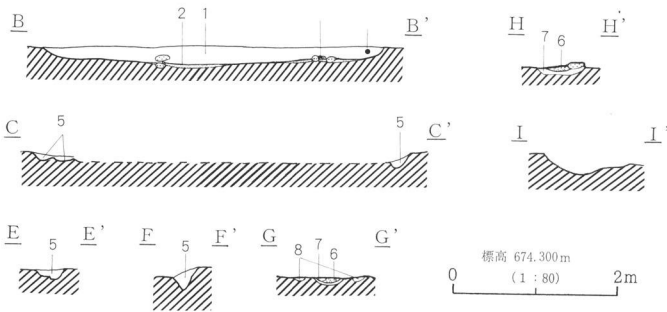
これらより本址は奈良時代であろう。



H6 完掘 (西より)

H6 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
10YR3/4 ブロック、炭化物粒子含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
10YR5/4 粒子を含む。貼床か、締まる。
3. 灰黄褐色土層 (10YR5/2)
炭化物、焼土粒子含む。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4)
地山崩壊層。
5. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
炭化物、10YR5/4 粒子を含む。
6. 黄褐色土層 (10YR5/8)
強く焼け込む。
7. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
焼土化。弱い焼け込み。
8. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
焼土粒子含む。



第16図 H6号住居址

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 杯	(14.8)・(9.0)・3.6	内 ロクロナデ 磨耗 外 ロクロナデ 磨耗→底部回転糸切り	1/3	△		~1mm大黒色・白色粒子含む。火だすきあり。内外磨耗。
2	須恵器 杯	14.2・7.8・3.6	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→下部ヘラケズリ・底部回転ヘラケズリ	1/2	△	IV区	1~3mm大白色粒子含む。火だすきあり。内面磨耗。No.2
3	須恵器 杯	(14.2)・7.8・3.5	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	3/4	△	I区	1~3mm大白色粒子多く含む。火だすきあり。No.4
4	須恵器 杯	(14.6)・・・(2.8)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/3	△		細かい白色粒子多く含む。
5	須恵器 甕	-	内 ナデ 外 タタキ	破片	拓	上I区	

第7表 H6号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
6	須恵器 甕	-	内 外	ナデ タタキ			破片	拓	上Ⅳ区	
7	土師器 把手付小甕	一・5.6・(5.4)	内 外	ロクロナデ ケズリ→ミガキ? 器面荒れる。			底部完	○	上Ⅰ区	細かい砂粒含む。
8	土師器 甕	(13.8)・一・(8.3)	内 外	器面荒れる 口縁ヨコナデ・胴上ヨコナデ・中位横方向ヘラケズリ			口縁1/3	△	カマド Ⅰ区	砂粒・白色・褐色粒子含む。
9	土師器 小型甕	一・5.0・(5.0)	内 外	器面全体に荒れる 器面全体に荒れる・底部静止糸切り			底部3/4	△	上Ⅲ区	
10	土師器 甕	(21.7)・(8.5)・18.3	内 外	ヨコナデ 口縁・頸部ヨコナデ・胴部ヘラケズリ・底部ナデ			3/4	△	上	No.3 No.1
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置			備考	
11	鉄製刀子	(4.3)	1.2	0.5	5.56	Ⅱ区				

7) H7号住居址 (第17図・巻頭四・図版三・十六)

あ9グリットにあり、調査区の南東端にあたり、校庭の排水溝によりカマド、床面の一部が壊されている。西と東で攪乱を挟んで2段階に調査している。南北311cm・東西344cmの方形を呈す。壁最大残高29cmを測る。主軸はN-17°-Wを計る。カマドは北壁中央にあり、左袖が残るが、半分以上攪乱されている。北東に径36cm、深さ24cmのピットがある。

覆土は灰黄褐色土で、シルト質土・礫を含む。床面は礫とシルト質土を堅め、締まる。主柱穴は検出されていない。

出土遺物には須恵器・土師器、砥石がある。砥石は凝灰岩製である。

須恵器甕はタタキ目の施される卵形の丸底の底部である。

土師器甕が三个体あり、3・4は完存する。3の武蔵甕は長胴で、口縁部形態が「く」字形態、口縁に最大径を持つ。

4は長胴甕の形態を持つもので、口縁が外反し、厚手で胴部に縦のヘラケズリが施される。2は下部を欠損し、筒状で、床面に食い込み、器台として再利用したようである。

これらより本址は奈良時代であろう。

8) H8号住居址 (第18図・巻頭四・図版三・十・十六)

し11グリットにあり、M1と重複し切っている。南北304cm、東西360cmの東西に長い長方形を呈す。カマドは北壁にあり、中央より東に寄る。壁高は最大で51cmを測り、斜めに立ち上がる。主軸はN-2°-Eを測りほぼ北を指す。

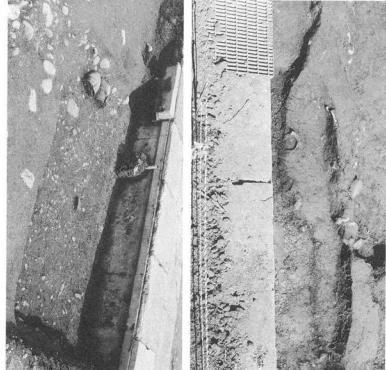
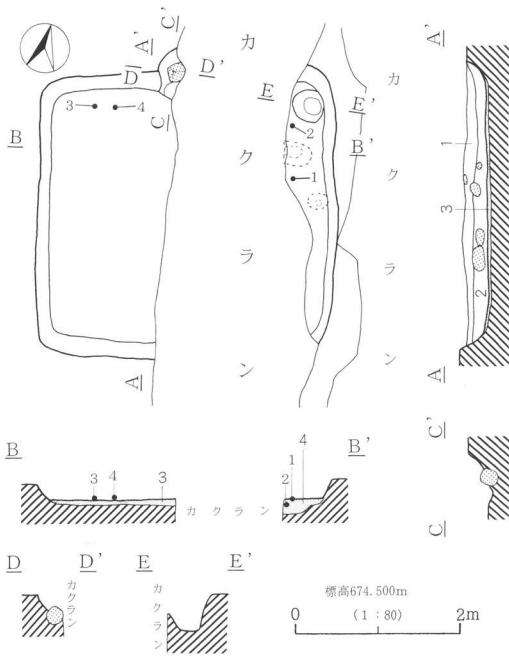
カマドは袖を掘り残し、間口100cm、奥行72cmを測る。円形の燃焼部には支脚石が2個直立していた。煙道は幅36cm、長さ92cmで長細く先端は円形を呈す。袖には火床礫を芯材に入れ、粘土で覆っている。覆土は黒褐色土で、床面は黄褐色土を貼っている。北西隅と南壁下一部を除いて周溝が廻っている。北西隅には浅い落ち込みに粘土がみられた。南壁下には52cm深さ20cmのピットがある。

出土遺物には須恵器・土師器、スリ石、混入品の石製鋏がある。石製鋏はM1に伴うものであろう。

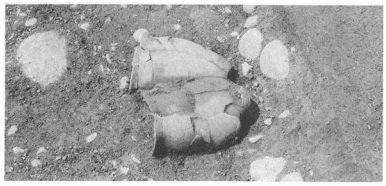
須恵器は杯と甕がある。1の須恵器杯は丸底気味であり、底部はヘラナデされる。2の須恵器甕は口縁部が大きく外反し、突帯を持つ。外面には波状文が施される。3の甕は肩部に丸みを持ち、丸底気味の底部である。格子状のタタキ目が施される。内面はナデ調整される。

土師器甕は中型で口縁が短く外反、長胴で丸底に近い。胴部は縦方向のヘラケズリが施される。6は小型のロクロ甕と思われる。口縁部横ナデ、胴部は器面が傷んでいるため分からないがロクロ痕を残している。7の小型甕の外面はヘラケズリされ、内面にはロクロ痕が残る。

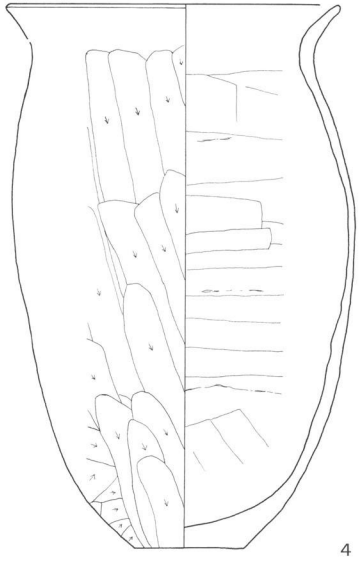
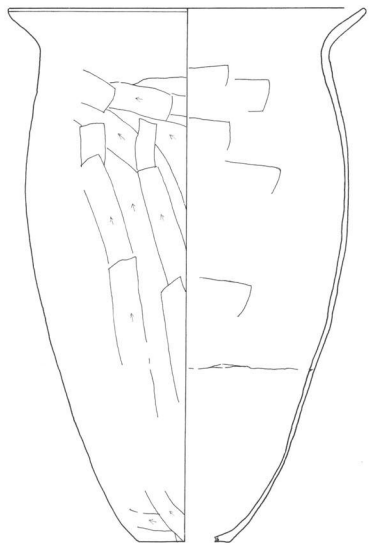
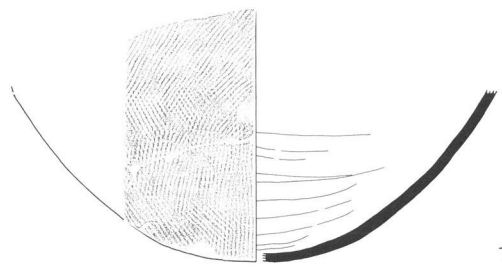
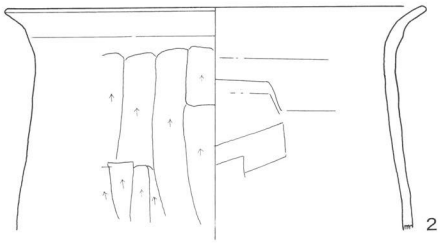
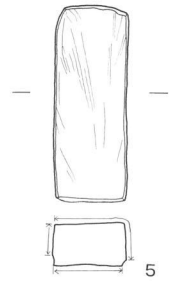
これらより本址は奈良時代であろう。



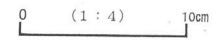
H7 完掘 東と西 H7 壁出土状況



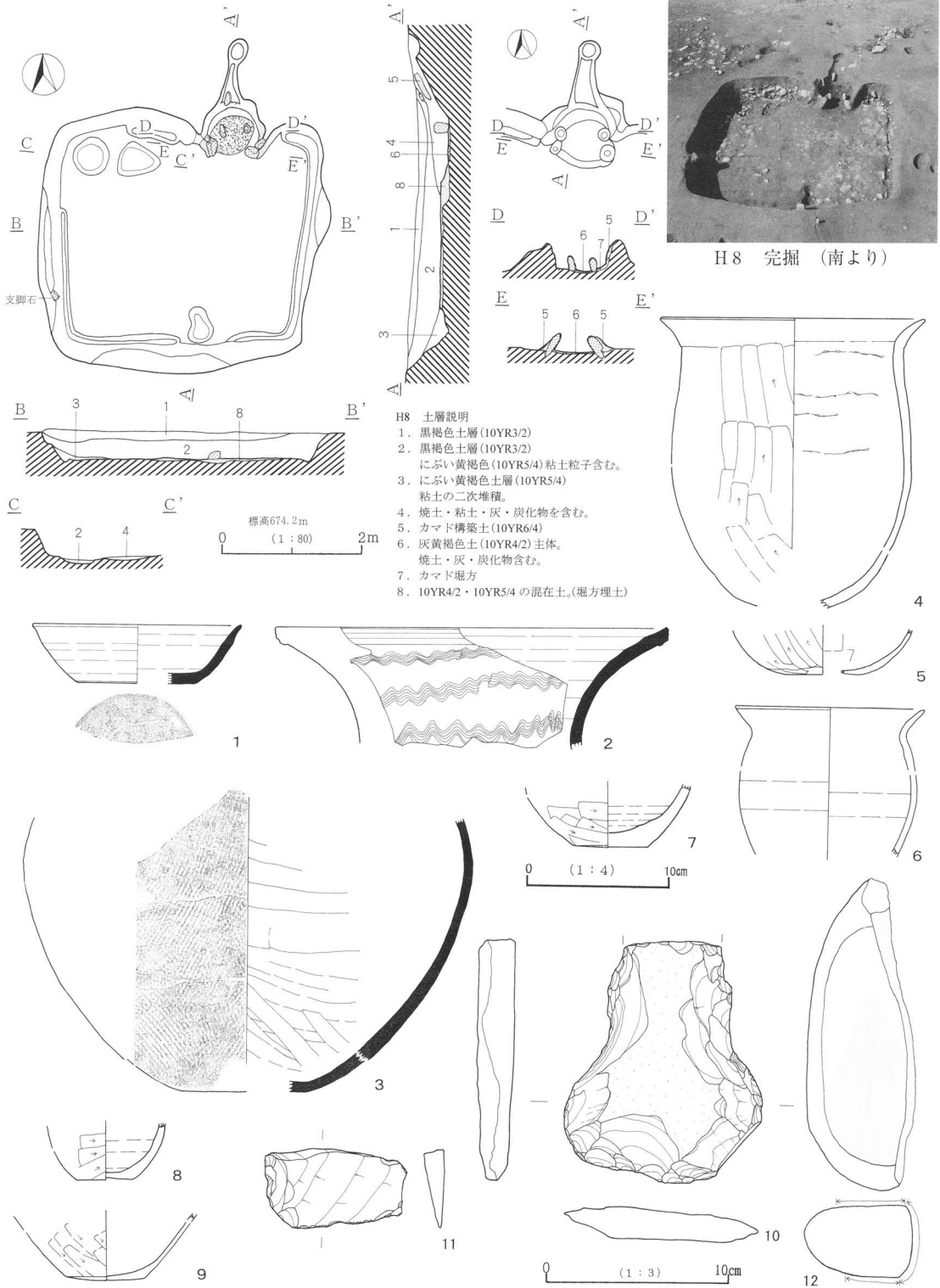
H7 遺物 (東側)



- H7 土層説明
1. 灰黄褐色土層(10YR5/2)
10YR6/4シルト質粘土粒子、
礫を少し含む。
 2. 灰黄褐色土層(10YR4/2)
礫を含む。
 3. 灰黄褐色土層(10YR4/2)
粘質土。礫を多く含む。
表層に10YR6/4の粘土有り。
 4. 暗褐色土層(10YR3/4)
黒褐色土に地山土を多量に含む。



第17図 H7号住居址



第18図 H8号住居址

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 甕	—・?・〈10.4〉	内	ヘラナデ・ナデ	外	タタキ目	底部1/3	△		No.4
2	土師器 甕	25.9・—・〈13.7〉	内 外	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ			口縁1/2	△		赤色粒子、黒褐色粒子、白色粒子を含む。No.3
3	土師器 甕	21.9・5.6・32.7	内	ヘラナデ	外	ヘラケズリ	完	○		No.2
4	土師器 甕	20.6・6.7・33.6	内 外	胴部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ 口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ			完	○		赤褐色・黒色・白色粒子を含む。底部木葉痕あり。No.1
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
5	砥石	9.0	3.4	2.1	130	西側		凝灰岩		

第8表 H7号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 杯	(15.0)・(8.4)・〈4.3〉	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→底部手持ヘラナデ			1/3	△	カマド	
2	須恵器 甕	(28.4)・—・〈8.7〉	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→撫描波状文 (5本)			1/8	△	Ⅲ区	
3	須恵器 甕	—・(8.9)・〈19.7〉	内	ヘラナデ・ナデ	外	タタキ目	1/4	△	カマドⅠ～Ⅲ区	
4	土師器 甕	(19.4)・—・〈20.9〉	内	ナデ	外	ヘラケズリ	1/2	△	カマドⅠ・Ⅲ・Ⅳ区	
5	土師器 甕	—・(5.4)・〈3.4〉	内	ヘラナデ	外	ヘラケズリ	底部1/3	△		白色・赤褐色粒子少量含む。
6	土師器 甕	(13.8)・—・〈10.7〉	内 外	ロクロナデ?→口縁部ヨコナデ ロクロナデ?→口縁部ヨコナデ			1/4	△	カマド	白色・赤褐色粒子少量含む。
7	土師器 甕	—・5.4・〈4.6〉	内 外	ロクロナデ ヘラケズリ→底部手持ヘラケズリ			底部完	○	Ⅰ区	赤褐色粒子少量含む。
8	土師器 小甕	—・4.1・〈4.0〉	内	ロクロナデ	外	胴下部・底部ヘラケズリ	底部完	○	Ⅰ区	白色・赤褐色粒子含む。
9	土師器 甕	—・5.7・〈4.8〉	内 外	ナデ 胴部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ 磨耗			底部3/4	△	カマドⅢ区	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
10	石鋏	〈13.2〉	10.8	1.8	350	Ⅲ区		溶結凝灰岩		
11	スケーパー	7.8	4.4	1.1	50	Ⅱ区		黒色頁岩		
12	スリ石	16.9	6.1	3.9	600	Ⅳ区				

第9表 H8号住居址出土遺物一覧表

9) H9号住居址 (第19図・図版三・十・十六)

せ12グリットにあり、M1と重複し切っている。南北294cm、東西364cmを測り、東西方向に長い長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-1°-Wを測り、ほぼ北を指す。

覆土は上層より、灰黄褐色土・黒褐色土・褐色土である。床面は褐色土を含む黒褐色土を貼っている。南壁中央を除いて周溝が壁下を廻る。

カマドは住居址プランの内側に設けられ、間口104cm、奥行き80cm、長方形を呈するカマドである。袖芯に円礫を立て粘土を貼る。煙道は幅32cm長さ132cmを測る。

カマドの右脇のピットは円形で径36cm、深さ12cmを測る。主柱穴はP1であろうが東にピットがない。

出土遺物には須恵器・土師器・石製鋏が3点ある。石製鋏はM1からの混入品であろう。土器の残存度は低く破片状のものである。

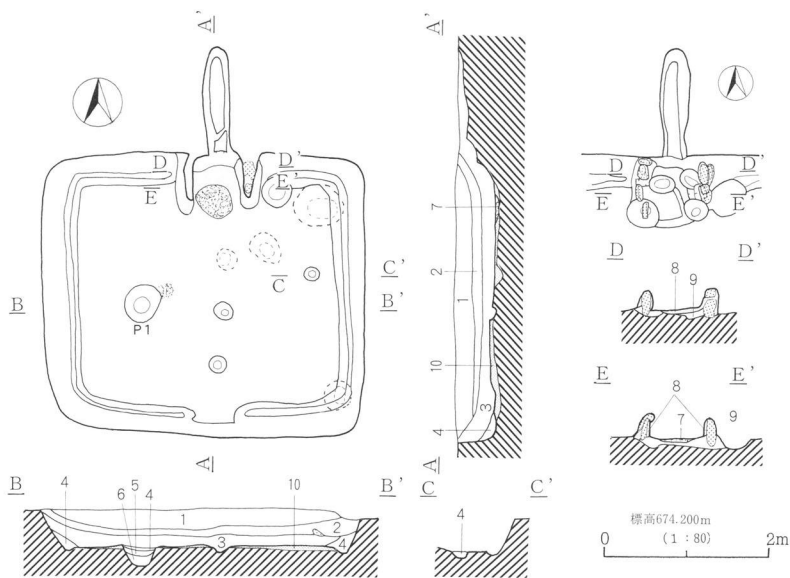
須恵器は杯・甕片がある。杯は1が底部回転ヘラ切り痕を残す。2は底部が上げ底状になり、粘土を貼り付け厚くしている。須恵器甕片は外面にタタキ目を施す。

土師器は器肉の薄い武蔵甕下部とロクロ調整の甕がある。

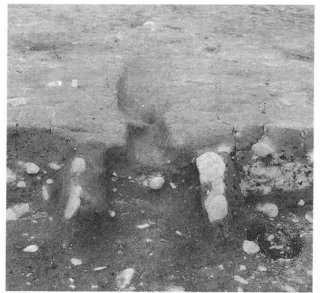
これらより本址は奈良時代であろう。

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 杯	—・(8.4)・〈1.8〉	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	底部1/4	△	Ⅲ区	白色粒子を含む。赤変
2	須恵器 杯	—・(5.5)・〈1.3〉	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部ヘラナデ	底部1/4	△	Ⅱ区ベルト	
3	須恵器 杯	(15.8)・—・〈4.3〉	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/3	△	Ⅳ区・Ⅳ区ベルト	黒色粒子を含む。
4	須恵器 甕	—	内	ナデ	外	タタキ目	破片	拓	Ⅱ区ベルト	
5	須恵器 甕	—	内	ヘラナデ	外	タタキ目	破片	拓	Ⅱ区ベルト	
6	須恵器 甕	—	内	ナデ	外	タタキ目	破片	拓	Ⅱ区	

第10表 H9号住居址出土遺物一覧表



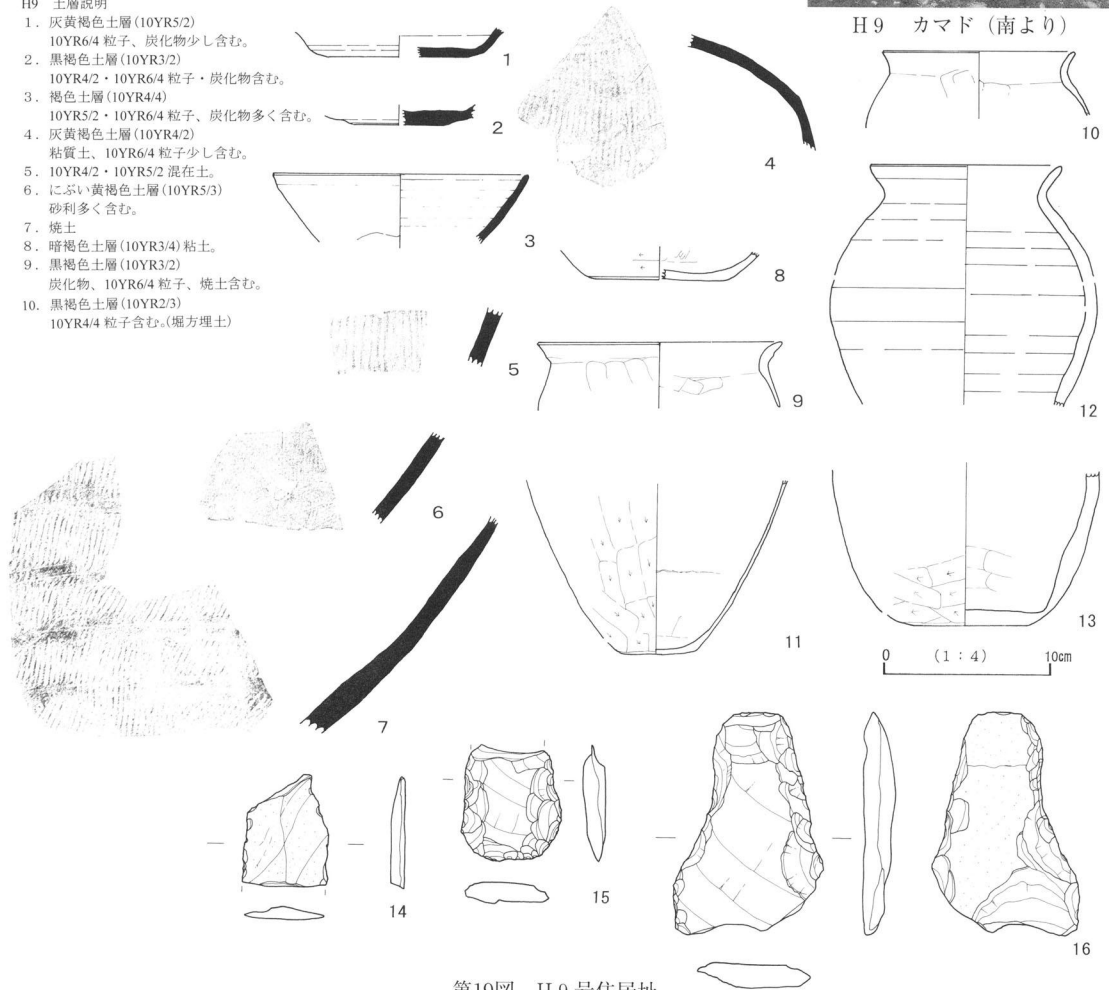
H9 完掘 (北より)



H9 カマド (南より)

H9 土層説明

1. 灰黄褐色土層 (10YR5/2)
10YR6/4 粒子、炭化物少し含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
10YR4/2・10YR6/4 粒子・炭化物含む。
3. 褐色土層 (10YR4/4)
10YR5/2・10YR6/4 粒子、炭化物多く含む。
4. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
粘質土、10YR6/4 粒子少し含む。
5. 10YR4/2・10YR5/2 混在土。
6. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3)
砂利多く含む。
7. 焼土
8. 暗褐色土層 (10YR3/4) 粘土。
9. 黒褐色土層 (10YR3/2)
炭化物、10YR6/4 粒子、焼土含む。
10. 黒褐色土層 (10YR2/3)
10YR4/4 粒子含む。(堀方埋土)



第19図 H9号住居址

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
7	須恵器 甕	-	内	あて具痕→ナデ	外	タタキ目	破片	拓	I・II・IV区	白色胎土。産地異なる?美濃?
8	土師器 甕	-(7.6)・(1.8)	内	ヘラナデ→ミガキ(暗文?)	外	底部外周手持ヘラケズリ	底部1/3	△	I・III区	白色粒子、赤褐色粒子を含む。
9	土師器 甕	(15.0)・-(4.1)	内	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	外	口縁ヨコナテ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4	△	III区	磨耗。白色粒子少量含む。
10	土師器 小型甕	(11.8)・-(3.9)	内	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	外	口縁ヨコナテ→胴部ヘラケズリ	口縁1/8	△	IV区ベルト	赤褐色粒子、白色粒子を含む。9と同個体か。
11	土師器 甕	-(4.7)・(10.7)	内	ヘラナデ	外	ヘラケズリ→底部手持ヘラケズリ	底部完	△	I区・カマド・カマド堀方	
12	土師器 甕	(11.8)・-(14.8)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/10	△	I・II区・II区ベルト	8と同個体。
13	土師器 甕	-(7.3)・(9.5)	内	ヘラナデ	外	ヘラケズリ→底部ヘラ切り	底部完	△	II区・II区ベルト・IV区ベルト	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
14	石製鍬	(5.2)	4.0	0.6	20	IV区		溶結凝灰岩		
15	石製鍬	(5.4)	4.6	1.1	30	II区		スクレーパーとして使用か。頁岩。		
16	石製鍬	(10.3)	(6.9)	1.5	110	I区				

10) H10号住居址 (第20図・図版三・十・十一・十八)

つ13グリットにあり、南北308cm、東西383cmの東西に長い隅丸長方形を呈す。壁高は最大で、36cmを測る。カマドを北壁中央にもち、主軸方位はN-5°-Wを指す。覆土は灰黄褐色土である。

カマドは礫を立て袖芯とし、粘土を貼って構築している。幅60cm奥行き64cmの四角いカマドである。両脇にはピットがあり、右側のピットは焼土・炭化物を含んでいた。

支柱穴はP1・P2の東西の2本であるが深いものではない。西壁の中央に張り出しがあり、ピットの痕跡であるかもしれない。南壁下にも東西2個並んでおり、出入り口のピットと思われるが浅い。

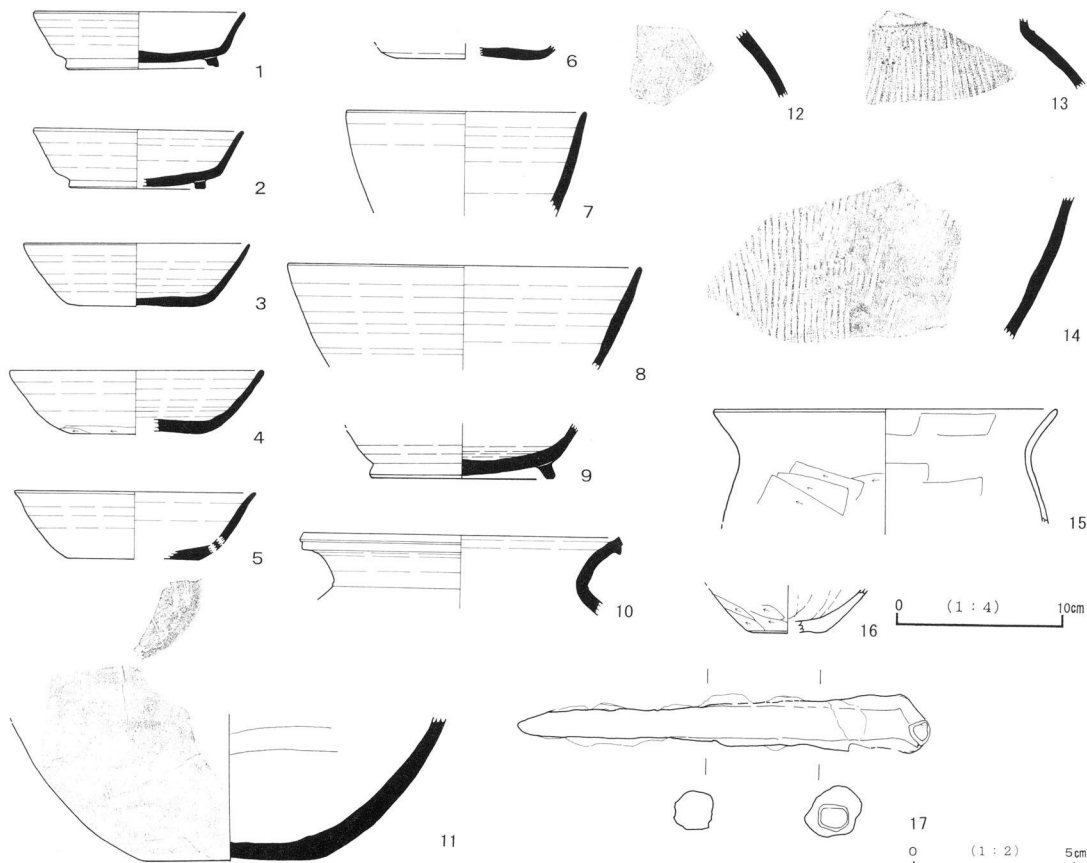
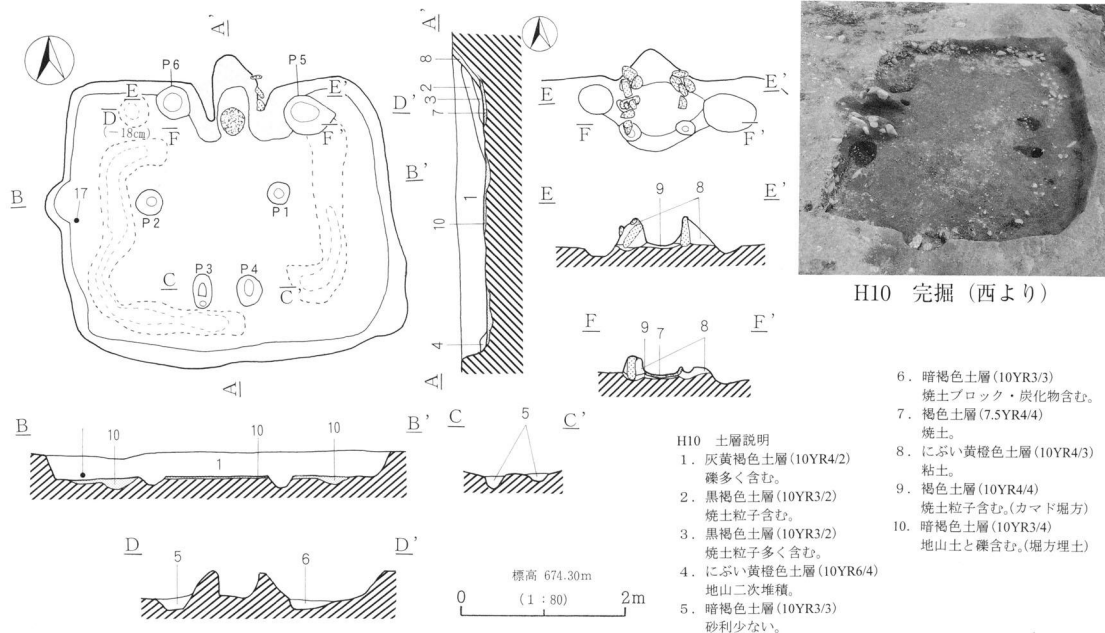
出土遺物は須恵器、土師器、鉄製品がある。鉄製品は環状で先端が細くなるが、器種は分からない。

須恵器の1の高台付杯の底部は平坦で、2の底部は下がって丸底気味である。高台は柱状で接着面は沈線状の窪みをもち、いくらか内傾している。7・8は深いタイプの高台付杯の口縁である。10~14は須恵器甕である。土師器甕の15は「く」字形態の武蔵甕である。

これらより本址は奈良時代であろう。

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 高台付杯	13.9・9.3・3.7	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→ヘラナデ→高台貼付	完	○	I区・カマド・カマド堀方	
2	須恵器 高台付杯	(12.9)・(8.5)・3.7	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→高台貼付	1/2	△	II区	
3	須恵器 杯	13.9・7.4・4.0	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	胴部完	○	I区・P1	
4	須恵器 杯	(15.6)・(8.0)・3.9	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部外周手持ヘラケズリ・底部手持ヘラケズリ	1/3	△	IV区	
5	須恵器 杯	(14.9)・(7.8)・(4.2)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部ヘラナデ	1/10	△	I区	ヘラ記号あり。
6	須恵器 杯	-(8.6)・(0.8)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部糸切り→口縁下部回転ヘラケズリ	底部1/3	△	I区	
7	須恵器 杯	(14.8)・-(6.4)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/8	△	I区	
8	須恵器 杯	(21.8)・-(6.4)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/4	△	P1・IV区	
9	須恵器 壺	-(11.4)・(3.4)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部不明→高台貼付	底部1/3	△	I区	
10	須恵器 甕	-(4.9)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/12	△	I区	
11	須恵器 甕	-(9.8)・(8.6)	内	ヘラナデ	外	タタキ目	底部1/4	△	P1	
12	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ目	破片	拓	II区	
13	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ目	破片	拓	IV区	
14	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ目	破片	拓	カマド	
15	土師器 甕	(21.3)・-(7.0)	内	口縁ヨコナデ	外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4	△	カマド堀方	
16	土師器 甕	-(4.9)・(2.7)	内	ナデ	外	ヘラケズリ	底部1/4	△	IV区	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
17	鉄製品	(12.7)	(1.6)	(1.6)	40.28			No.1		

第11表 H10号住居址出土遺物一覧表



第20図 H10号住居址

11) H11号住居址 (第21図・図版四・十一・十七)

つ9グリットにあり、M1と重複し切っている。南北364cm、東西360cmを測り、隅丸方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-2°-Wを測る。壁の最大残高は36cmである。壁は比較的角度をもって立ち上がる。

覆土は下層に黒褐色土、上層は灰黄褐色土である。床面は黒褐色土に礫を含む土を貼っている。周溝はほぼ全周している。

カマドは北壁ラインに燃焼部があり、奥壁は北に飛び出している。幅96cm奥行き100cmを測る。袖は作り出しではなく、掘り込みの側壁に円礫を立て、灰黄褐色土で覆いカマド燃焼部を作っている。

北東隅には径44cm深さ16cmのピットがある。

主柱穴は4本あり、間口172cmの方形に配されている。主柱穴は径40~48cm、深さ16~28cm、柱痕は径12~16cmである。南壁下中央には長径40cmの楕円形ピットがある。

堀方からは内周して周溝が検出され、内周プランの規模は南北284cm、東西352cmを測る。住居址は南に拡張されたようである。

出土遺物には須恵器、土師器、台石、混入品の黒曜石製の石鏃がある。

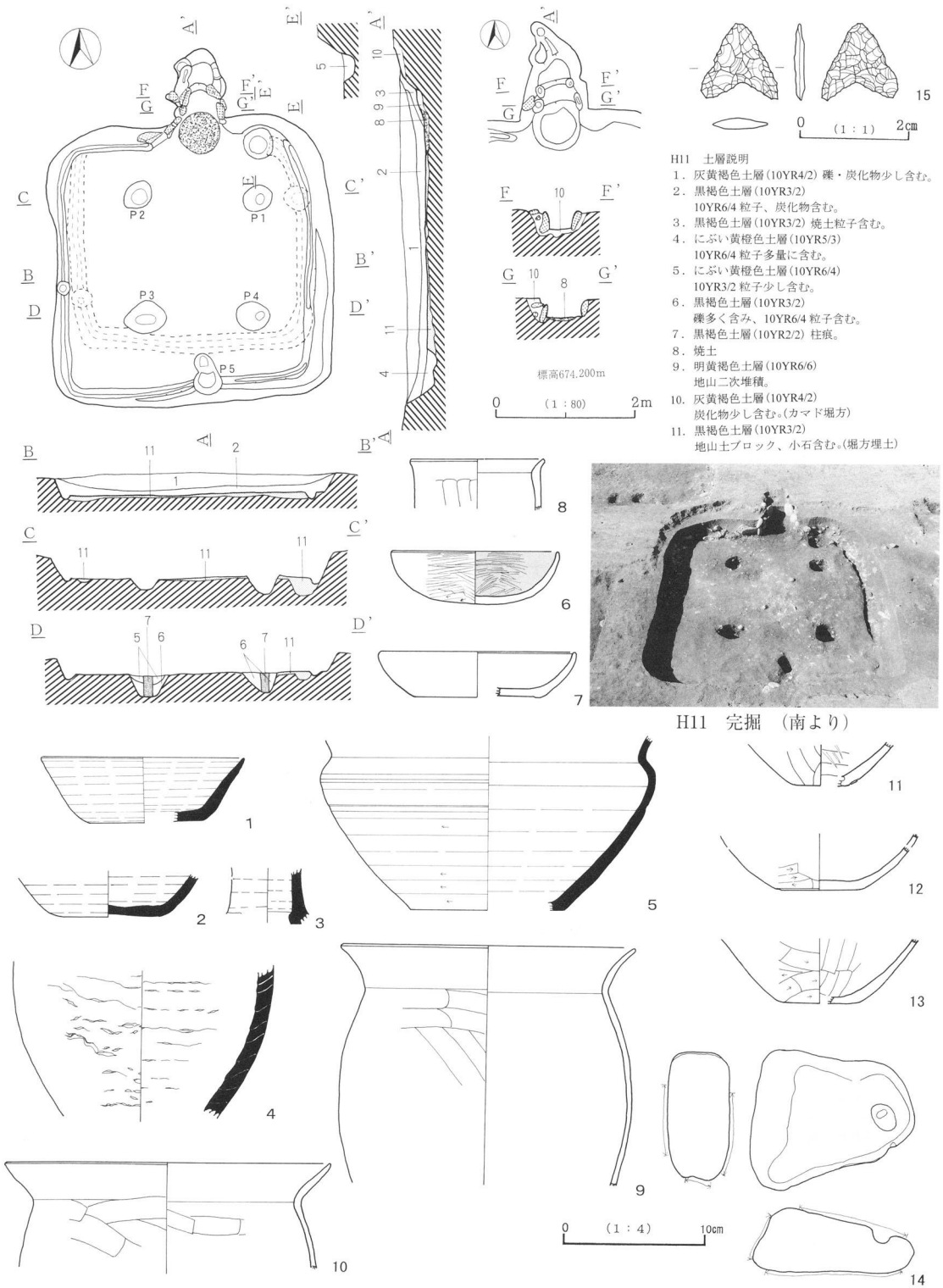
須恵器は杯・壺・鉢がある。1の須恵器杯は厚手で焼成が良好である。内面底部と周縁は磨耗している。底部は手持ちヘラケズリにより平底である。3・4は壺、4は内外に輪積み痕を残したままである。5は鉢で肩部が張り、底部は平底である。内面の底部から胴下半は磨耗している。

土師器は杯・甕・小型甕がある。6の土師器杯は丸底で、底部ヘラケズリ、口縁ミガキ、内面ミガキ黒色処理される。7の杯は外面底部ヘラナデの平底で、口縁は内湾する。8は小型甕で口縁は短く、外面に縦方向にヘラケズリ調整される。9~13は武蔵甕で、口縁部形態「く」字形で口縁に最大径を持つ。甕の底部は底径が大きく、12は鉢の底部であるかも知れない。

これらより本址は奈良時代であろう。

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 杯	14.8・8.5・4.7	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部手持ヘラケズリ			3/4	○	Ⅱ区ケン	
2	須恵器 杯	--(7.4)・(3.0)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部手持ヘラケズリ			底部1/3	△	Ⅳ区	
3	須恵器 壺	--・(4.1)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ			頸3/4	△	Ⅱ・Ⅲ区	
4	須恵器 壺	--・(11.1)	内 外	ナデ ナデ			破片	△	Ⅱ区	輪積み痕残る。
5	須恵器 鉢	--(11.1)・(12.6)	内 外	ロクロナデ 使用による磨耗あり ロクロナデ			1/4	△		底部磨耗
6	土師器 杯	12.2・7.0・3.8	内 外	ミガキ→黒色処理 ミガキ→底部ヘラケズリ			3/4	○	Ⅳ区	
7	土師器 杯	(14.4)・(9.4)・3.3	内 外	ヘラナデ ヘラナデ・底部ヘラナデ			1/8	△		
8	土師器 小甕	(9.8)・(3.7)	内 外	ナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ			1/3	△		
9	土師器 甕	(21.4)・(17.2)	内 外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ			口縁1/3	△	ケン	
10	土師器 甕	(23.6)・(7.6)	内 外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ			口縁1/3	△		
11	土師器 甕	--(4.2)・(3.2)	内 外	ヘラナデ→ナデ ヘラケズリ・底部ヘラケズリ			底部1/4	△	Ⅱ区	
12	土師器 甕	--(6.0)・(4.0)	内 外	ヘラナデ→ナデ ヘラケズリ・底部ヘラケズリ			底部1/3	△	Ⅳ区・ケン	
13	土師器 甕	--(5.8)・(4.7)	内 外	ヘラナデ ヘラナデ			底部1/4	△	Ⅲ区・カマド	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置			備考	
14	台石	24.0	20.4	9.5	6.080					
15	石鏃	1.4	1.4	0.2	0.31				黒曜石	

第12表 H11号住居址出土遺物一覧表



第21図 H11号住居址

12) H12号住居址 (第22・23図・図版四・十一・十二・十三・十七・十八)

ぬ11グリットにあり、H13号住居址と重複し切っている。単独ピットP352に切られる。H13号住居址と重複していたため、東側のプランがつかめず、堀方でプランを確認した。南北362cm東西486cmを測り、隅丸長方形を呈す。壁最大残高は26cmである。

カマドを北壁中央にもち、主軸方位はN-7° -Eでほぼ北を指す。

カマドは壁から突出し、間口108cm奥行92cmを測る。掘り込んだ両壁に円礫と17の須恵器甕を芯材とし、粘土で固めて構築している。燃烧部奥には右側の支脚石が残っていた。堀方には左側にも支脚石設置痕とみられる落ち込みがあった。カマドの両脇にはピットがあり、西のP1は円形で径42cm、深さ23cmを測り、焼土・炭化物を含んでいた。覆土は黒褐色土で、床面は礫を含む土を貼っている。支柱穴は検出されず、床面中央には2個の落ち込みがあるが浅いものである。周溝は西壁の中程より、北壁まで廻っている。

出土遺物は須恵器・土師器、スリ石、弥生中期の甕片、黒曜石製石鏃未製品がある。

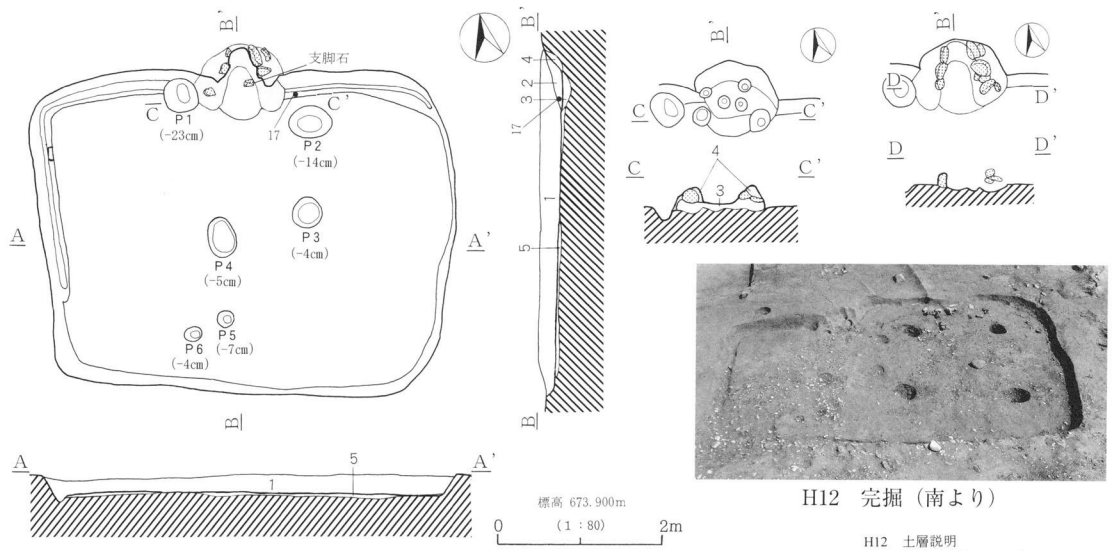
須恵器は杯蓋・高台付杯・杯・小壺・甕がある。須恵器杯蓋は扁平で口縁端部を折りまげるもので、3の杯蓋は天井部1/3が回転ヘラケズリされ、中央のつまみは擬宝珠形である。高台付杯は底面が平坦で、高台は断面形が方柱状になり、細くなっていて、杯の切り離しは回転糸切りであろう。杯11はヘラケズリで、他は回転糸切りである。壺は小壺と長頸壺頸部がある。16は甌で、橙色を呈し、内外面口縁調整され、底面は断面三角形で環状になる。内面内側には径13mmの受けの穴があく。26は灰釉陶器の杯破片で、混入したと思われる。

土師器杯は平底である。土師器甕は武蔵甕で、口縁部形態「く」字形を呈す。

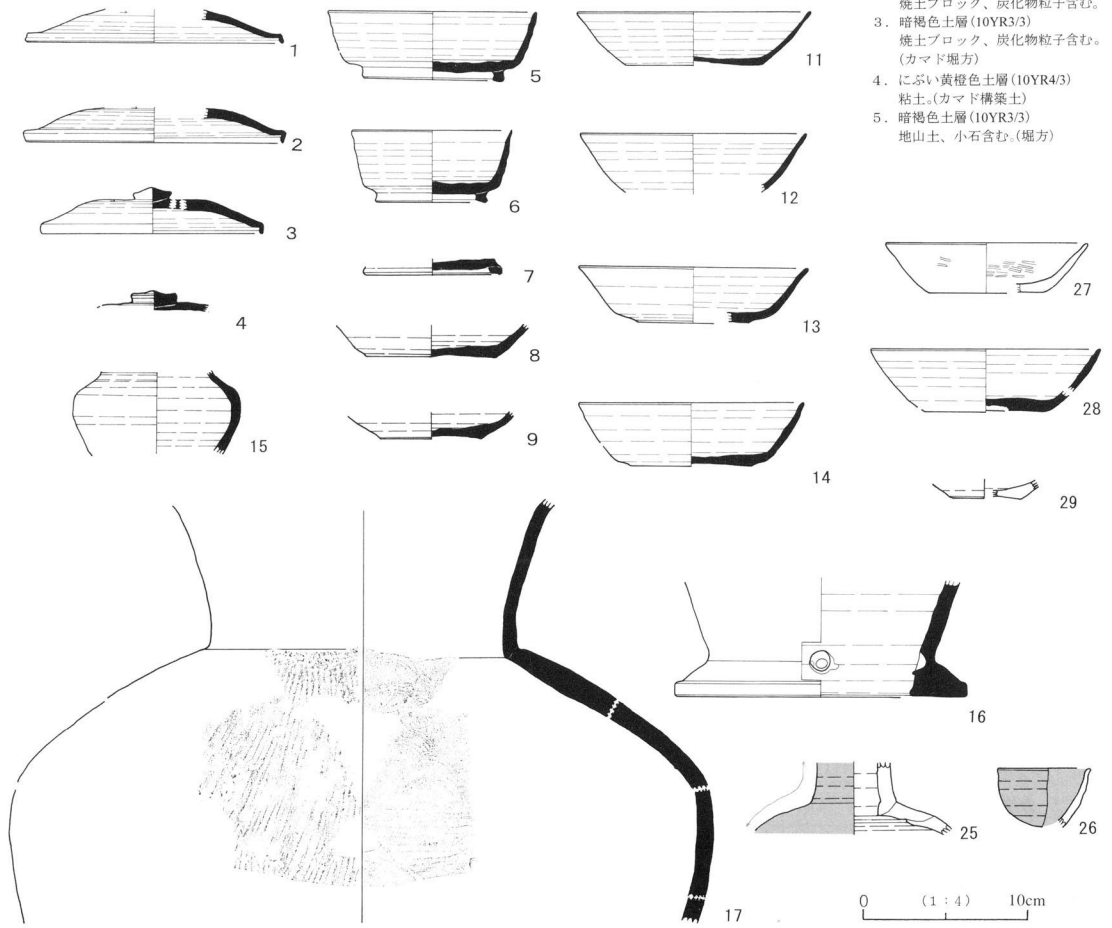
これらより本址は奈良時代であろう。

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 蓋	(16.0)・--・(2.1)	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	口縁1/3	△	Ⅱ区周溝 Ⅱ区堀方	火だすきあり。
2	須恵器 蓋	(16.0)・--・(2.1)	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	口縁1/8	△	I区	
3	須恵器 蓋	(13.7)・--・2.8	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	口縁1/8 つまみ2/3	△	I・Ⅲ区 ケン	火だすきあり。 つまみ径2.3cm。
4	須恵器 蓋	--・--・(1.2)	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	つまみ 完存	○	Ⅳ区	つまみ径2.8cm。
5	須恵器 高台付杯	(12.8)・8.7・4.3	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	口縁1/4 底部2/3	○	Ⅳ区	
6	須恵器 高台付杯	(9.8)・(6.9)・4.5	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	口縁1/4 底部2/3	○	Ⅲ区	
7	須恵器 高台付杯	--・(8.6)・(0.9)	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	底部3/4	○	Ⅲ区	内外火だすきあり。
8	須恵器 杯	--・(8.0)・(2.1)	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/4	△	Ⅳ区	
9	須恵器 杯	--・(6.4)・(1.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部糸切り	底部1/2	△	ケン	
10	欠						
11	須恵器 杯	(14.4)・(8.2)・3.3	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部手持ヘラケズリ	口縁1/7 底部1/3	△	Ⅳ区・ケン	内外火だすきあり。
12	須恵器 杯	(14.0)・--・(3.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/5	△	I区床下P	外面火だすきあり。
13	須恵器 杯	(14.2)・(6.6)・3.4	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁1/8 底部1/4	△	I区堀方 Ⅲ区	内外火だすきあり。
14	須恵器 杯	(13.9)・7.4・3.9	内外 ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁1/6 底部1/2	○	I区・カマド	内外火だすきあり。
15	須恵器 小壺	--・--・(5.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→胴下半ナデ	破片	△	I区	
16	須恵器 甌	--・(18.1)・(7.1)	内外 ロクロナデ→焼成前穿孔 ヨコナデ	底部1/4	△	Ⅳ区	
17	須恵器 甕	--・--・(26.0)	内外 口縁ヨコナデ・当て具痕→ヘラナデ タタキ目			I~Ⅳ区 カマド・カクラン	内外口縁に自然釉付着。 No.1
18	須恵器 甕	(36.6)・--・(4.5)	内外 ロクロナデ ロクロナデ→口縁部櫛描波状文(5本)	口縁1/12	△	ケン	内面自然釉付着。
19	須恵器 甕	-	内 口縁ヨコナデ・胴部ナデ 外 タタキ目	破片	拓	Ⅲ・Ⅳ区	
20	須恵器 甕	-	内 ナデ 外 タタキ目	破片	拓	I・Ⅲ区・Ⅱ区周溝・I・Ⅲ区堀方・P1	
21	須恵器 甕	-	内 ナデ 外 タタキ目・自然釉付着	破片	拓	I・Ⅲ・Ⅳ区・カマド・カマド堀方	

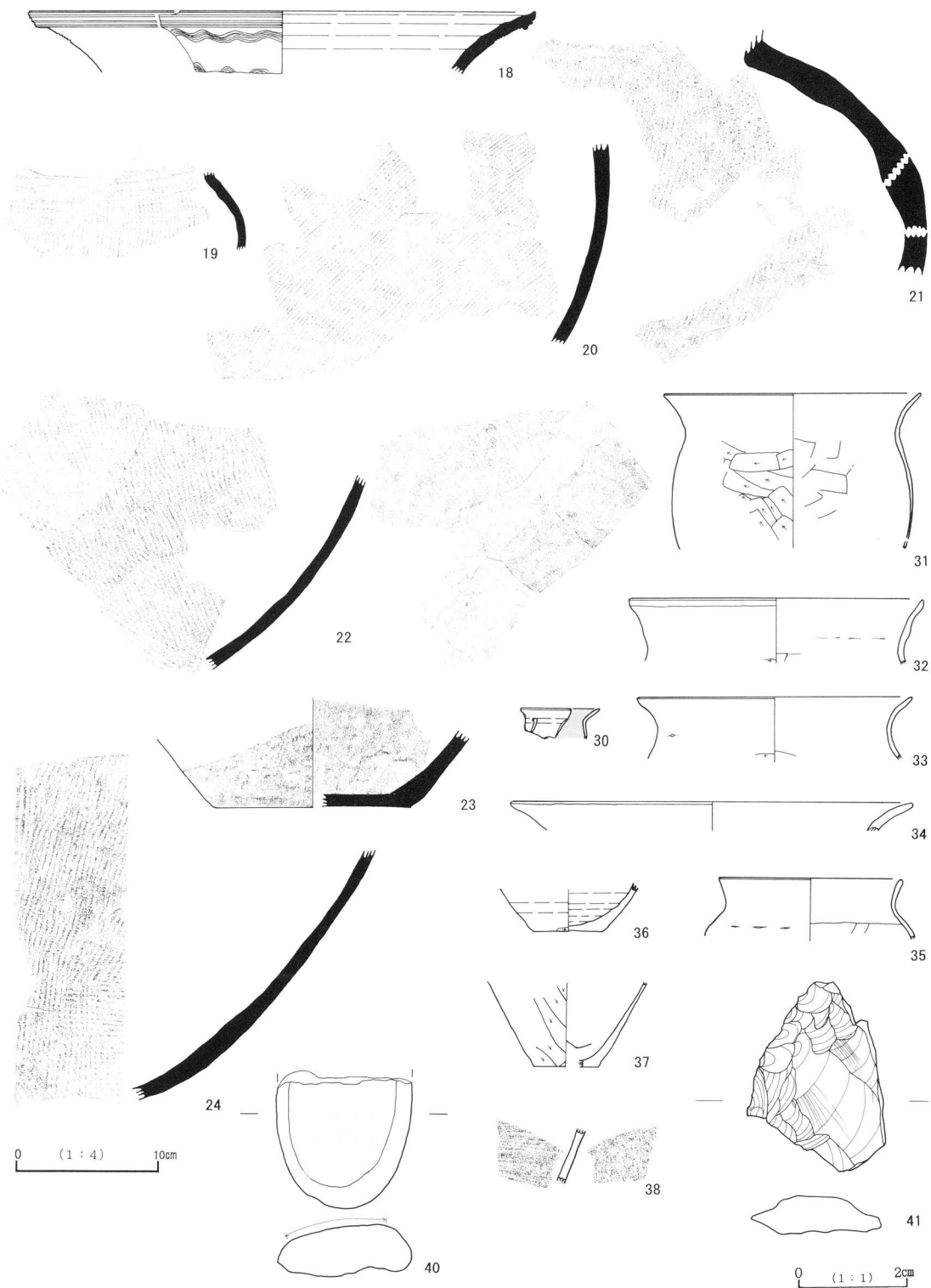
第13表 H12号住居址出土遺物一覧表



- H12 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
焼土ブロック、炭化物粒子含む。
 3. 暗褐色土層 (10YR3/3)
焼土ブロック、炭化物粒子含む。
(カマド堀方)
 4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
粘土。(カマド構築土)
 5. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山土、小石含む。(堀方)



第22図 H12号住居址 (1)



第23图 H12号住居址 (2)

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
22	須恵器 甕	-	内	当て具痕あり	外	タタキ目	底部破片	拓	I・III・IV区	
23	須恵器 甕	-(14.0)・(5.5)	内外	当て具痕残る タタキ目	→底部外周手持ヘラケズリ		底部1/8	△	III区	拓本。
24	須恵器 甕	-	内外	ナデ タタキ目			破片	拓	I・IV区 カマド・ケン	
25	須恵器 壺	-(4.5)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	頸部のみ	△	I区	外面自然釉付着。
26	灰釉陶器 杯	-	内	ロクロナデ→施釉	外	ロクロナデ→施釉	破片	△	III区	
27	土師器 杯	(12.4)・(7.1)・3.1	内外	ミガキ			口縁1/6 底部1/6	△	I区	磨耗。
28	須恵器 杯	(14.2)・7.4・(3.9)	内外	ロクロナデ ロクロナデ	→底部回転系切り		底部1/2	○	I・II区 III区堀方	磨耗。
29	土師器 甕	-(4.4)・(1.2)	内外	ロクロナデ ロクロナデ	→底部系切り		底部2/3	○	I・IV区	
30	土師器 小甕	-	内外	ミガキ ロクロナデ	→黒色処理		口縁破片	△	IV区?	墨書?
31	土師器 甕	(18.8)・-(11.2)	内外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	→胴部ヘラナデ →胴部ヘラケズリ		口縁1/4	△	I・II区堀方 カマド	
32	土師器 甕	(21.5)・-(4.7)	内外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	→胴部ヘラナデ →胴部ヘラケズリ		口縁1/2	△	II区床下P・カマド堀方 H13III区・P2	
33	土師器 甕	(20.0)・-(4.5)	内外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	→胴部ヘラナデ →胴部ヘラケズリ		口縁1/4	△	III区	
34	土師器 甕	(29.4)・-(2.1)	内外	口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ			口縁1/5	△	III・IV区	
35	土師器 甕	(13.4)・-(4.3)	内外	胴部ヨコナデ ヨコナデ	→口縁ヨコナデ		口縁1/4	△	床下P	
36	土師器 小甕	-(4.9)・(3.5)	内外	ロクロナデ ロクロナデ	→底部と底部外周手持ヘラケズリ		口縁1/4	△	I区	
37	土師器 甕	-(4.6)・(6.1)	内外	ヘラナデ 胴部ヘラケズリ	→底部ヘラケズリ		底部1/6	△	III区堀方	
38	弥生 甕	-	内外	ナデ (板材による)	細密条痕(斜め)		破片	拓	I区堀方	
39	欠									
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置			備考	
40	スリ石	(7.5)	7.3	2.9	220					
41	石鏝未製品	3.4	2.5	0.7	5.76	III区			黒曜石	

13) H13号住居址 (第24・25図・図版四・十三・十八)

ぬ11グリットにあり、D9号土坑、H12号住居址に切られる。南北462cm東西460cmの隅丸方形を呈す。西側床面はH12号住居址の一部を壊されている。最大壁残高は27cmを測る。カマドは北壁中央にあり、北壁から内側に設けられる。主軸方位はN-11°-Eを測る。

カマドはほとんど崩壊し、左袖の切石を芯材にした一部が残り、粘土を貼っている。間口132cm奥行き96cmを測る長方形のカマドである。

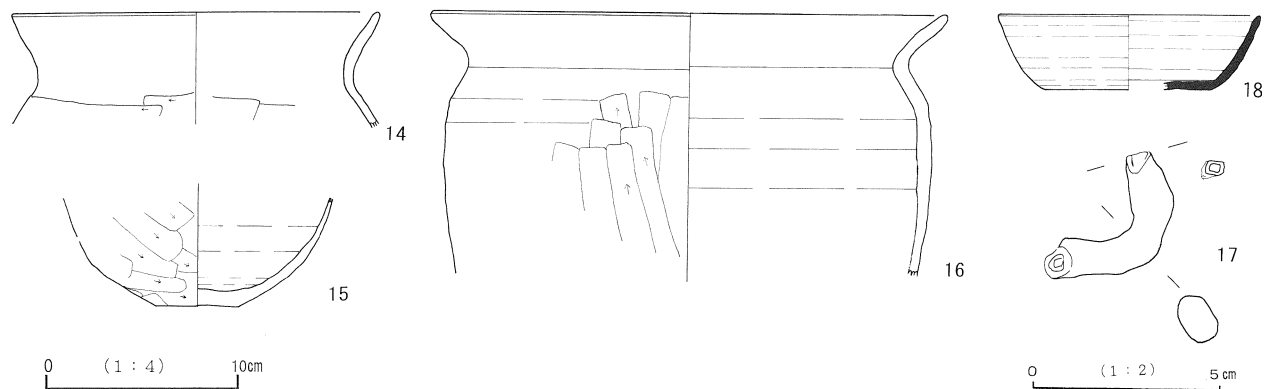
覆土は黒褐色土で、礫を含み、床面は礫を含む暗褐色土を貼っている。主柱穴は4本あり、間口224cm、奥行き240cmの方形に配され、ほぼ円形の柱穴の規模は径43~52cm、深さ34~40cmを測る。柱痕は明確にできなかった。出入り口施設に伴うP5・P6は南壁下にあり、長軸23・28cm、深さ8・7cmを測る。両者は56cm離れる。

出土遺物には須恵器・土師器、鉄製品がある。カマド及び北東の壁に沿って遺物を出土する。

須恵器高台付杯・杯・壺口縁部破片・甕がある。1の杯は小振りで、口縁が外傾する。高台は断面方形に近いが、内傾し、沈線状の窪みを持つ。2の杯は底部手持ちヘラケズリされ、口径と底径の比が0.6で、底径の大きい器形にはいる。3の杯も底部は手持ちヘラケズリされるが、0.49となり底径が小さい。4の底部は回転ヘラケズリされ、0.43とさらに底径の割合が小さい。器高は2が最も低い。6は壺口縁、7~10は甕である。

土師器は甕がある。12~14は武蔵甕で、口縁部形態「く」字形である。13は最大径を胴上部にもち、長胴ではなくなる。16は口縁から胴上部までロクロ調整され、下部は縦のヘラケズリが施される。

これらより、本址は奈良時代であろう。重複するH12号住居址との時間差はそれほど大きくないようである。



第25図 H13号住居址 (2)

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 高台付杯	13.2・8.6・3.8	内	ロクロナデ			ほぼ完	○		No.6
2	須恵器 杯	14.7・8.9・4.0	内	ロクロナデ			ほぼ完	○		No.4
3	須恵器 杯	14.4・7.0・4.4	内	ロクロナデ			3/4	○	カマド	No.7
4	須恵器 杯	(15.2)・(6.6)・4.8	内	ロクロナデ			1/2	△	カマド H12 I 区	
5	須恵器 杯	(14.6)・--・(4.9)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/6	△	I 区	
6	須恵器 壺	(12.2)・--・(1.6)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/3	△	カマド	
7	須恵器 甕	-	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口破片	部分	I 区	
8	須恵器 甕	--(15.0)・(13.7)	内	ロクロナデ			底部1/4	△	H12 IV 区ケン I 区	10と同個体。
9	須恵器 甕	-	内	ナデ	外	タタキ	破片	拓	カマド	
10	須恵器 甕	-	内	ロクロナデ	外	タタキ	破片	拓	I 区	8の肩部。
11	土師器 甕	--(7.0)・(1.5)	内	ナデ	外	ヘラケズリ	底部1/2	△	カマド	
12	土師器 甕	(22.6)・--・(5.9)	内	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ			口縁1/8	△	カマド	
13	土師器 甕	(21.0)・(5.0)・29.1	内	ヘラナデ			1/2	△	カマド H12 I 区	No.5
14	土師器 甕	(19.6)・--・(6.2)	内	ヘラナデ			口縁1/6	△	カマド	No.1
15	土師器 甕	--4.4・(5.8)	内	ロクロナデ			底部完	○	カマド	No.2
16	土師器 甕	(27.6)・--・(13.9)	内	ロクロナデ			口縁1/6	△		No.3
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
17	鉄軸	(5.0)	1.3	0.8	9.67	I 区				
号番	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
18	須恵器 杯	(14.0)・(8.7)・4.0	内	ロクロナデ			口縁1/3	△	IV 区・P 4	

第14表 H13号住居址出土遺物一覧表

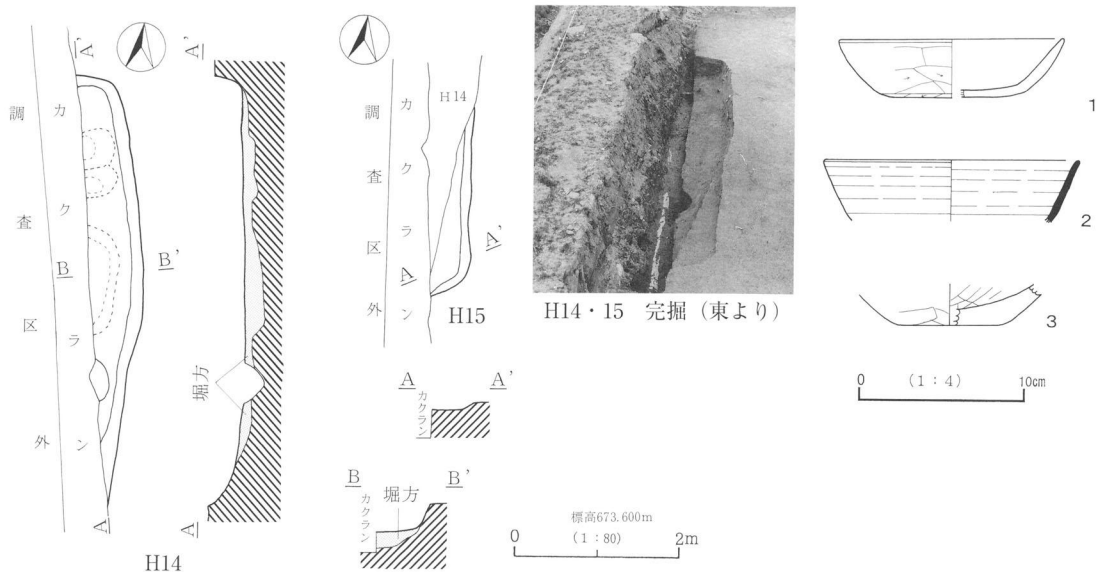
14) H14号住居址 (第26図・図版十四)

ほ22グリットにあり、西端にあり、防球ネット設置に伴う調査である。西は河川による石垣により攪乱され、東西残長54cm、南北は残長434cmを調査したが、規模・形態ともに不明である。壁最大高は34cmである。覆土は黒褐色土、床面は地山の黄褐色土を貼っている。

出土遺物には須恵器と土師器がある。

須恵器は高台付杯の破片である。土師器は杯で、底部が丸底気味の平底で、手持ちヘラケズリされる。3は甕の底部である。

これらより本址は奈良時代であろう。



第26図 H14・15号住居址

番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考
1	土師器 杯	(13.8)・(9.0)・3.6	内 磨耗	外 手持ちヘラケズリ	1/3	△		
2	須恵器 高台付杯	(15.6)・一・(3.3)	内 ロクロナデ	外 ロクロナデ	1/8	△		
3	土師器 甕	一・(6.8)・(2.5)	内 ヘラナデ	外 ヘラナデ	底部1/3	△		

第15表 H14号住居址出土遺物一覧表

15) H15号住居址 (第26図)

ほ22グリットにあり、H14号住居址に切られ、南東隅の一部南北152cm、東西36cmを調査した。12cmの壁残高である。遺物はない。H14号住居址に切られるため、奈良時代か奈良より古い。

16) H16号住居址 (第27図・図版十四・十七・十八)

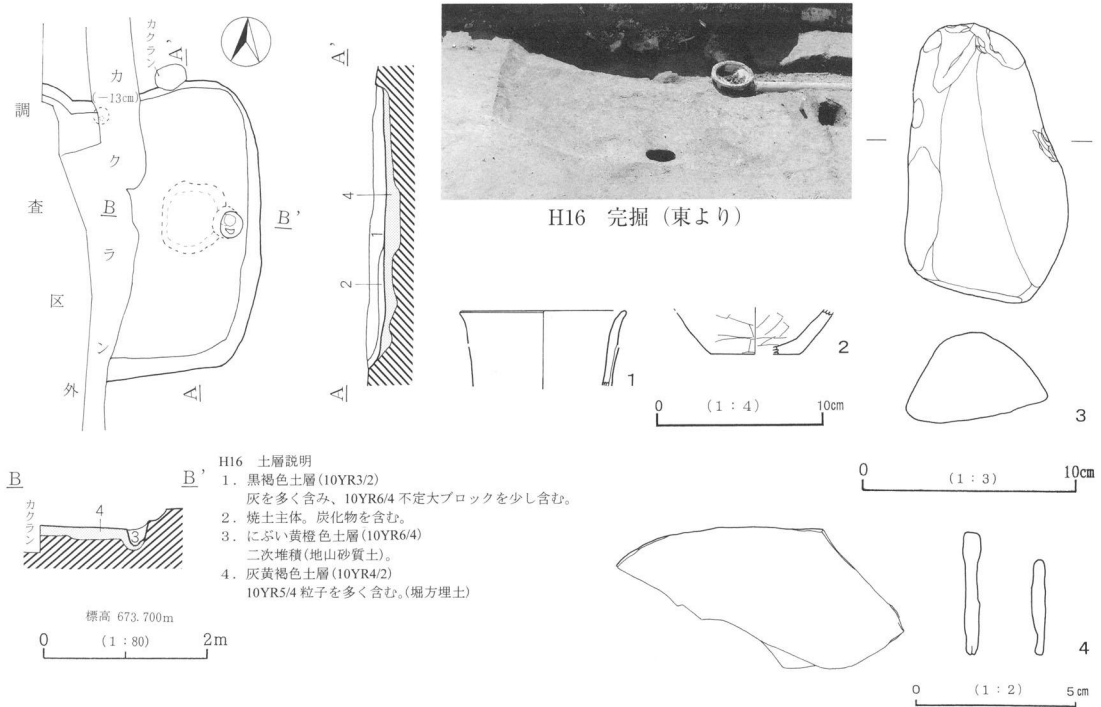
ほ24グリットにあり、西側は調査区外であり、校庭を囲む河川の石垣により壊されている。南北328cm、東西残長230cmを測る。北壁に膨らみがあり、粘土が覆土にみられることからカマドがあったものとみられる。床面は砂質土を固めている。主柱穴と思われるP1が東壁中央にあり、径36cmの穴に、径24cm深さ28cmの柱痕がみられた。

出土遺物には土師器小鉢・甕底部がある。編物石と鉄製品では鎌の一部を出土する。

これらより本址は奈良時代と推定される。

番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考
1	土師器 小鉢	(10.2)・一・(4.4)	内 ヘラナデ	外 ヘラナデ	口縁1/6	△	堀方	
2	土師器 甕	一・(5.4)・(2.8)	内 ヘラナデ	外 ヘラナデ	底部1/3	△		
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考
3	編物石	12.5	7.7	4.2	620			
4	鉄鎌	(8.7)	3.8	0.4	28.24			

第16表 H16号住居址出土遺物一覧表



第27図 H16号住居址

17) H17号住居址 (第28図・図版十四)

ふ13グリットにあり、西は調査区外であり、校庭を囲む河川の石垣により、また北壁のカマド付近は攪乱により壊されている。H18号住居址と重複し切っている。南北312cm、東西は残長288cm、壁最大残高は32cmを測る。カマドを北壁中央にもち、主軸方位はN-0°を測る。

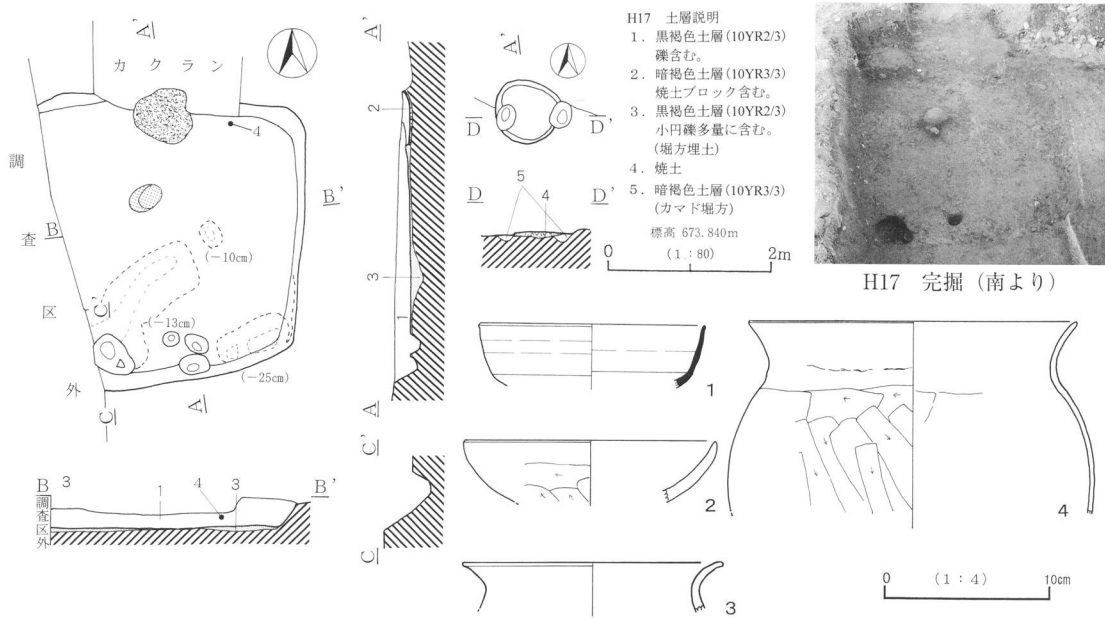
カマドは大半が壊され、焼土が残り、火床が確認された。覆土は黒褐色土で、床は円礫を含む黒褐色土を貼り、締まっている。主柱穴はないが、南壁下にピットがある。

出土遺物は須恵器・土師器があり、須恵器は高台付杯、土師器杯は底部ヘラケズリ調整され、丸底気味である。甕は武蔵甕で、口縁部が外反し、胴上部が張っている。

これらより本址は奈良時代であろう。

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 高台付杯	(14.0)・--・(3.8)	内外 ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/3	△	Ⅲ・Ⅳ区	
2	土師器 杯	(15.6)・--・(3.8)	内外 ナデ ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	1/6	△	ケン	
3	土師器 小型甕	(16.0)・--・(3.1)	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	口縁1/4	△	I区	
4	土師器 甕	(20.4)・--・(11.7)	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/4	△		No.1

第17表 H17号住居址出土遺物一覧表



第28図 H17号住居址

18) H18号住居址 (第29図・図版十四・十七)

ひ13グリットにあり、H17住に南東を、北を攪乱により壊される。住居址は南北200cm東西366cmの残長を測る。壁最大残高は16cmを測る。

覆土は黒褐色土で、床面は礫を含む黒褐色土を貼り締まっていた。床面中央の礫群はかまどの構築材が崩壊した礫と思われる。

主柱穴であろうP1は住居址西中央にあり、東西の2本柱と思われる。径40cm、深さ24cmを測る。

出土遺物には須恵器・土師器、凹石、編物石がある。凹石は大・中・小がセットで出土している。

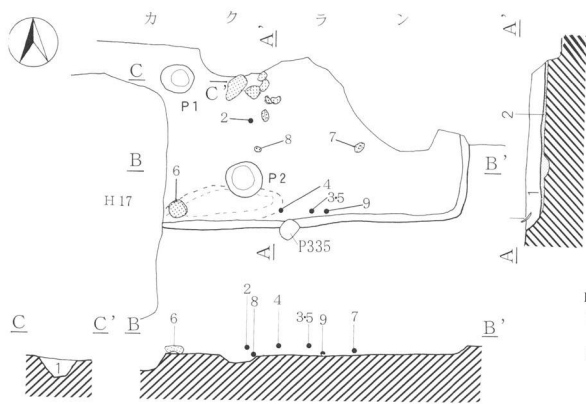
須恵器杯蓋は扁平で口縁端部が折れる。焼成は良好で器肉が薄く端正である。須恵器杯は丸底気味である。

土師器鉢は2個体あり、3は大型で口縁が水平に近く、底部は丸底気味である。4は中型品で内面黒色処理され、雑なミガキが施される。輪積み痕が残る。

これらより本址はH17号住居址より古相の奈良時代であろう。

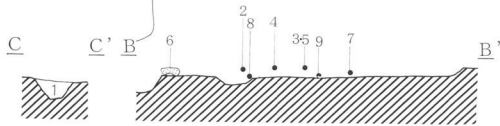
番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
1	須恵器 蓋	(15.6)・--・(2.0)	内外	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁1/6	△	覆土	外面自然袖付着	
2	須恵器 杯	(13.6)・(10.0)・(4.4)	内外	ロクロナデ	ロクロナデ	1/5	△	覆土		
3	土師器 鉢	(17.6)・--・10.6	内外	ヘラケズリ→ミガキ	ヘラケズリ→ミガキ	底部完	○		No.2・6	
4	土師器 鉢	(32.0)・--・13.5	内外	ナデ→ミガキ	ヘラケズリ	黒色処理	2/3	○	H17ケン	No.1 輪積み痕残る
5	土師器 甕	(13.4)・--・(3.0)	内外	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ	1/8	△		No.2	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
6	凹石	21.0	19.1	9.8	5360			No.7		
7	凹石	11.9	0.8	6.0	910			No.3		
8	凹石	8.3	7.6	4.6	360			No.5		
9	スリ石	14.1	5.9	4.1	480			正面に刃面。上端部に敲打痕有り。No.8		

第18表 H18号住居址出土遺物一覧表

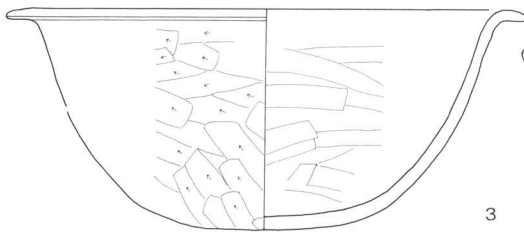


H18 完掘 (北より)

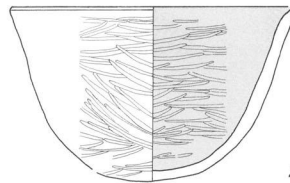
H18 土層説明
 1. 黒褐色土層(10YR2/3)
 小礫、炭化物粒子含む。
 2. 黒褐色土層(10YR3/2)
 小礫含む。



標高 673.84m
 0 2m
 (1 : 80)



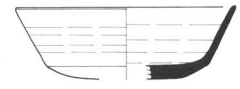
3



4



1

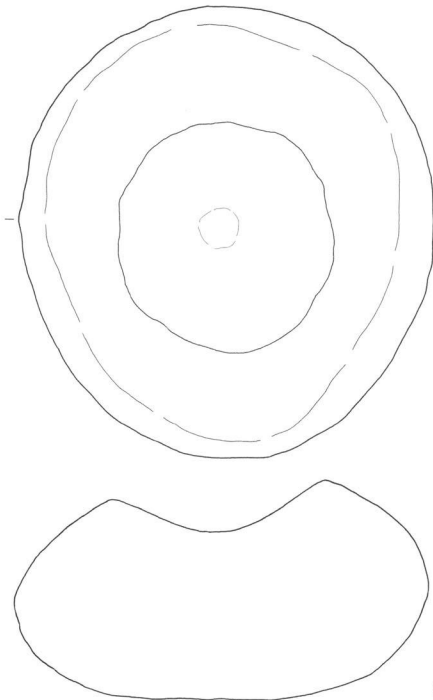


2

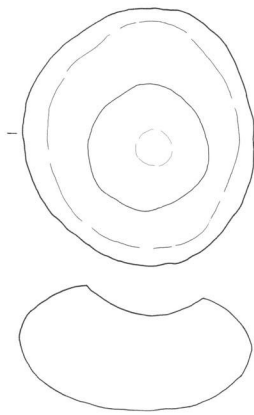


5

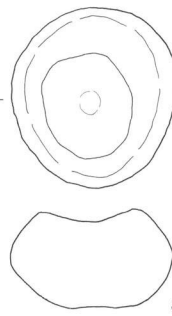
0 10cm
 (1 : 4)



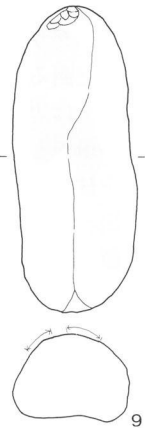
6



7



8



9

0 10cm
 (1 : 3)

第29図 H18号住居址

19) H19号住居址 (第30図・図版十四・十七)

ひ10グリットにあり、P271・278・435・436単独ピットに切られる。南北275cm東西268cmを測り、隅丸方形を呈す。カマドは東壁中央より南に寄って設けられ、主軸方位はN-84°-Wを指す。覆土は黒褐色土で、床は礫を含む暗褐色土を貼り締まっていた。

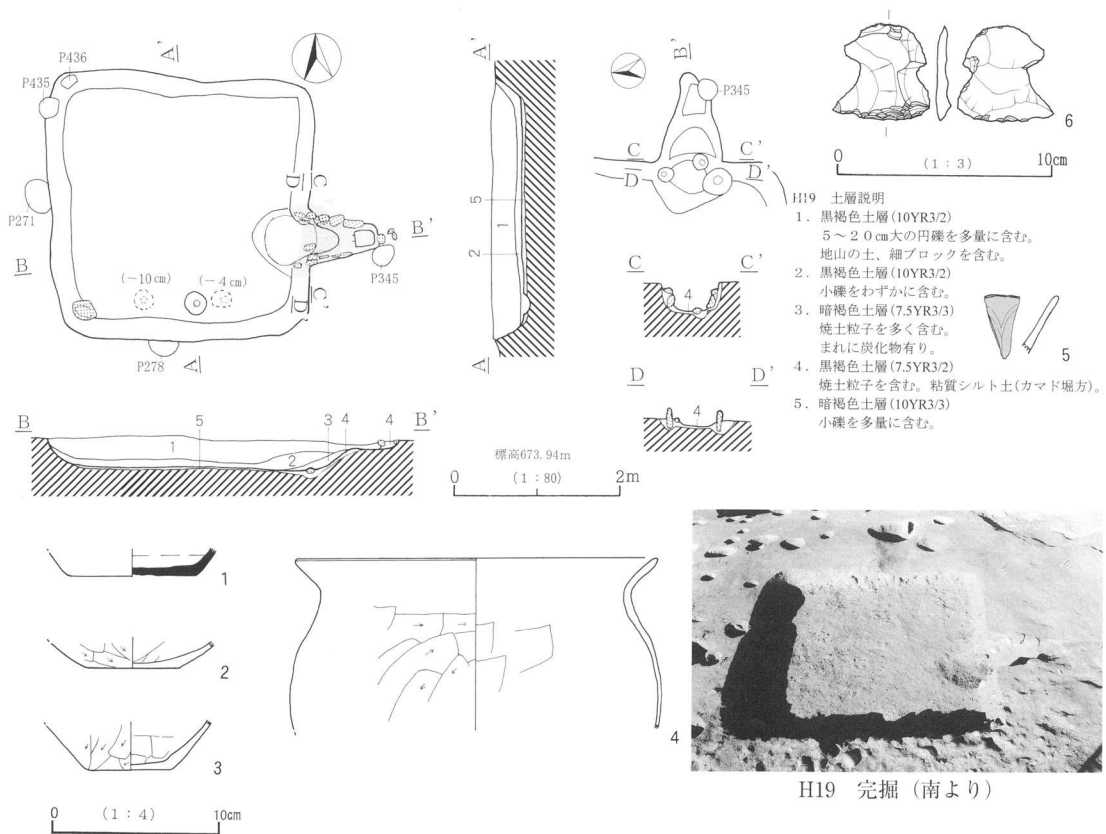
カマドは住居から突出するタイプで、袖先が住居址の壁ラインと同じ位置にあたる。カマド袖は側壁に円礫をいれ、粘質土を貼ってカマドの燃焼壁を作り出している。間口68cm奥行き88cm、長さ48cmの煙道が付いている。煙道右先端は煙道が立ち上がっていたのか円礫が径12cmの間をあけている。

主柱穴は検出されていないが、南壁下に小ピットがある。

出土遺物には須恵器・土師器がある。混入品ではスクレイパーと青磁蓮弁文碗片がある。青磁片は重複する単独ピットを見落としたための混入と考えられる。

須恵器杯は回転ヘラ切りされている。土師器はいずれも武蔵甕で、4は口縁部形態「く」字形であるが、外反気味で胴部上部が張っている。最大径は胴部にある。

これらより本址は奈良時代であろう。



第30図 H19号住居址

番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考		
1	須恵器 杯	一・(8.0)・(1.7)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	底部1/3	△	I区	内外火だすきあり。
2	土師器 甕	一・(6.0)・(1.7)	内	ヘラナデ	外	ヘラケズリ	底部1/2	△	カマド	
3	土師器 甕	一・5.3・(3.1)	内	ヘラナデ	外	ヘラケズリ	底部3/4	○	カマド	
4	土師器 甕	(22.2)・一・(10.4)	内	口縁ヨコナデ	外	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/10	△	カマド	
5	青磁蓮弁文 碗	-	内	施釉	外	蓮弁文→施釉	破片	部分	IV区	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
6	スクレーパー	4.4	4.5	0.8	20	II区		黒色頁岩		

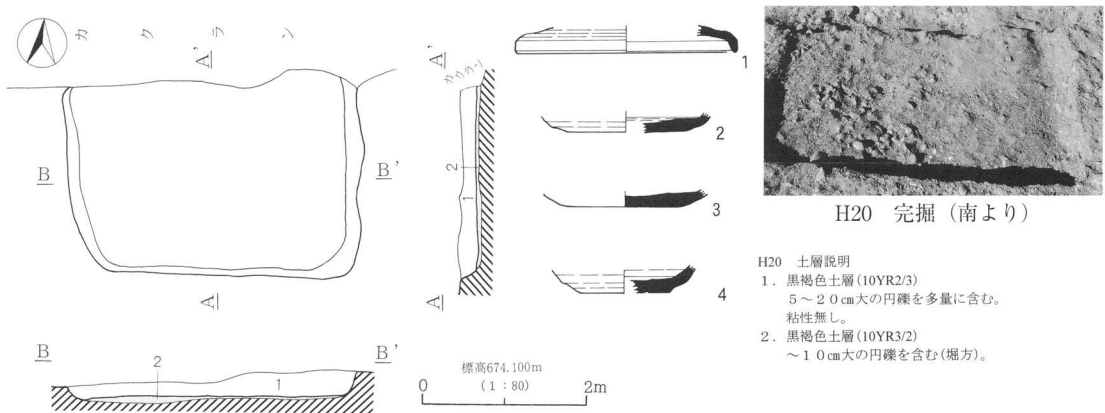
第19表 H19号住居址出土遺物一覧表

20) H20号住居址 (第31図・図版十四)

の5グリットにあり、北壁が攪乱により消失している。南北残長228cm、東西328cmを測る。壁最大残高は33cmで、床面は円礫を含む黒褐色土を貼って締まっている。カマド、ピットは検出されていない。

出土遺物には須恵器があるが実測個体も小破片である。須恵器は杯蓋、杯がある。杯蓋は口縁端部が折れる器形、須恵器杯は底部が回転ヘラ切りされるものと、ヘラケズリされるものがある。

これらより奈良時代の遺構と思われるが推定の域を出ない。



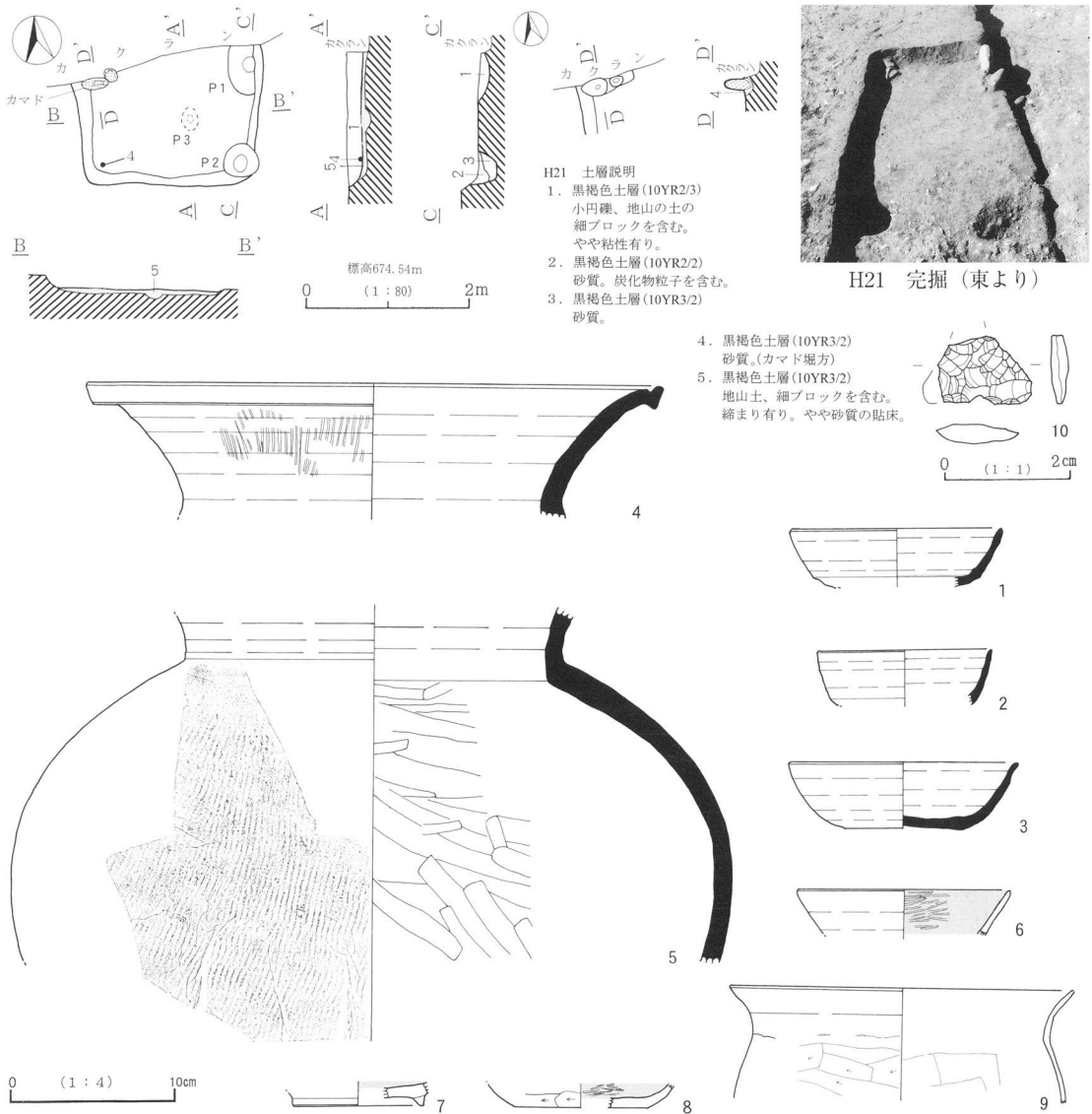
第31図 H20号住居址

番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考	
1	須恵器 蓋	(15.4)・一・(1.6)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/12	△	I区
2	須恵器 杯	一・(7.0)・(1.2)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	底部1/6	△	IV区
3	須恵器 杯	一・(7.4)・(1.0)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部ヘラ切り	底部1/4	△	II区
4	須恵器 杯	一・(5.6)・(1.4)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	底部1/6	△	IV区

第20表 H20号住居址出土遺物一覧表

21) H21号住居址 (第32図・図版14・18)

ぬ6グリットにあり、H23号住居址と重複し切っている。北側を攪乱により壊されている。南北残長156cm、東西202cmを測る。カマドは西壁に設けられ、大半は攪乱により壊され、南の片袖が残る。壁残高は19cmが最大である。主軸方位はN-90°を指す。覆土は円礫を含む黒褐色土で、床面は砂質土が敲き状に締まっていた。



第32図 H21号住居址

カマドは西壁に円礫が2個直立し、礫の北側に焼土がみられた。カマドの袖としたが、全容は明らかではない。カマドの対面東壁下では長径70cm以上のP1があり、3・6の須恵器杯と土師器杯が出土した。また南東隅にP2があるが炭化物を覆土に含む。

出土遺物には須恵器・土師器、混入品の黒曜石の石鏃がある。検出時に出土した7の土師器碗も混入であろう。

須恵器は高台付杯・杯・甕がある。2の高台付杯は小型である。3の杯は割れて出土したが完形に復元でき、製作時に口縁の一部が歪む不良品である。底部回転糸切りされる。須恵器甕は中形品で、口縁帯の内側に沈線が廻る。外面調整は口縁部にタタキ目を残し横ナデ、胴部はタタキ目が施される。

土師器は杯と甕がある。杯の6・8は同個体と思われる。内面ミガキ黒色処理、外面の口縁部口ロナデ、底部と口縁下部は手持ちヘラケズリ。土師器甕は武蔵甕で口縁部形が「コ」字形を呈す。

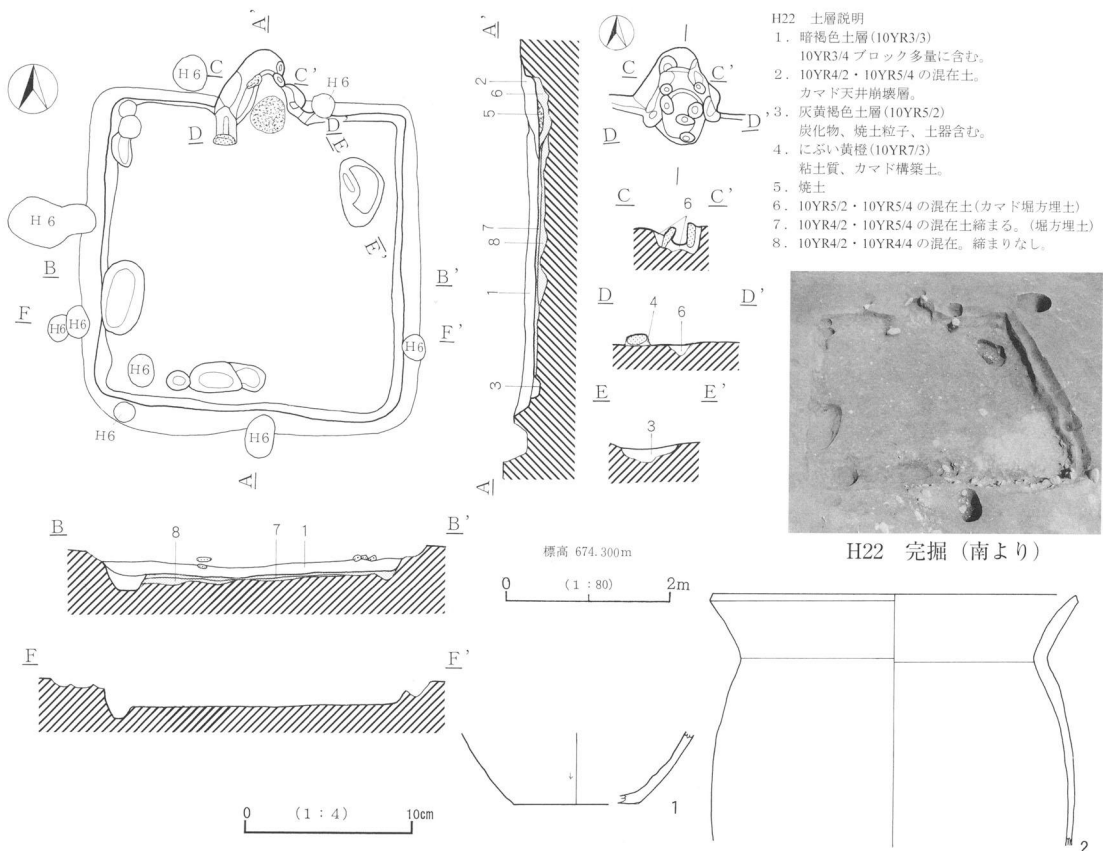
これらより本址は奈良時代であるが、新しい様相がみられる。

番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考		
1	須恵器 杯	(13.4)・--・(3.6)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/6	△	カクラン	
2	須恵器 高台付杯	(11.0)・--・(3.4)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ	口縁1/3	△	東側	
3	須恵器 杯	14.4・7.4・4.1	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部右回転糸切り			完	○	P1・西側	内外火だすきあり。
4	須恵器 甕	(36.0)・--・(8.3)	内	ロクロナデ	外	ロクロナデ→たたき	口縁1/5	△		5と同個体。No.1
5	須恵器 甕	--・--・(21.5)	内	ヘラナデ	外	タタキ	破片	△	P2・東西	4と同個体。
6	土師器 杯	(13.4)・--・(2.8)	内 外	ヘラミガキ→黒色処理 ロクロナデ			破片	△	P1	
7	土師器 椀	--・(8.2)・(1.4)	内 外	ヘラミガキ→黒色処理 ロクロナデ→高台貼付			底部1/4	△	ケン	
8	土師器 杯	--・(8.2)・(1.5)	内 外	ヘラミガキ→黒色処理 ロクロナデ→底部手持ヘラケズリ			底部1/3	△	ケン	
9	土師器 甕	(21.6)・--・(7.0)	内	ヘラナデ	外	ヘラケズリ	口縁1/6	△	東側	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
10	石鏃	(1.05)	(1.5)	(0.3)	0.47	西側		先端部左脚部欠損		

第21表 H21号住居址出土遺物一覧表

22) H22号住居址 (第33図・図版四・十四)

そ11にあり、H6号住居址と上面で重複し切られる。南北355cm、東西348cmの方形を呈し、壁最大残高33cmを測る。カマドは北壁中央にあり、燃燒部が壁より突出する。主軸方位N-2°-Eを測る。覆土は暗褐色土で、褐色土がブロックで混入する。床面は灰黄褐色土が強く締まっていた。支柱穴と思われるものはないが北東に長軸88cm深さ16cmの焼土・炭化物を含むピット、南壁下のP2~P4の出入り口に関するピット、西壁下南長軸96cm深さ20cmの楕円形ピットが床面より検出された。



第33図 H22号住居址

カマドは間口92cm奥行き92cmの燃焼部である。左袖の先に石があり、袖には粘土がみられた。奥壁の煙道入り口には円礫を立て、内法20cm幅の煙道を作っている。

出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器杯小片が堀方より出土、回転ヘラ切り底である。土師器は甕があり、2の甕口縁部形は「く」字形を呈すが、器肉が武蔵甕よりやや厚く、口縁が横ナデ、器面が磨耗してはっきりしないが、胴上部は縦方向のヘラケズリである。同個体と思われる、1の甕底部の径は大きい。古墳時代後期の長胴甕が、武蔵甕を模倣したような土器である。

これらより本址は奈良時代であろうが、古相をもっている。

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
1	土師器 甕	-(7.22)・(4.4)	内 ナデ 外 ケズリ→底部ケズリ	底部1/2	△	カマド	細かい砂粒1~2mm大褐色粒子含む。内外面器面荒れる。
2	土師器 甕	(22.8)・-(15.4)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/3	△	カマド・上焼土	細かい砂粒・褐色粒子1mm大含む。全体に器面荒れる。

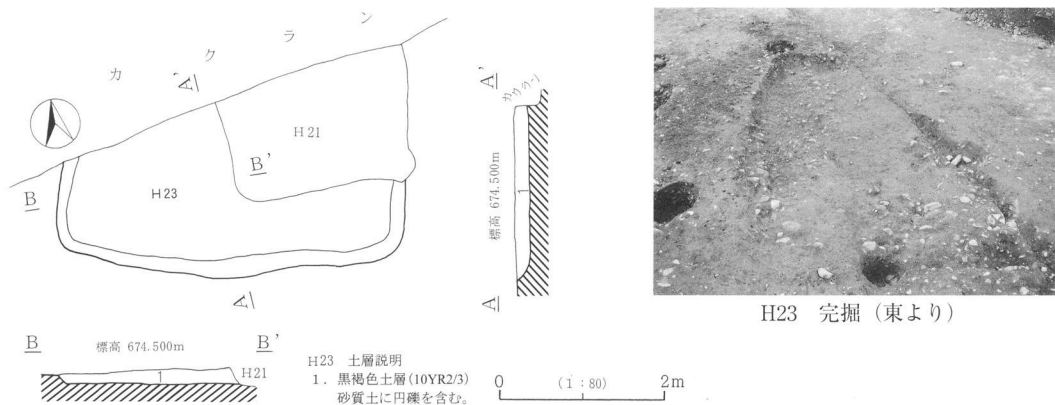
第22表 H22号住居址出土遺物一覧表

23) H23号住居址 (第34図)

ぬ5グリットにあり、H21と重複し切られる。北は攪乱により壊される。南北残長196cm、東西396cmを測り、方形基調である。壁最大残高は21cmである。覆土は黒褐色土である。

遺物は出土していない。

本址は住居址ではないかも知れないが、H21に切られプランも大きく、平坦な面があることから住居とした。



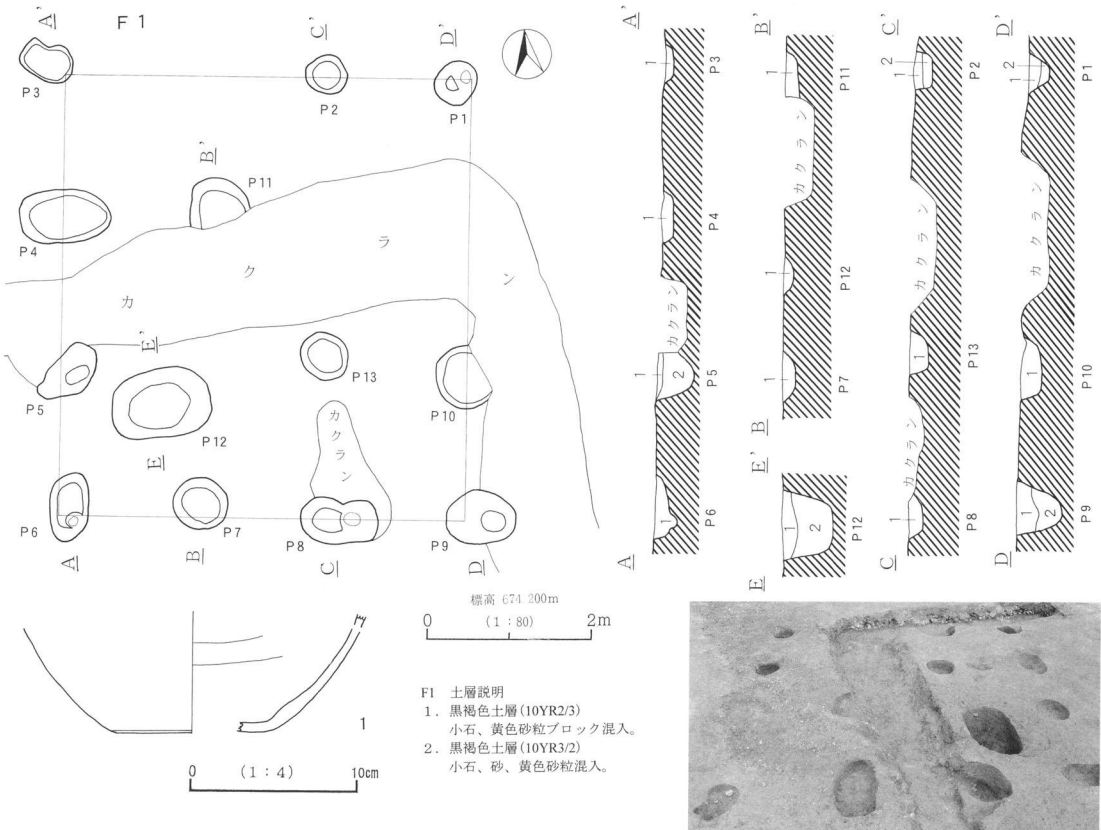
第2節 掘立柱建物址

1) F1号掘立柱建物址 (第35図、図版十五)

に9グリットにあり、3間×3間の総柱式である。建物基礎の攪乱により一部壊される。桁行き540cm梁行き496cmを測る南北棟である。長軸方位N-4°-Eを測る。桁行柱間180cm、梁行柱間165cmを測る。柱穴は円形と楕円形を呈し、短径48~85cm、深さ10~65cmを測る。覆土は黒褐色土で、礫と黄褐色砂ブロックを含んでいた。柱痕は看取できなかった。

出土遺物はP1から土師器甕の底部片が出土する。甕は下部が膨らんでおり、鉢の可能性もある。器面の調整は洗われて磨耗しており、わからない。他に図示できないが須恵器杯片・土師器武蔵甕片が出土する。これらは奈良・平安時代の範疇にある土器である。

これらより、本址も竪穴住居址と近い奈良時代であろう。



第35図 F1号掘立柱建物址

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
1	土師器甕	-(10.0)・(7.3)	内外 ヘラナデ 磨耗のために不明	底部1/10	△	P1	全体に磨耗。

第23表 F1掘立柱建物址出土遺物一覧表

2) F 2号掘立柱建物址 (第36図)

し9グリットにあり、1間×1間の建物である。東西に長く200cm、南北192cmを測る。主軸方位はN-89°-Wを測る。柱穴は円形を呈し、覆土は褐色土である。短径で72~100cm、深さ52~58cmを測る。柱痕は円形で径24cm規模である。

出土遺物は須恵器のタタキ目を施した甕片が一片ある。

時期を明確にするものはないが、規模からは竪穴住居と近い時期であろう。

3) F 3号掘立柱建物址 (第36図)

ね8グリットにあり、3間×2間の側柱式の建物である。桁行468cm、梁行328cmを測る。南北棟で、主軸方位N-4°-Eを測る。桁行柱間156cm、梁行柱間164cmを測る。柱穴の覆土は柱痕に黒褐色土、堀方に暗褐色土がみられた。柱穴は短径で31~90cm深さ42cmを測る。

遺物は土師器甕片があり、厚手と薄手があり、薄い器肉の甕は武蔵甕片である。

これらより本址も竪穴住居址と近い奈良時代の建物址であろう。

4) F 4号掘立柱建物址 (第36図)

さ14グリットにあり、台形に近い柱配置である。北列の柱穴が1個見あたらなかった。3間×3間で、梁行(南北)428cm×桁行(東西)472cmを測る東西棟である。主軸方位はN-87°-Wを測る。桁行き柱間は148・132cm、梁行柱間164cmを測る。柱穴はP3が黒褐色土、他は褐色土である。柱穴の規模は24~50cm、深さ17~33cmを測る。

遺物は出土していない。時期はわからないが柱間からは奈良時代のものと近い数値である。

5) F 5号掘立柱建物址 (第37図)

ひ9グリットにあり、2間×1間で、梁行416cm、桁行208cmを測る。梁行柱間は208cmである。主軸方位はN-83°-Eを指す東西棟である。柱穴は黒褐色土で柱痕と堀方がみられた。柱穴は短径22~50cm、深さ9~21cmを測る。

遺物は出土していない。柱間などからは中世とも考えられる。

6) F 6号掘立柱建物址 (第37図)

に5グリットにあり、北に攪乱があり、H21・23号住居址に切られ、南東隅の柱穴は検出されていない。規模・形態ともに不明。南東隅にピットがあったとすれば東西536cmを測る。桁行柱間160cm、梁行柱間200cmを測る。柱穴は円形基調で、短径46~65cm深さ24~33cmを測る。覆土は柱痕と堀方があり、いずれも黒褐色土であるが堀方は円礫と地山の土ブロックを含んでいた。

遺物は出土していないため、時期不明。規模からは竪穴住居址と近いと思われる。

7) F 7号掘立柱建物址 (第37図)

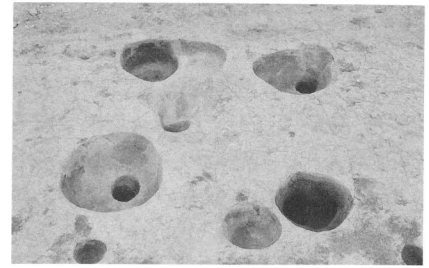
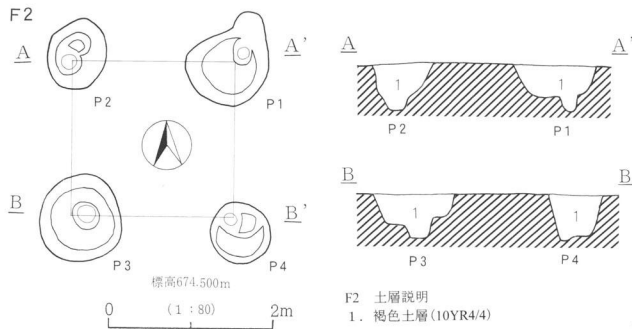
ふ11グリットにあり、2間×1間の側柱式である。桁行456cm、梁行160cmの東西棟で、主軸方位はN-75°-Eを測る。桁行柱間160cmを測る。柱穴は黒褐色土である。柱穴の規模は短径38~42cm、深さ17~33cmを測る。

遺物は出土していない。柱間などから中世の掘立柱建物址と考えられる。

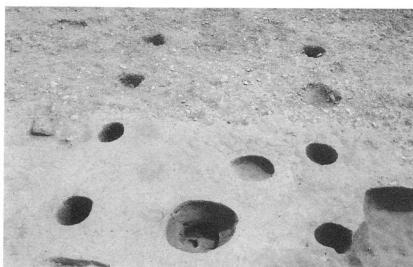
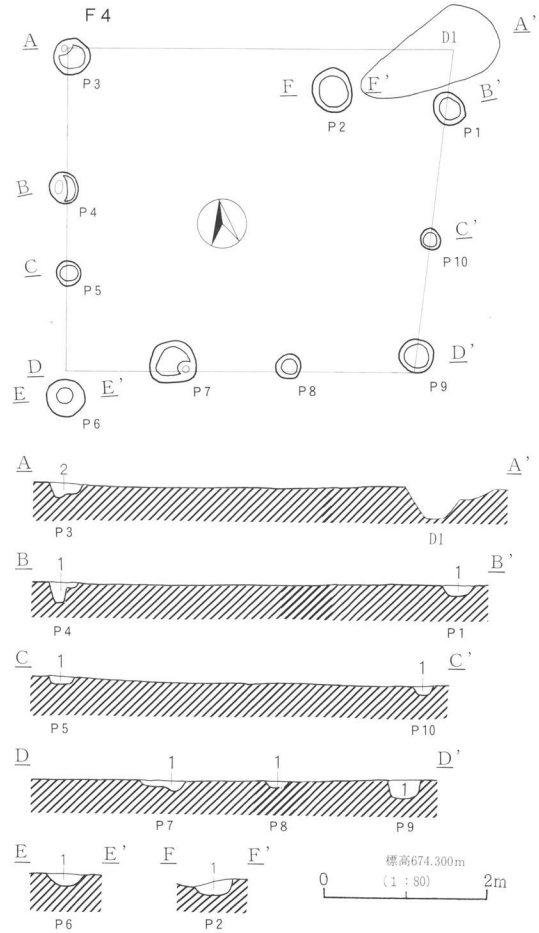
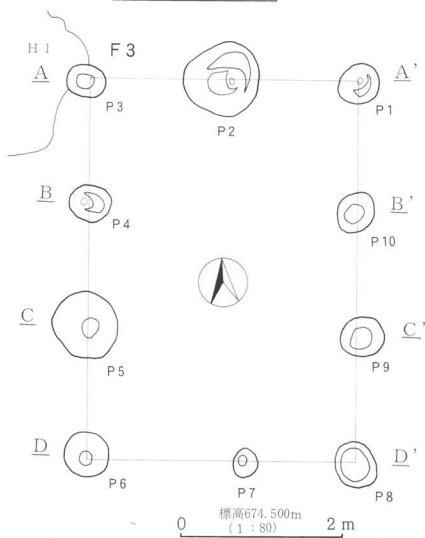
8) F8号掘立柱建物址 (第38図)

な5グリットにあり、3間×2間の建物址である。攪乱により壊され全容が分からない。桁行546cm、梁行480cmの南北棟で、主軸方位N-41°-Wを測る。柱痕は黒褐色土、堀方は暗褐色土である。柱穴は短径で、44~72cm深さ15~62cmを測る。

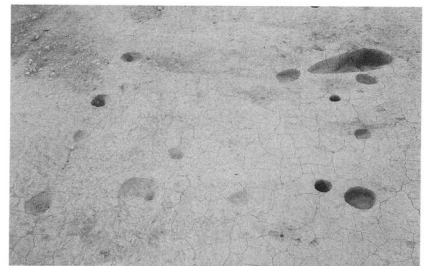
遺物は出土していない。時期は明らかではない。



F2 完掘 (南より)

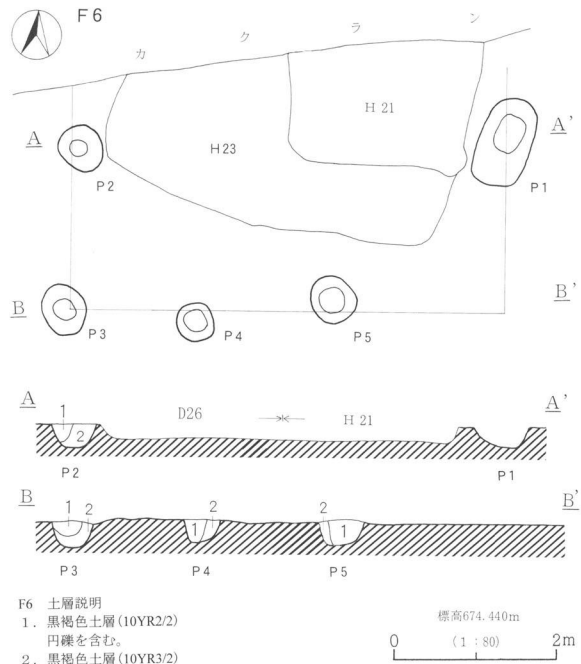
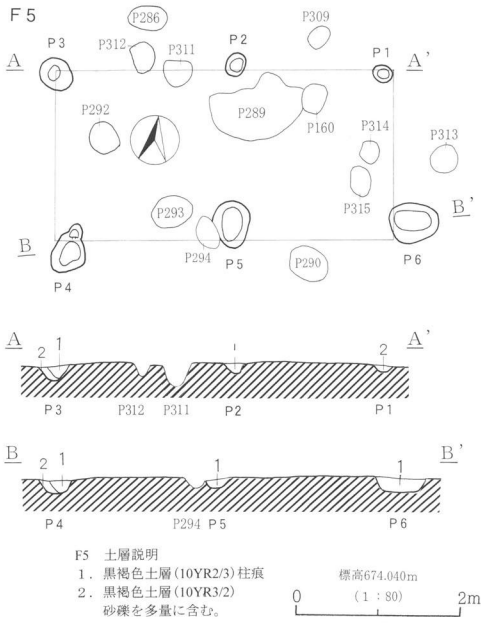


F3 完掘 (北より)

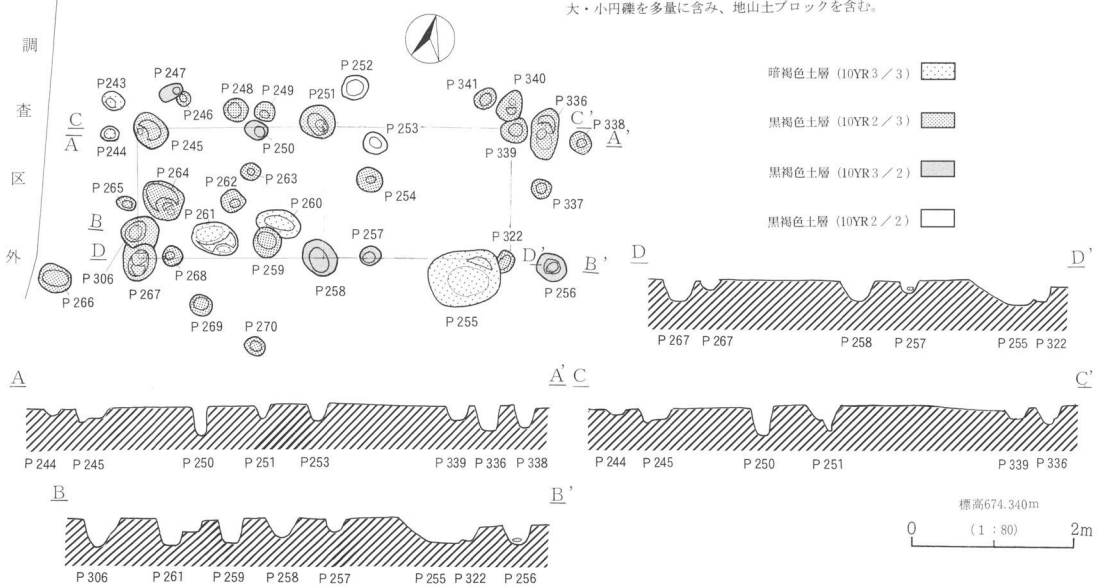


F4 完掘 (南より)

第36図 F2・F3・F4号掘立柱建物址



F7と単独ピット群



第37図 F5・F6・F7号掘立柱建物址



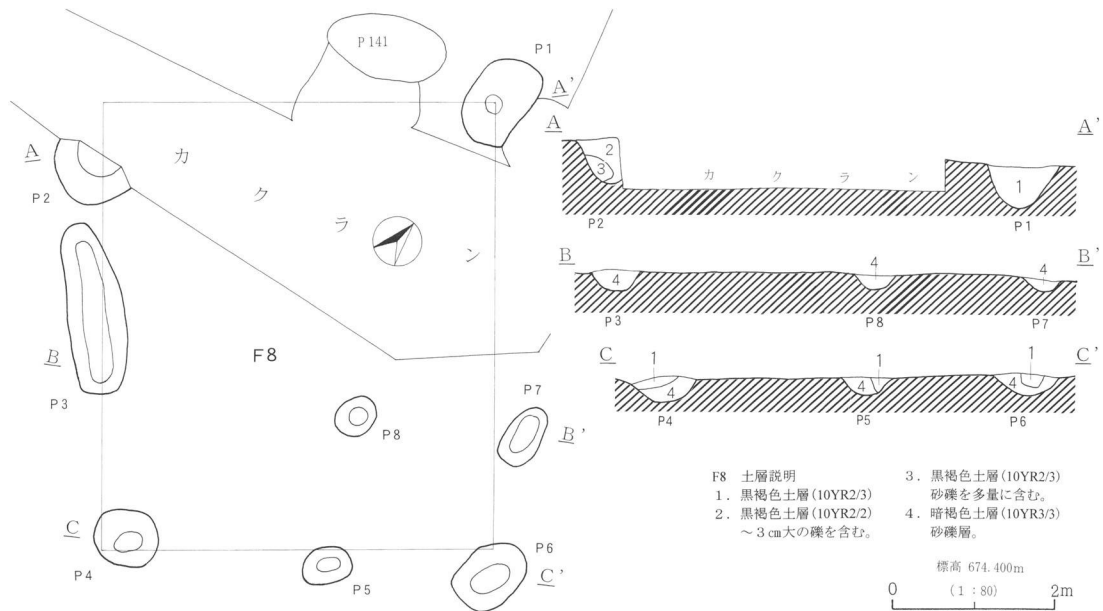
F5 完掘 (東より)



F6 完掘 (西より)



F7・単独ピット群 (北より)



第38図 F 8号掘立柱建物址

第3節 単独ピット・グリット (第39~42図、図版十五・十八)

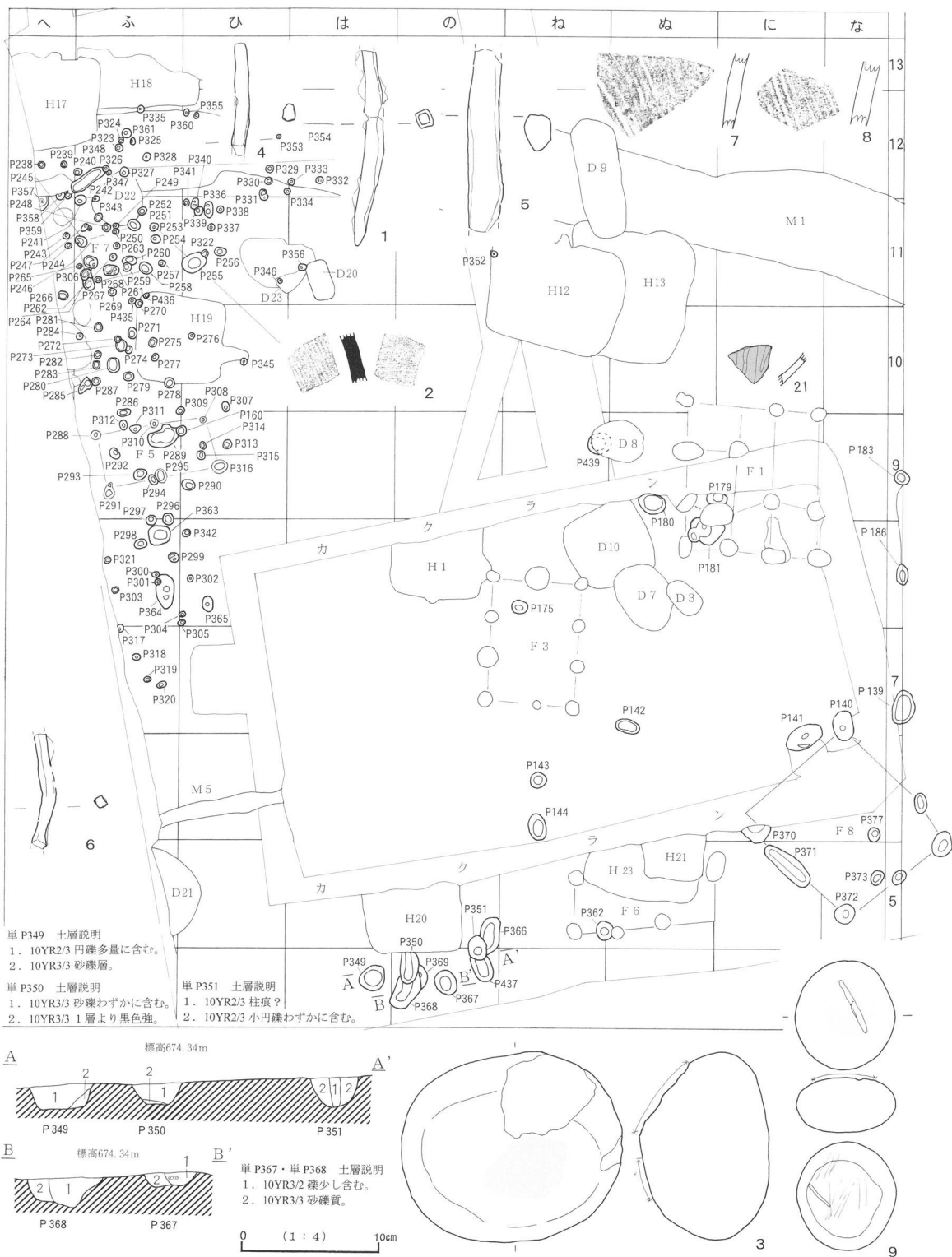
本調査から409個の単独ピットが検出されている。ひ~へ、12~7付近に密集するピットは小規模ピットで径30cm未満である。

く~そ13~7あたりは小ピットもあるが短径30cm以上のピットが多くある。いずれ礫層であるため、小さなプランの単独ピットは分かりづらく、M1に多くのピットが重複して検出されたのは土の堆積地点であるために、識別できたのであろう。

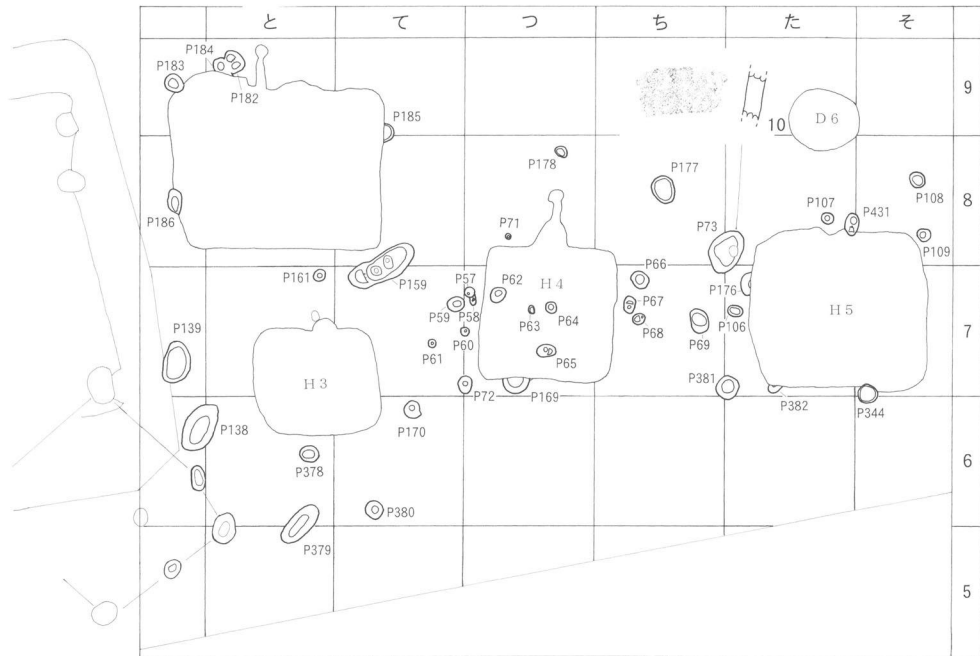
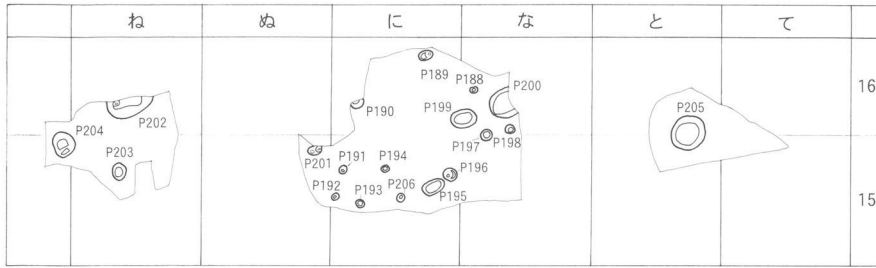
こ10グリットにある単独ピット11・12からは弥生前期の氷Ⅱ式の甕片がある。甕片には細密条痕が施される。

番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置	備考	
1	鉄軸	〈7.2〉	0.5	0.5	7.12	単P327		
番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考
2	須恵器 甕	-	内 カキ目	外 平行タタキ	破片	拓	P253	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置	備考	
3	スリ石	12.4	10.7	7.4	1.000	単P354	正面にスリ面	
4	鉄軸	〈4.2〉	0.6	0.4	2.24	ひ・ふ12グリット		
5	鉄製品	〈6.8〉	1.0	1.3	16.5	は12		
6	鉄軸	〈4.3〉	0.4	0.4	1.82	つ6ケン		
番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考
7	弥生 甕	-	内 ハケ目	外 条痕	破片	拓	は12グリットケン	
8	弥生 甕	-	内 ハケ目	外 条痕	破片	拓	ひ・ふ12グリット	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置	備考	
9	スリ石	6.1	5.7	3.1	130	は12グリットケン		
番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考
10	縄文 深鉢	-	内 ナデ	外 ミガキ	破片	拓	P73	
11	弥生 甕	-	内 ハケ目	外 条痕	破片	拓	P100	
12	弥生 甕	-	内 ハケ目	外 条痕	破片	拓	P100	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置	備考	
13	石鏃	(1.8)	(1.25)	(0.35)	0.49	P411	黒曜石。	

第24表 単独ピット・グリット出土遺物一覧表



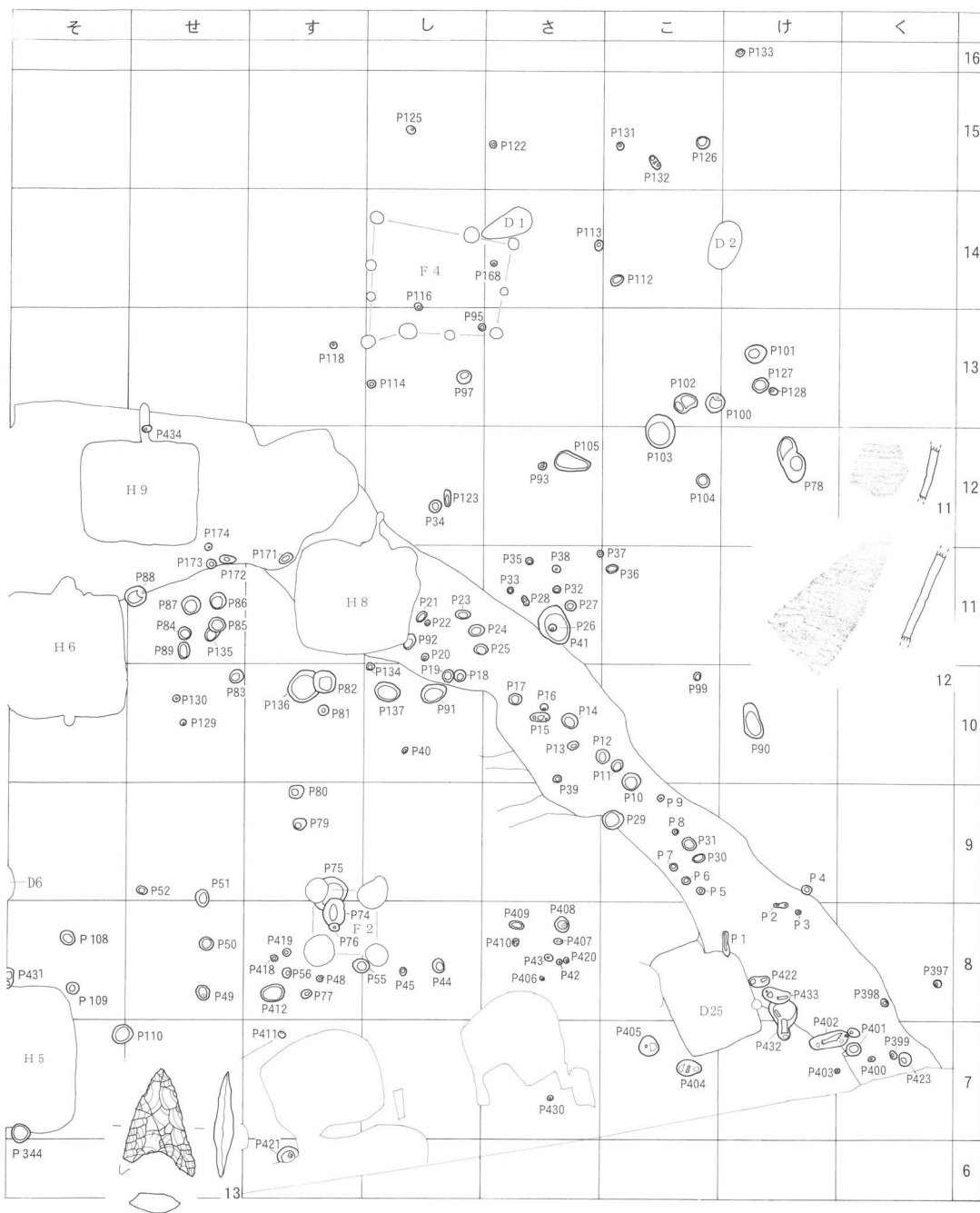
第39図 単独ピット・グリット (I)



第40図 単独ピット・グリット (2)



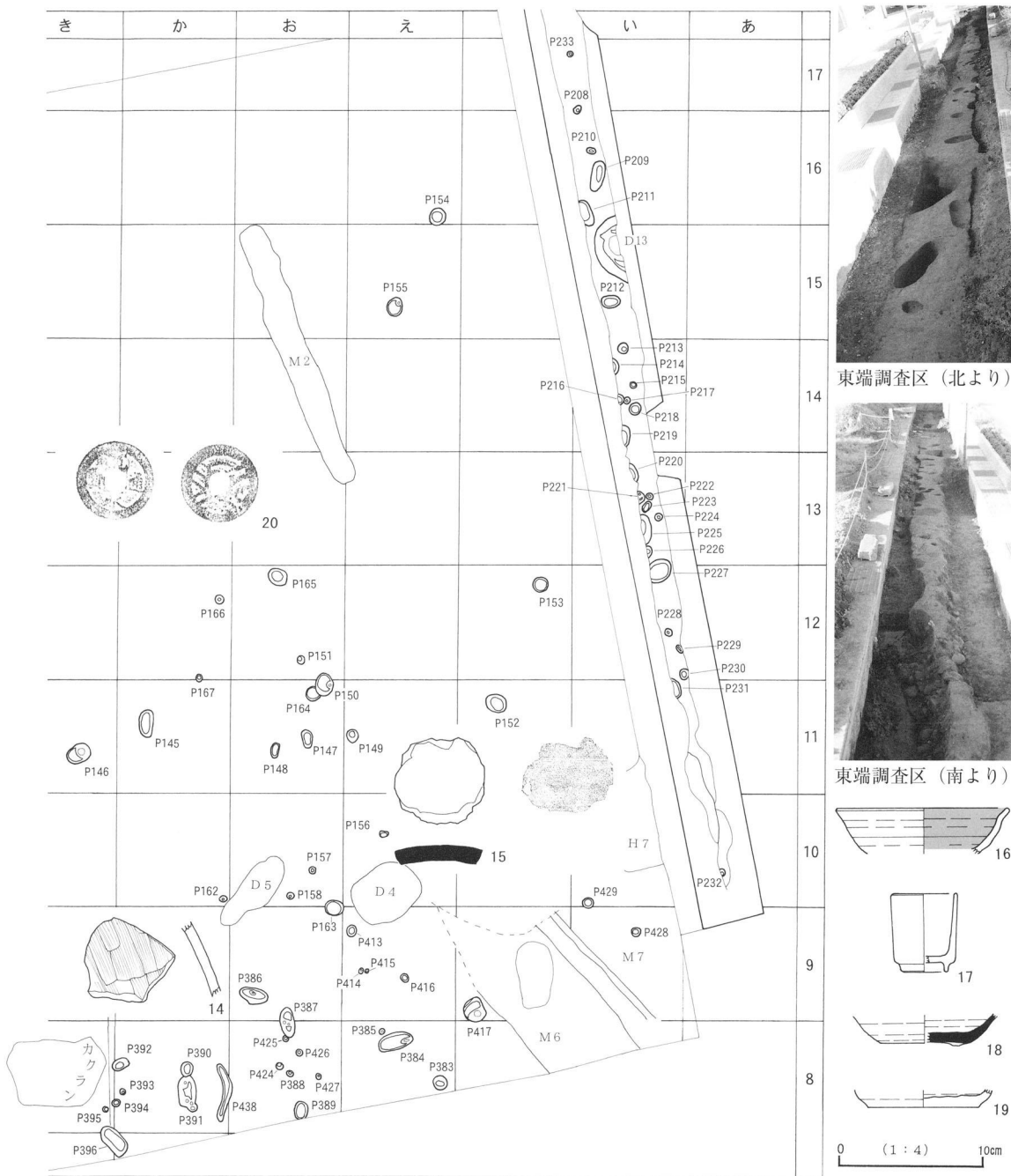
東五里田遺跡Ⅱ 全景



第41図 単独ピット・グリット (3)

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
14	弥生 甕	-	内 ハケ目 外 条痕	破片	部分	P396	
15	須恵器 円板	6.3・6.0・1.1	内 剥離 外 ヨコナデ	完存	○	う11グリット	
16	土師器 杯	(12.4)・(3.2)・(3.1)	内 ロクロナデ→黒色処理 外 ロクロナデ	破片	△	試掘Eトレ	No.2
17	陶磁器 小杯	(4.8)・(3.2)・(4.5)	内 施釉 外 施釉	1/3	△	試掘	No.1
18	須恵器 杯	-・(6.1)・(2.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	底部1/3	△	南側ケン	底部外面付着物有り。

第24表 単独ピット・グリット出土遺物一覧表



第42図 単独ピット・グリット (4)

番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考
19	土師器 杯	-(8.0)・(1.2)	内 ロクロナデ	外 ロクロナデ	底部1/3	△	西側5埋土	
番号	種類	内径 (cm)	外径 (cm)	重さ (g)	出土位置			備考
20	古銭	2.7	0.7	3.35	う11グリット			寛永通寶
番号	器種	口径・底径・器高	調整		残存	実測	出土位置	備考
21	青磁 蓮弁文 碗	-	内 施釉	外 施釉	破片	△	Ⅱ区周溝	

第24表 単独ピット・グリット出土遺物一覧表

第4節 土坑（第43～46図、図版十五・十七）

1) 土坑の規模形態

本調査では23基の土坑が検出された。

1. 不定型な土坑

楕円形基調ではあるが不定形である。土坑の性格は人為的なものより、自然的な性格が考えられ、風倒木などであろう。覆土も黄褐色土など地山に近いものである。

D 1・D 2・D 4・D 5・D12・D13・D14・D22・D23号土坑

2. 楕円形で浅い土坑

規模は様々であるが、楕円形で浅く壁がなだらかに立ち上がる。D 9は奈良時代の住居址を切っている。遺物には須恵器があり、須恵器短頸壺・甕片である。重複するH13号住居址からの混入品であろう。土坑の時期は中世であろうか。

覆土には黒褐色土と暗褐色土がある。

D 3・D 7・D 8・D 9・D15・D16

3. 円形基調で深い土坑

D 6は長径216cm深さ100cmを測る。礫層を掘り込み、覆土にも多量の円礫を含む。上層は黒褐色土で底面にはふい黄褐色土が堆積する。出土遺物は須恵器杯・須恵器甕片があり、竪穴住居址から出土するものと類似している。これらより奈良時代とすることができよう。井戸ないし深い塵穴的な土坑かも知れない。

D21は西が調査区外であるため、東半域を調査した。径324cm深さ129cmを測る。円礫と黒褐色土が覆土である。

遺物には須恵器甕片が出土している。竪穴住居址から出土する須恵器と類似していることから奈良時代の遺構と推定される。壁に沿って縦線がみられるセクションから井戸址であろうか。

D 6・D21

4. 方形ないし長方形で小規模な土坑

長方形を呈し、深さがあり、小規模な土坑である。

D20から青磁碗の高台が出土していることから、覆土はいずれも黒褐色土で、中世の土坑とみられる。

D11・D18・D20

5. 方形ないし隅丸長方形で規模が大きい土坑

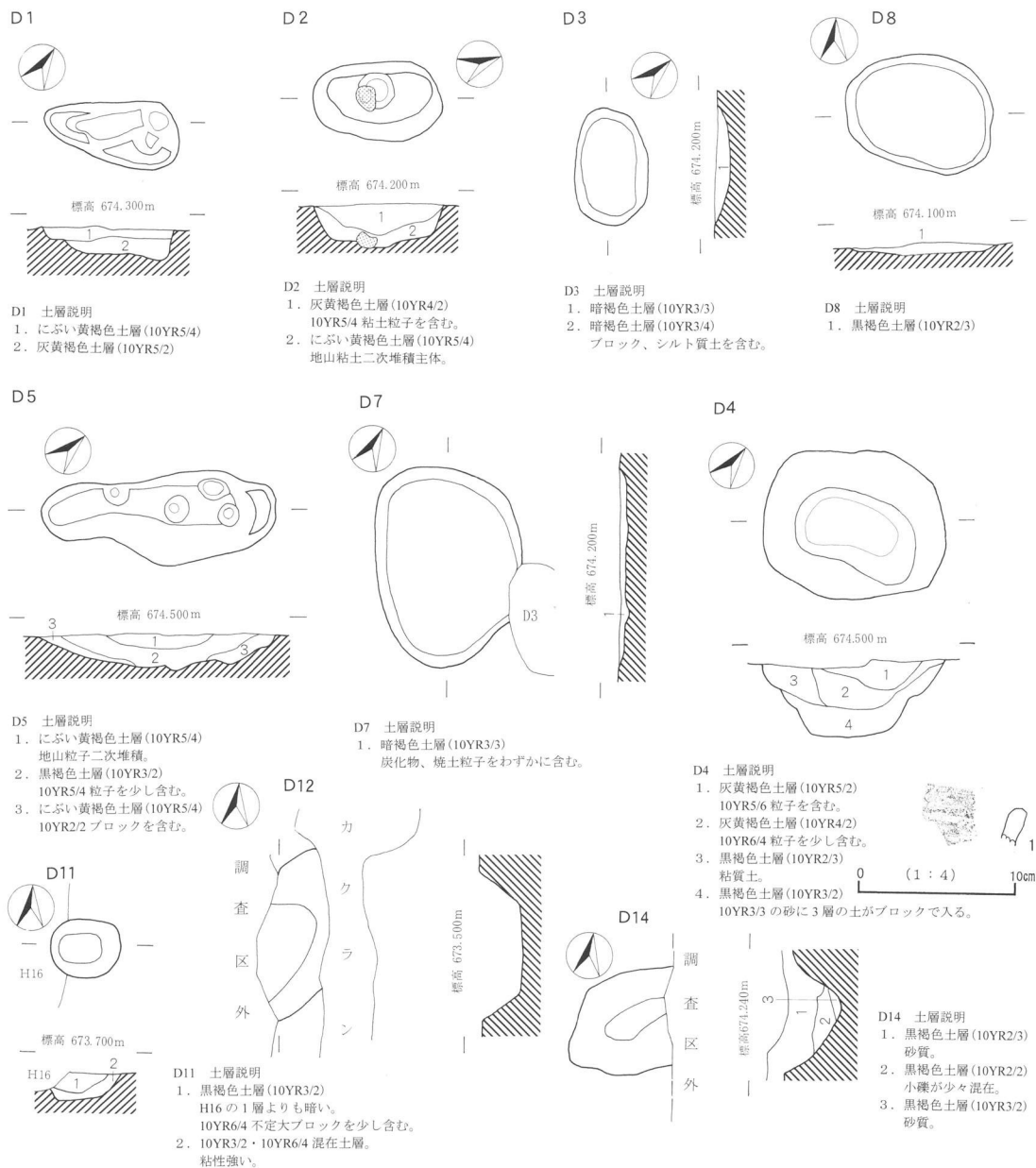
D10は東西304cm南北298cmの隅丸長方形で平坦な底面を持つが締まっではない。遺物は伴わない。D17は攪乱に三方を壊され、全容は明らかではないが平坦な底面である。壁柱穴がる。遺物は伴わない。D25は南北371cm東西283cmの隅丸長方形で平坦な面を持つ。周溝、小ピットがある。底面は締まっではない。遺物は須恵器杯、縄文土器がある。須恵器杯は底部が回転ヘラ切りされる。縄文土器は中期後半の唐草文土器か佐久土器の深鉢片で2は刺突による列点、4は突起部、3は口縁部である。

カマドがなく、火どころもない。時期は不明だが中世の可能性もある。

D10・D17・D25

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
D4-1	縄文 深鉢	-	内外 ナデ ナデ	破片	拓	D4	
D6-1	須恵器 杯	(16.5)・--・(3.2)	内外 ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/6	△	D6	
D6-2	須恵器 甕	-	内外 ナデ カキ目 タタキ目	破片	拓	D6	
D6-3	須恵器 壺	--・--・(10.8)	内外 ロクロナデ 頸部ロクロナデ→胴部タタキ目	頸部1/5	△	D6	

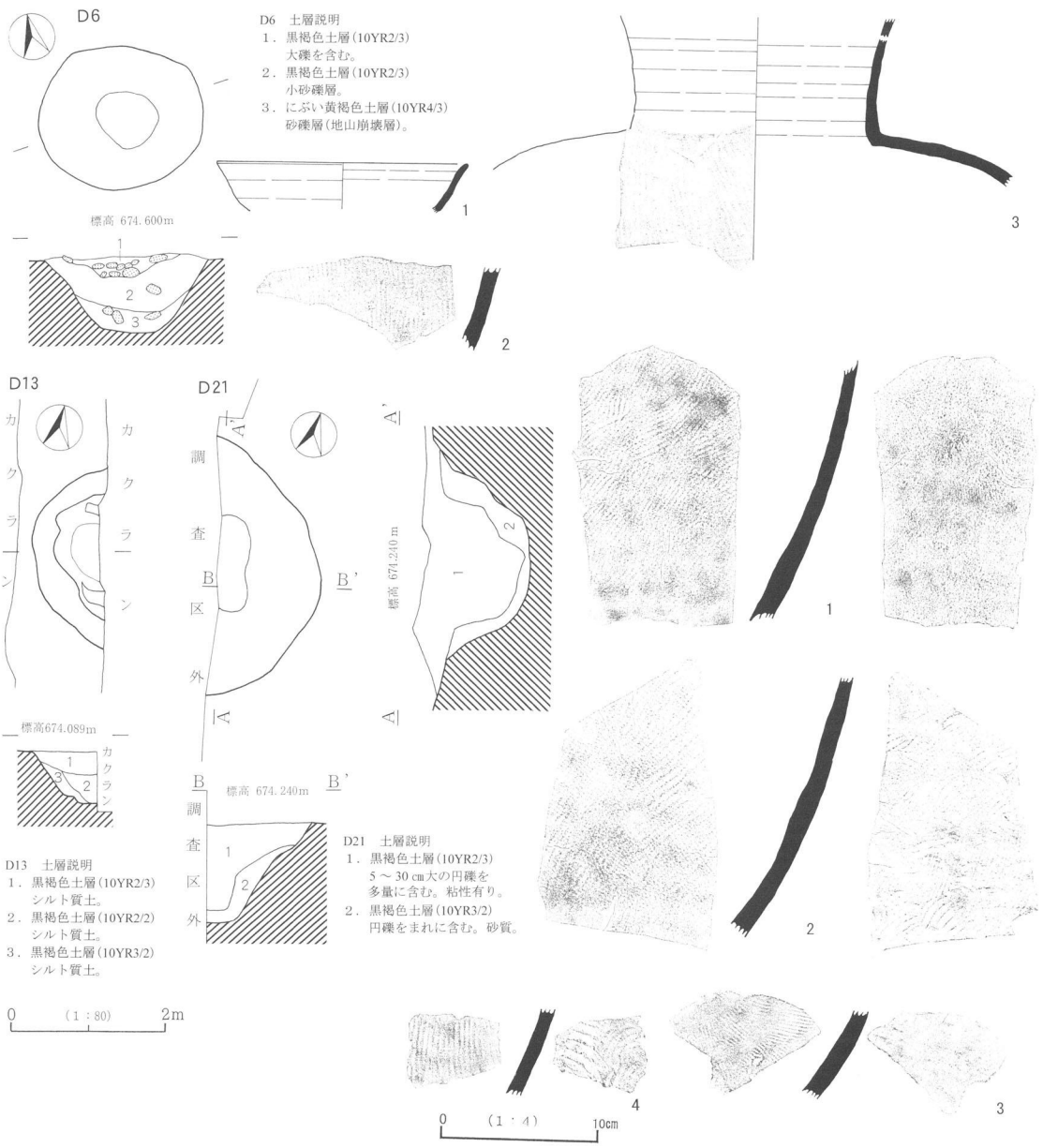
第25表 土坑出土遺物一覧表



第43図 D1～5・7・11・12・14号土坑

番号	器種	口径・底径・器高	調整	残存	実測	出土位置	備考
D9-1	須恵器 短頸甕	---・(2.7)	内外 ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/10	△	D9	
D9-2	須恵器 甕	-	内外 タタキ目	破片	拓	D9	
D20-1	青磁 碗	---・(5.4)・(1.6)	内外 施釉 高台貼付→施釉・畳付無釉	底部1/5	△	D20	

第25表 土坑出土遺物一覧表



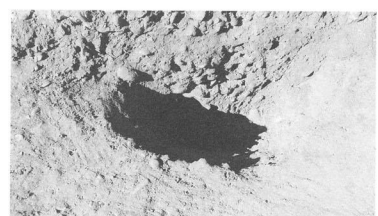
第44図 D6・D13・D21号土坑



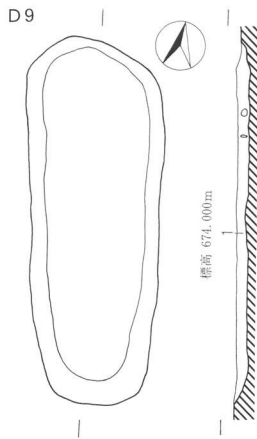
D6 完掘 (東より)



D13 完掘 (西より)

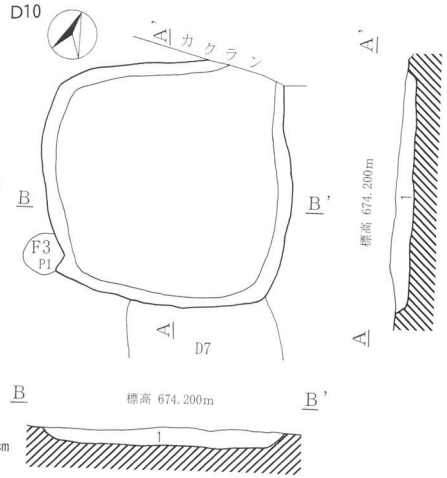
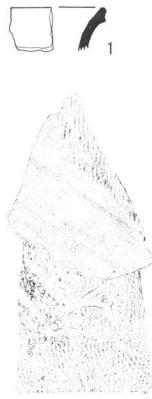


D21 完掘 (東より)



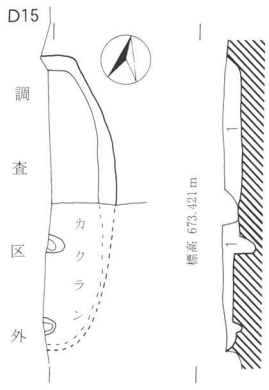
D9 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
10YR5/2シルト質土を多く含む。
焼土炭化物粒子を少し含む。



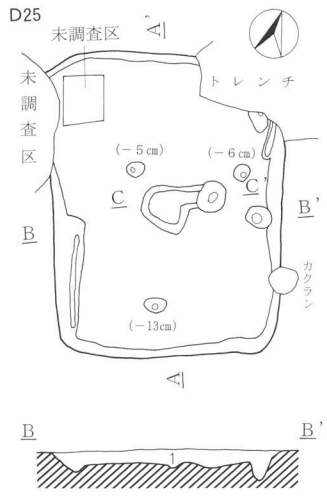
D10 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/4) 小石を多く含み、まれに焼土粒子を含む。



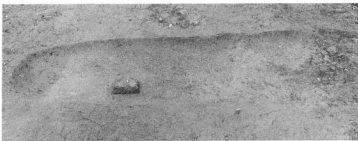
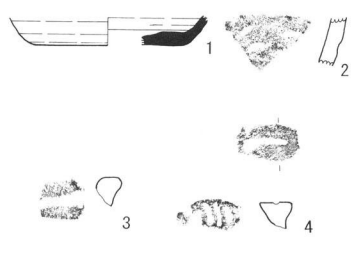
D15 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
細かい土。

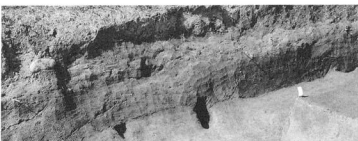


D25 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
シルト質土。



D9 完掘 (東より)



D15 セクション (東より)

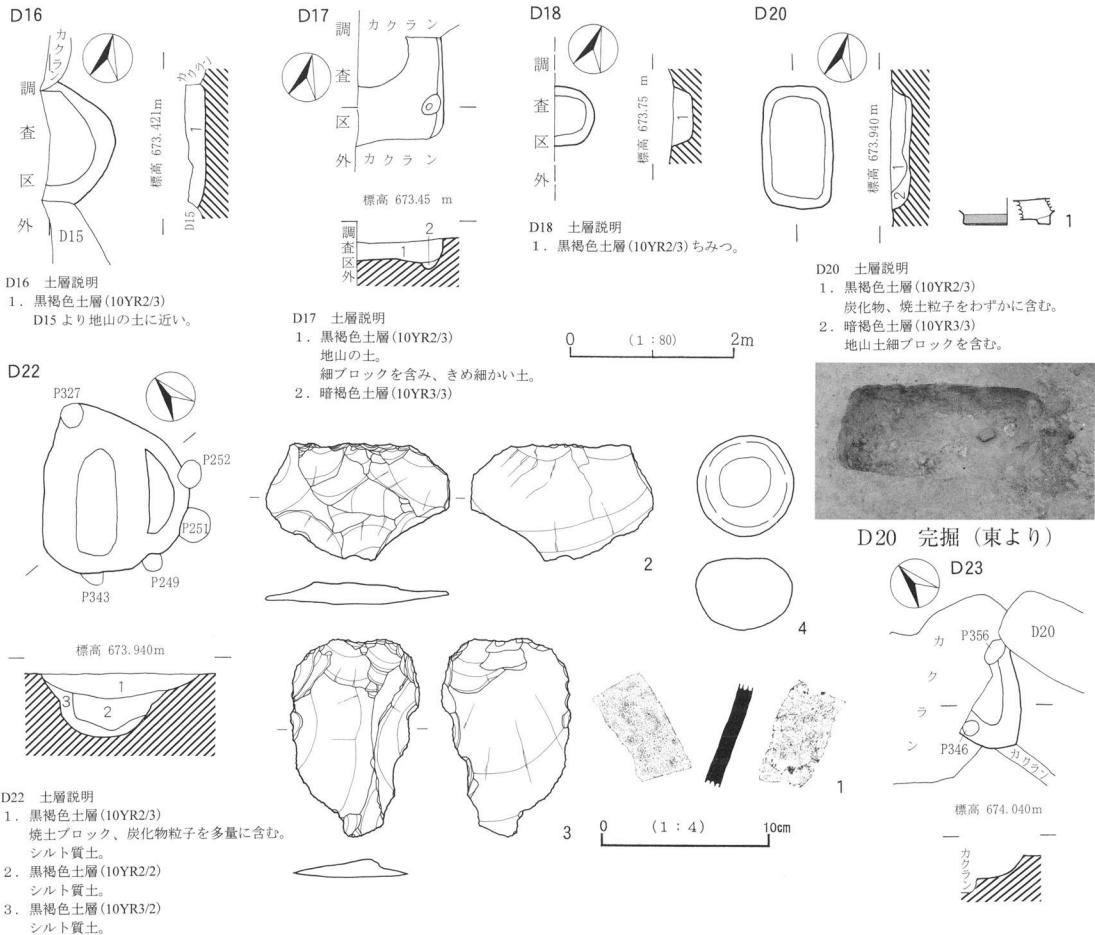


D10 完掘 (西より)



D25 完掘 (東より)

第45図 D9・D10・D15・D25号土坑



第46図 D16・D17・D18・D20・D22・D23号土坑

番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
D21-1	須恵器 甕	-	内外	ナデ	平行タタキ目		破片	拓	D21	
D21-2	須恵器 甕	-	内外	同心円文の当具痕	平行タタキ目		破片	拓	D21	
D21-3	須恵器 甕	-	内外	ナデ	平行タタキ目		破片	拓	D21	
D21-4	須恵器 甕	-	内外	同心円文の当具痕	平行タタキ目		破片	拓	D21	
D22-1	須恵器 甕	-	内外	ナデ	タタキ?		破片	拓	D22	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置		備考		
D22-2	スクレイパー	5.4	8.5	1.0	50	D22		黒色頁岩		
D22-3	スクレイパー	9.1	6.0	0.8	50	D22		黒色頁岩		
D22-4	スリ石	4.6	4.5	3.3	100	D22		安山岩		
番号	器種	口径・底径・器高	調整				残存	実測	出土位置	備考
D25-1	須恵器 杯	- (9.6)・(1.9)	内外	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り		底部1/3	△	ケン	
D25-2	縄文 深鉢	-	内外	ナデ	刺突による列点		破片	拓	ケン	
D25-3	縄文 深鉢	-	内外	ナデ			破片	拓	ケン	
D25-4	縄文 深鉢	-	内外	ナデ	沈線		破片	拓	ケン	

第25表 土坑出土遺物一覧表



D 1 完掘 (南より)



D 2 完掘 (西より)



D 3 完掘 (東より)



D 5 セクション (北より)



D 7 完掘 (東より)



D 8 完掘 (北より)



D 12 完掘 (東より)



D 15 完掘 (西より)



D 15・D 16 完掘 (北より)



D 17 完掘 (西より)



D 18 完掘 (東より)



D 23 完掘 (北より)

第5節 溝址（第47～48図、図版四・五・十五・十七・十八）

本調査では7本の溝が検出された。

1) M1号溝址

く～へ7～12グリットにおいて検出された。約89mにわたって東西方向にのび、自然堤防縁辺にあたるようである。谷とも呼称できる溝で、最も狭い所で190cm、広い所で620cmを測る。深さは最大で38cmを測る浅い溝である。出土遺物は大きく三時期あり、縄文・弥生前期・奈良時代である。奈良時代の須恵器は、住居址と重複することから混入した遺物である。

中間の遺物は弥生の遺物で、1の石鍬は溝に伴うものと考えられ、H8-10・H9-16から出土する石鍬もM1と重複したため住居に混入したものであろう。は12グリットから出土した弥生前期の氷Ⅱ式の細密条痕を施す甕片もM1の上面である。

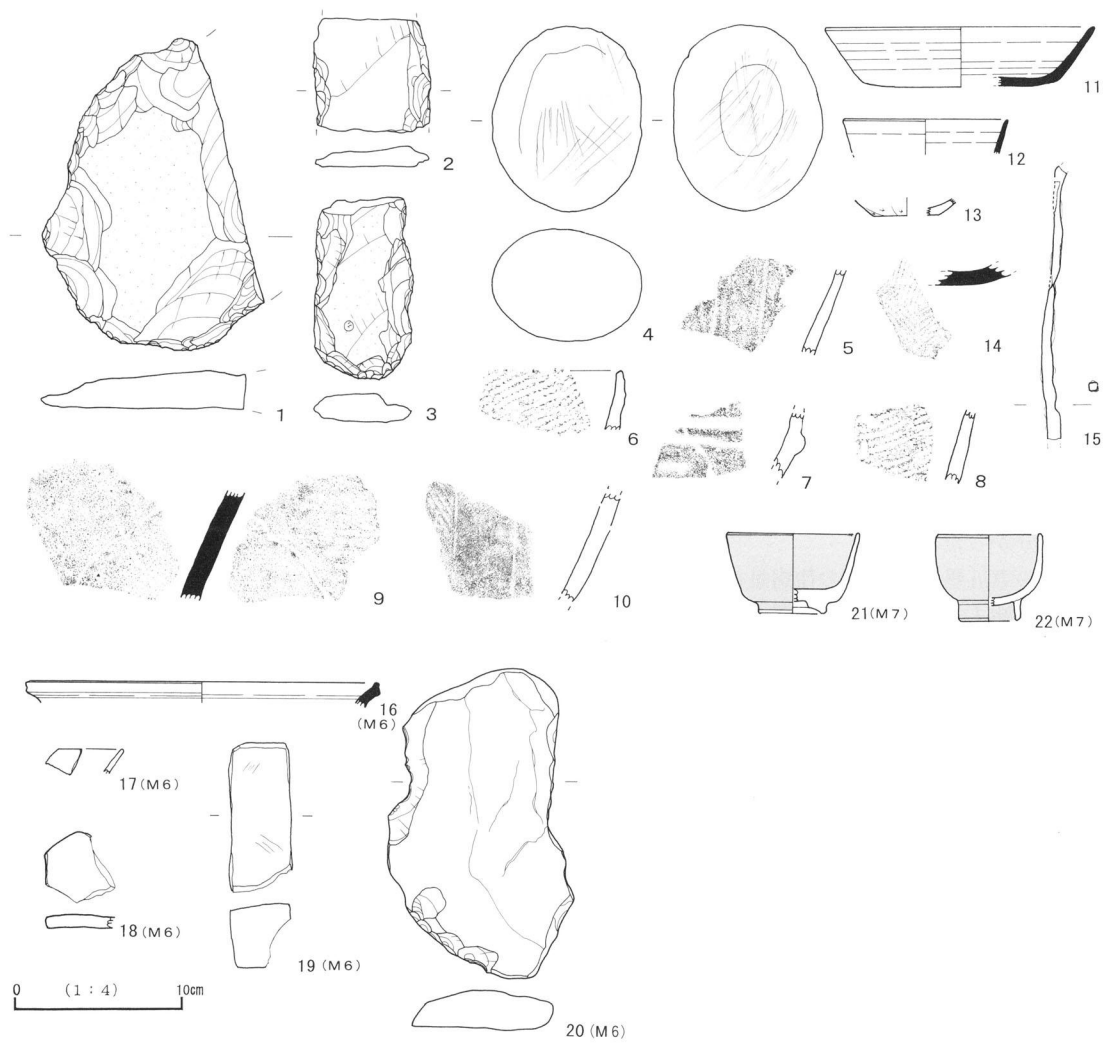
古くは縄文中期後半の加曾利EⅣの深鉢片、け8地点からは縄文前期の繊維土器深鉢（Lr無節縄文）土器が出土している。これらは周囲からの混入と考えられる。

2) その他の溝

M7は新しい近代の溝である。M6は灰釉陶器片が出土する。他は細く、局地的なもので、遺物が出土していない。

番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置			備考
1	石鍬	14.5	9.5	1.8	340	と11グリット			溶結凝灰岩
2	石斧	(5.3)	5.5	0.9	40	は11グリットケン			溶結凝灰岩
3	石斧	(8.4)	4.6	1.4	80	は11グリットケン			溶結凝灰岩
4	スリ石	8.6	6.9	5.2	410	は11グリットケン			安山岩
番号	器種	口径・底径・器高	調整			残存	実測	出土位置	備考
5	縄文 深鉢	-	内 ナデ	外 沈線		破片	拓	M1	
6	縄文 深鉢	-	内 ナデ	外 縄文		破片	拓	M1け8グリット	
7	縄文 深鉢	-	内 ナデ	外 隆帯・ナデ		破片	拓	M1	
8	縄文 深鉢	-	内 ナデ	外 縄文		破片	拓	M1け8グリット	
9	縄文 深鉢	-	内 ナデ	外 ナデ		破片	拓	M1け8グリット	
10	縄文 深鉢	-	内 ナデ	外 沈線		破片	拓	M1	
11	須恵器 杯	(16.7)・(10.9)・(3.7)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→ヘラケズリ		1/5	△	M1南側ケン	
12	須恵器 杯	(10.2)・()・(2.1)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		口縁1/8	△	M1南側ケン	
13	土師器 甕	-・(4.0)・(1.1)	内 外	? 底部外周ヘラケズリ→底部ヘラケズリ		底部1/4	△	M1南側ケン	
14	須恵器 甕	-	内 外	? タタキ目		底部	拓	M1南側ケン	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置			備考
15	鉄軸	(8.5)	0.3	0.3	2.72				
番号	器種	口径・底径・器高	調整			残存	実測	出土位置	備考
16	須恵器 甕	(21.6)・()・(1.3)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ		1/12	△	M6	
17	灰釉陶器 杯	-	内 外	施釉? 施釉?		破片	部分	M6	
18	土師器 土製 円板	-	内 外	ナデ ケズリ		1/2	完	M6	
番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土位置			備考
19	砥石	(6.9)	3.0	3.0	100	M6ケン			凝灰岩
20	石斧未製品	14.4	8.7	1.9	320	M6			溶結凝灰岩
番号	器種	口径・底径・器高	調整			残存	実測	出土位置	備考
21	磁器 碗	(8.2)・(4.0)・4.9	内 施釉	外 施釉		1/4	△	M7	
22	磁器 碗	(6.6)・(3.4)・5.3	内 施釉	外 施釉		1/4	△	M7	

第26表 溝址出土遺物一覧表



第48図 M1～M7号溝址 (2)

第V章 総括

東五里田Ⅱでは竪穴住居址23棟、掘立柱建物址8棟、単独ピット409個、土坑23基、溝址7本を調査した。掘立柱建物址・土坑・単独ピットには中世に帰属する遺構があるものの、竪穴住居址はおおよそ奈良時代である。

第1節 奈良時代（第49～52図）

竪穴住居址

隣接の東五里田遺跡Ⅰにおいて、竪穴住居址2棟、掘立柱建物址8棟は奈良時代とし、竪穴住居址1棟と周囲に掘立柱建物址5棟をセットとした遺構群を指摘した。（2004『東五里田』）今回検出した遺構群は西に続く自然堤防上の集落である。調査区の北にあった校舎により遺構が多少は壊されたとしても、校庭と校舎の中間に入れた南北トレンチや北側に入れた東西トレンチから、北中央には低地が入り込んでおり、低地を囲み半円形に遺構が分布していることが確認された。平成19年（2008）に南の東五里田遺跡Ⅲ（225m）の調査で奈良時代の住居址2棟を調査しており、集落が南に展開していることが分かった。

今回の東五里田遺跡Ⅱの住居址は重複関係があり、奈良時代の土器の新旧関係を検討してみた。東五里田遺跡Ⅰ～Ⅲを含めて土器の分類を試みた。分類の基準に2005『聖原』第5分冊、2000『下聖原』の編年を置いている。

土器様相

1. 第1段階

土師器

杯：平底ではあるがやや丸みを持ち、外稜を持って口縁が外傾する。外面は手持ちヘラケズリされる。

内面は磨耗しておりわからないがいわゆる「畿内系暗文」ないしミガキが施される。

壺：口縁が短く外反して頸部に収縮し、球胴形を呈す。胴部外面はヘラケズリされる。

甕：a.古墳時代からの厚手で長胴の甕。口縁部外反外傾する。胴部は縦方向にヘラケズリされる。H7-4
b.いわゆる「武蔵甕」。器肉の薄い平安時代の武蔵甕は、胴中位での接合痕がことに顕著で型作りともいわれる。口縁部形態が「く」字形を呈し、口縁部に最大径を持つ。H7-3

c.ロク調整痕を残す甕。H8-6

鉢：a.古墳時代後期にみられた素口縁でやや内湾気味に外傾、丸底の鉢。内面黒色処理されるがあまり丁寧なミガキ調整がなされていない。

b.口縁が外方におれ、丸底状である。体部外面はヘラケズリされる。

須恵器

杯：底部の切り離し技法がヘラ切り後、ヘラケズリされる。破片では回転ヘラ切り後未調整のものもある。平底ではあるが丸みを持つ。

高台付杯：良好な資料がない。

杯蓋：扁平でかえりのあるものはなく、口縁端部を折り返す。擬宝珠のつまみが天井に付く。

壺：丸底で高台の付かない口縁の短く立ち上がる短頸壺であろうか。肩に緩やかな稜を持つ。

甕：胴部は卵形を呈す厚手の大型の甕で、口縁が大きく外反するものと、短く外反するものがある。

口縁端部は帯状に肥厚している。この後の第2段階に比べ小振りである。

該当住居址 東五里田遺跡Ⅰ-H1・H2、東五里田Ⅱ-H2旧住居・H7・H8・H14・H18・H20・H22

2. 第2段階

土師器

杯：平底で、口縁が内湾して外傾。

壺：みられなくなる。

甕：a.類はみられなくなる。

b.いわゆる「武蔵甕」。「く」字形を呈し、最大径が口縁と胴上部に持つ。前段階より口縁部が短くなり、胴上部が張り、丈が短くなる。

c.ロク口調整痕を残す甕。H13-16

鉢：良好な資料がない。

須恵器

杯：底部の切り離し技法が糸切り後、ヘラケズリされる。一部に糸切り痕を残す。平底となる。

高台付杯：回転糸切り後高台を貼付し、高台の外周が接地する。浅いものと深いものがある。

杯蓋：扁平でかえりのあるものではなく、口縁端部を折り返す。宝珠のつまみが天井に付く。

壺：高台の付く壺底部がある。

鉢：外反する短い口縁で体上部の肩が張る。平底である。

甕：胴部は卵形を呈す厚手の大型の甕で、口縁が大きく外反するものと、短く外反するものがある。

口縁端部は帯状に肥厚している。この後の第3段階に比べ小振りである。

※H2は第3段階に分類されるべきであるが、H2の新住居の床下住居があったことから、資料が混入しており、この器のものも含まれる。編年では参考資料である。

該当住居址 東五里田Ⅱ H2新住居址・H3・H4・H5・(H9)・H10・H11・H13

3. 第3段階

土師器

杯：平底で、外稜を持って口縁が外傾する。外面はロク口調整内面はミガキ、黒色処理されるものがある。小型。

甕：a.みられない

b.いわゆる「武蔵甕」。口縁部形態に「コ」字形が現れ、胴上部は球胴形に張る。最大径を胴上部にもつ。

c.ロク口調整痕を残す甕。H8-6

鉢：平底で口縁が短く外傾胴上部が張る。

須恵器

杯：底部の切り離し技法が回転糸切り技法のまま未調整である。平底。

高台付杯：小型品がある。口縁部が底部から直立気味に上がる。高台は柱状で外周が接地する。

杯蓋：扁平でかえりのあるものではなく、口縁端部を折り返す。宝珠形のつまみが天井に付く。

壺：小型の短い口縁が立ち上がる短頸壺がある。

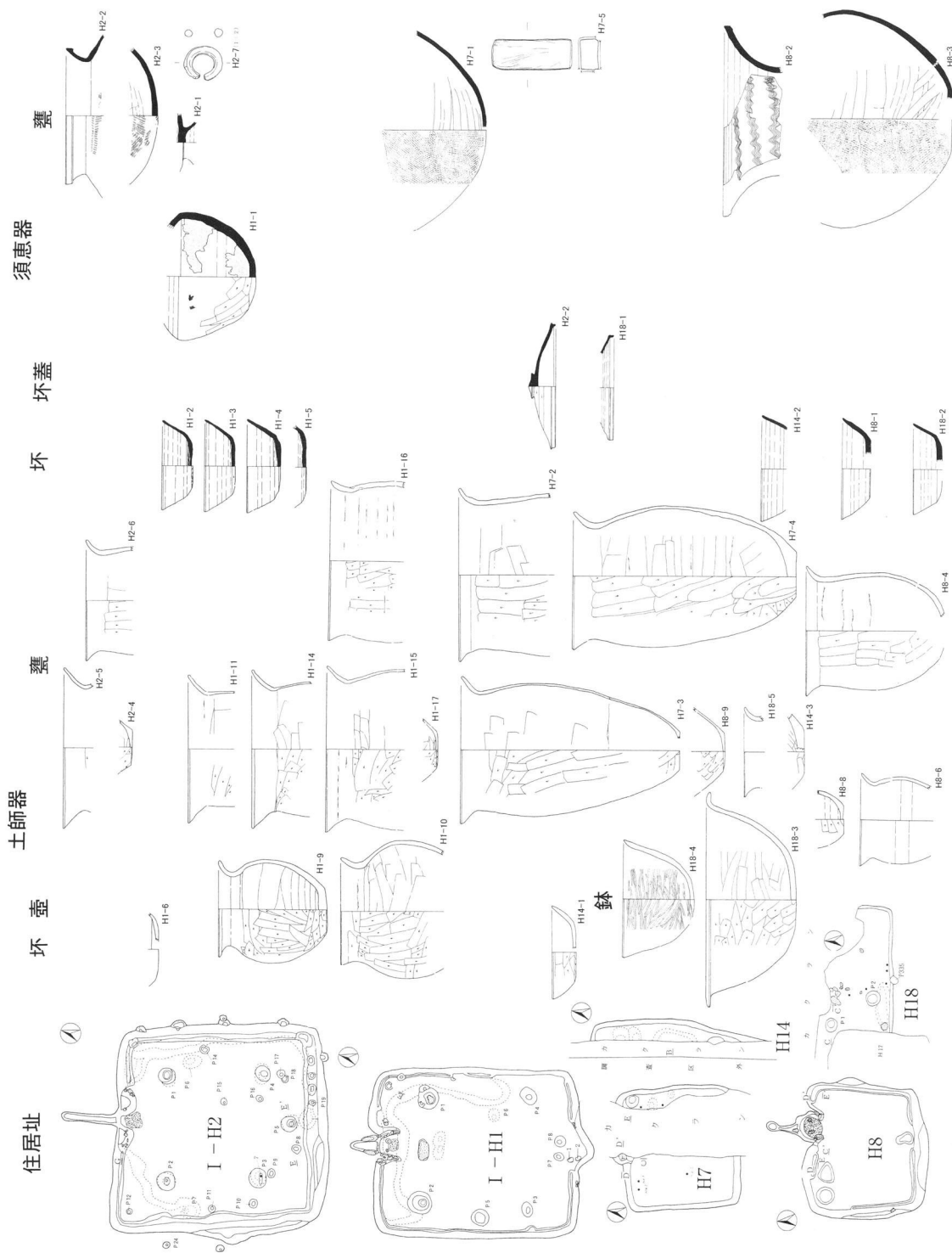
甕：胴部は卵形を呈す厚手の大型の甕で、口縁が大きく外反するものがある。口縁端部は帯状に肥厚している。大型化する。

該当住居址 東五里田ⅡH1・H6・H12・H19・H21、東五里田ⅢH3

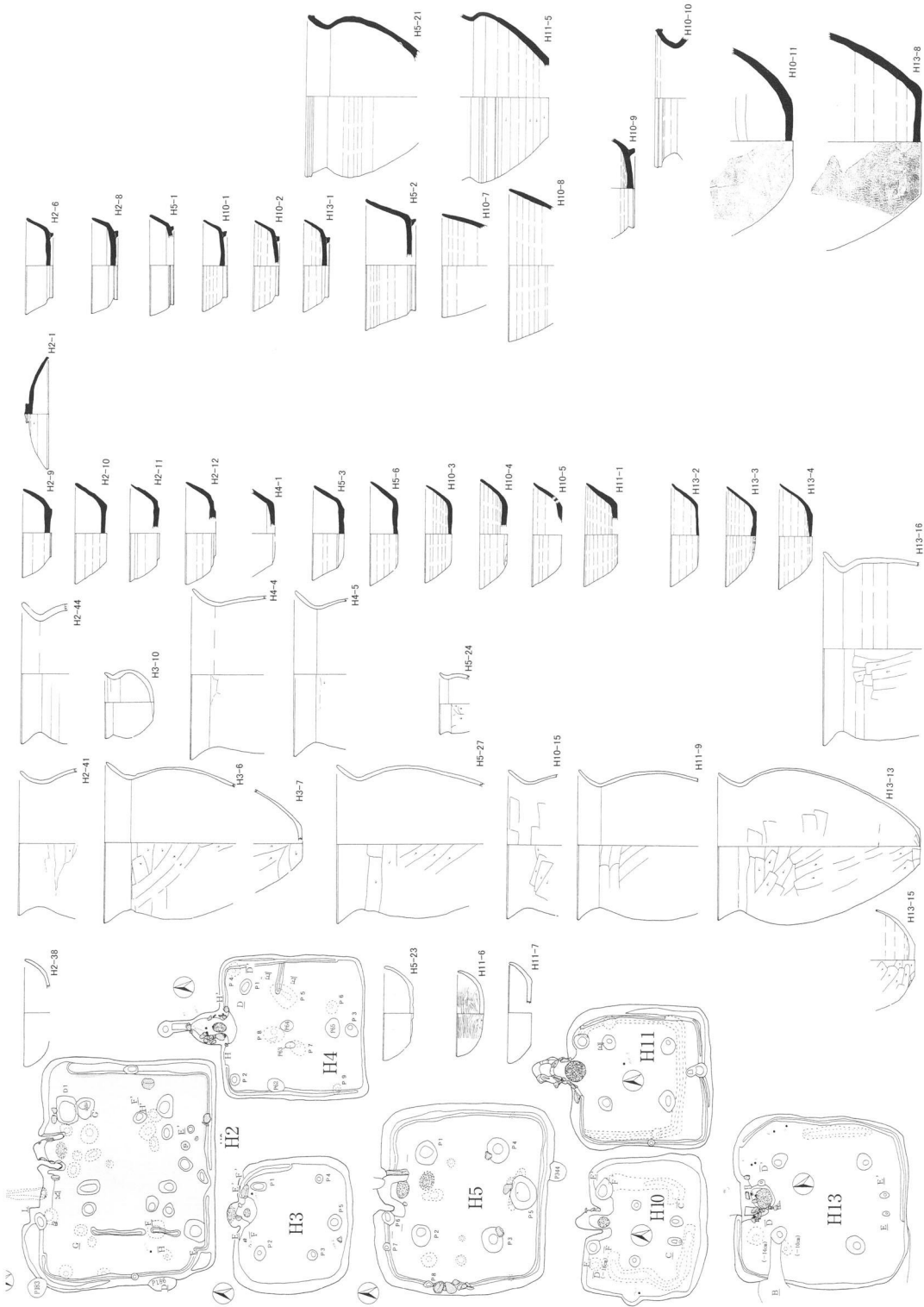
第1段階は『聖原』編年の8C第2四半期より少し古い段階、第2段階は8C第3四半期、第3段階は8C第4四半期に相当するものである。

東五里田遺跡Ⅰの2棟はH1が長方形で27.3㎡とH2が方形で32.7㎡を測り、東五里田遺跡では最大である。北東隣の薊沢遺跡（野沢北高等学校）において奈良時代の竪穴住居址2棟が検出され、薊沢H6は東五里田遺跡ⅠH1に近い形態規模で大型である。（薊沢H2の規模は15.4㎡を測る。）東五里田遺跡Ⅰでは規模の大きい竪穴住居址のみで、今回の調査ではそれを越えるものではなく、小規模な竪

第 1 段 階



第49图 土器編年图 (1)



第50図 土器編年図 (2)

第 2 段 階



第52図 東五里田遺跡Ⅱ竪穴住居址変遷図
(1:2,500)

穴住居址である。北にある寺添遺跡・宮添遺跡（1996『寺添遺跡』・2001『宮添遺跡』）では30㎡近い大型の住居址（寺添H 8）と10㎡（宮添H 4、寺添H 5）以下の小規模、15～20㎡前後の中規模の竪穴住居址とが同時期に存在している。東五里田遺跡も同様である。

佐久市では寺添遺跡H 8、上聖端遺跡H21（1993『上聖端遺跡』）、聖原遺跡H131・H252、下聖端遺跡H 1が同規模である。聖原遺跡のH667は66.4㎡・H718は55.2㎡が最大の住居址である。今のところ野沢平では30㎡前後の竪穴住居址が最大規模かつ少数な存在である。

2. 掘立柱建物址

東五里田遺跡Ⅰでは掘立柱建物址は21棟あり、掘立柱建物址は2大別され、径の大きい柱穴持つもの（短径の最大値35～70cm）と、小規模な柱穴の掘立柱建物址である。奈良時代に比定できるピットは大きな径の掘立柱建物址12棟であろう。今回もこの分類を当てはめれば、奈良時代F 1・F 2・F 3・F 4・F 6・F 8の6棟、中世がF 5・F 7の2棟と大別できよう。

1) 1間×1間の掘立柱建物址

東五里田遺跡ⅡではF 2が2×1.92mである。東五里田ⅠでF 2 2.72×2.64m、F 7 2.2×2.04m、F 9 2.4×2.4m、F 11 2.56×2.4m、F 15 3.72×2.64m、東五里田ⅠのF 7と東五里田ⅡのF 2は同規模である。東五里田ⅠのF 2・F 9・F 11の規模はやや大きい。高床の倉庫としての機能がいられている建物址である。

2) 2間×2間の掘立柱建物址

東五里田ⅠF 3 4.92×3.76m、F 8 3.36×3.2m、があるが東五里田Ⅱでは検出されていない。

3) 3間×2間の掘立柱建物址

東五里田遺跡ⅡではF 3 4.68×3.28m、F 4 4.72×3.96m、F 8 5.46×4.8m

東五里田遺跡ⅠではF 4 4.8×3.44m、F 10 <1.56>×3.52m、F 12 5.04×3.6m、F 13 4.8×4.16m、F 14 6×4.16m

東五里田ⅠのF 4・F 10・F 12はほとんど同規模である。この3棟よりF 13・F 14の規模がいくらか大きい。

東五里田遺跡ⅡのF 3・F 4は桁行4.8mを測る小規模群に、F 8はⅠのF 14の桁行規模に近い。

今回の調査では掘立柱建物址が竪穴住居址と比べ数量的に少ない。東五里田遺跡Ⅰにおいて大型の竪穴住居と数棟の掘立柱建物址がセットになっており、東五里田遺跡Ⅱの小型の竪穴住居址群では掘立柱建物址が少ないという集落構成が捉えられるのかも知れない。

第2節 中世・近世

中世とみられる遺構は掘立柱建物址と土坑・単独ピットがある。

1. 掘立柱建物址

2棟の2間×1間の掘立柱建物址は調査区南西にあり、周囲には多数のピットがみられた。

F 5 4.16×2.08m F 7 4.56×1.6m

東五里田遺跡Ⅰの中世とみられる掘立柱建物址は6棟である。東五里田遺跡Ⅰでは4分類され同一規模のものはない。桁行柱間はF 1・F 20が2mをこえ、F 6・F 19・F 21は1.6m前後である。柱穴間距離には共通するものがあるが、様々な間取りがなされたようである。

中世の掘立柱建物址は調査区南東にブロックで存在し、屋敷地を形成していたものと思われる。

第3節 弥生前期の遺物について

東五里田遺跡Ⅰでは、弥生前期の水Ⅱ式の土器が一定量まとまり、また該期の石器に見通しがたった点が挙げられている。東五里田遺跡ⅡのM 1号溝址は幅広で浅い谷地形を呈す溝であるが、この溝の出土遺物には弥生前期の水Ⅱ式の遺物群と近い時期の打製石鍬の資料が集積された。縦方向の細密

条痕の甕の小破片もみられた。

引用参考文献

佐久埋蔵文化財センター1988『薊沢・葛石』
 1989『薊沢Ⅱ・琵琶坂Ⅵ・梨の木Ⅱ・宮の上Ⅱ』の内から薊沢・薊沢Ⅱ
 佐久市教育委員会 1996『寺添遺跡』
 佐久市教育委員会 2001『宮添遺跡』
 佐久市教育委員会 1993『上聖端遺跡』
 佐久市教育委員会 2002『聖原第1分冊』
 佐久市教育委員会 2000『下聖端遺跡Ⅳ』
 佐久市教育委員会 1999『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』
 佐久市教育委員会 2004『東五里田遺跡』
 佐久市教育委員会 2005『聖原』
 佐久市教育委員会 2008『野沢館跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ』
 佐久市教育委員会 2008『市道遺跡Ⅲ・辻遺跡・儘田遺跡Ⅱ・西裏遺跡』
 1971 田辺昭三『須恵器大成』角川書店
 1981 中村浩『和泉陶邑窯の研究』柏書房
 1991 雄山閣『古墳時代の研究第6巻 土師器と須恵器』

第27表 東五里田遺跡Ⅱ 竪穴住居址遺構一覧表

遺構名	検出位置	時代	形態	規模 (m・㎡)				主軸方位	カマド・炉	柱 穴	備 考
				南北長	東西長	壁高	面積				
H1	の8	奈良	隅丸長方形	<248>	320	6~17	-	N-86° -W	東	主柱2 他3 出入口1 床下1	カクランに切られ、F3を切る。
H2 新	て9	〃	方形	466	480	34~44	26.048	N-1° -W	北	主柱4 他7 貯穴1 出入口2 床下14 (旧住居主柱穴含む)	旧カマドあり。P183・186に切られ、P184を切る。
H2 旧	〃	〃	方形	448	(480)	0~38	-		北	主柱4	
H3	て7	〃	隅丸長方形	303	338	16~30	10.241	N-5° -W	北	主柱4 出入口1	
H4	ち8	〃	方形	392	384	17~30	14.347	N-2° -E	北	他3 床下6	P62~65に切られ、P169を切る。
H5	そ8	〃	隅丸長方形	432	496	25~47	21.427	N-5° -W	北	主柱4 他3 出入口1 床下10	P344・431に切られ、P176・382を切る。
H6	そ11	〃	方形	383	392	3~12	15.013	N-1° -W	焼土範囲	他11	H22、M1を切る。
H7	あ9	〃	方形	311	344	12~29	10.698	N-17° -W	北	床下3	カクランに切られる。
H8	し11	〃	長方形	304	360	36~51	10.3	N-2° -E	北	他2 出入口1	P92、M1を切る。
H9	せ12	〃	長方形	294	364	39~50	9.878	N-1° -W	北	他5 床下4	P434、M1を切る。
H10	つ13	〃	隅丸長方形	308	383	27~36	11.796	N-5° -W	北	主柱2 出入口2 他2 床下1	
H11	つ9	〃	隅丸方形	364	360	23~36	12.46	N-2° -W	北	主柱4 他1 出入口1 床下1	M1を切る。
H12	ぬ11	〃	隅丸長方形	362	486	4~26	17.593	N-7° -E	北	他6	P352に切られH13を切る。
H13	ぬ11	〃	隅丸方形	462	460	9~27	21.252	N-11° -E	北	主柱4 他2 床下2	H12・D9に切られ、M1を切る。
H14	ほ22	〃	-	<434>	<54>	30~34	-	N-6° -W	-	他1 床下3	西側調査区外。カクランに切られ、H15を切る。
H15	ほ21	〃	-	<152>	<36>	9~12	-	N-10° -W	-		西側調査区外。H14、カクランに切られる。
H16	ほ24	〃	-	328	<230>	7~24	-	N-4° -W	-	他1 床下1	D11を切る。
H17	ふ13	〃	-	312	<288>	15~32	-	N-0°	北	他1 出入口3 床下2	西側調査区外。H18、M1を切る。
H18	ひ13	〃	-	<200>	<366>	10~16	-	N-2° -E	-	主柱1 出入口1	H17、P335、カクランに切られる。
H19	ひ10	〃	隅丸方形	275	268	22~32	7.37	N-84° -W	東	他1 床下2	P271・275~278・345・435・436に切られる。
H20	の5	〃	-	<228>	328	6~33	-	N-3° -W	-		カクランに切られ、P350を切る。
H21	ぬ6	〃	-	<156>	202	13~19	-	N-4° -E	-	他2 床下1	F6と重複。H23を切り、カクランに切られる。
H22	そ11	〃	方形	355	348	14~33	12.354	N-2° -E	北	他6	H6に切られ、M1を切る。
H23	ぬ5	〃	-	<196>	396	8~21	-	N-10° -E	-		F6と重複。H21・カクランに切られる。

第28表 東五里田遺跡Ⅱ 掘立柱建物址遺構一覧表

遺構名	検出位置	様式	桁行×梁間 (間)	桁行×梁間 (m)	桁行柱間	梁間柱間	長軸方位	柱穴規模		備 考
								短径 (cm)	深さ (cm)	
F1	に9	総柱式	3×3	5.4×4.96	1.8	1.65	N-4° -E	48~85	10~65	カクランに切られ、P178・181を切る。
F2	し9	側柱式	1×1	2×1.92	2	1.92	N-89° -W	72~100	52~58	P75を切る。
F3	ね8	側柱式	3×2	4.68×3.28	1.56	1.64	N-4° -E	31~90	8~49	H1に切られ、D10を切る。
F4	さ14	側柱式	3×3	4.28×4.72×3.96	1.48・1.32	1.64・1.16	N-87° -W	24~50	7~27	D1と重複。
F5	ひ9	側柱式	2×1	4.16×2.08	2.08	2.08	N-83° -E	22~50	9~21	P294に切られる。
F6	に5	側柱式	3×〈1〉	5.36×〈2〉	1.6	2	N-86° -E	46~65	24~33	H21・H23と重複。P362を切り、カクランに切られる。
F7	ふ11	側柱式	2×1	4.56×1.6	2.28	1.6	N-75° -E	38~42	17~33	P306と重複。
F8	な5	側柱式	3×2	5.46×4.8	1.82	2.8・2	N-41° -W	44~72	15~62	カクランに切られる。

第29表 東五里田遺跡Ⅱ 溝址遺構一覧表

遺構名	検出位置	全長 (m)	幅 (m)	深さ (cm)	備 考
M1	く7~へ12	〈89.25〉	190~620	15~38	H6・8・9・11・13・17・22、D9・22・25、P1~25・29~31・39・41・88・92・171~174・238~240・323~325・335・328~330・332・333・348・353~355・360・361・398~402・422・423・432・433、カクランに切られる。西側・南側調査区外。
M2	え13~お15	9.56	86~114	10~16	
M3	み34~む35	〈2.38〉	64~72	6~21	西側調査区外。カクランに切られる。
M4	ま25~ま26	〈1.4〉	90~92	2~5	カクランに切られる。
M5	ひ6~ふ6	〈4.6〉	46~76	9~22	西側調査区外。カクランに切られる。
M6	い8~う9	〈4.84〉	300~316	8~28	南側調査区外。カクランに切られる。
M7	い8~う9	〈5.2〉	14~24	3~7	南側調査区外。カクランに切られる。

第30表 東五里田遺跡Ⅱ 土坑一覧表

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
D1	さ14	楕円形	182	90	43	N-72° -E	F4と重複。
D2	け14	楕円形	168	105	55	N-19° -E	
D3	ぬ8	楕円形	150	96	18	N-45° -W	D7を切る。
D4	え10	楕円形	239	188	96	N-58° -E	
D5	お10	楕円形	286	118	47	N-43° -E	
D6	た9	楕円形	216	188	100	N-83° -W	
D7	ぬ8	楕円形	260	188	13	N-32° -W	D10を切り、D3に切られる。
D8	ぬ9	楕円形	190	148	16	N-4° -E	P439を切る。
D9	ね12	楕円形	448	167	21	N-9° -W	H13、M1を切る。
D10	ぬ8	正方形	304	298	26	N-62° -E	F3、D7に切られる。
D11	ほ23	隅丸長方形	〈92〉	76	34	N-85° -E	H16に切られる。
D12	ま24	-	160	〈100〉	59	N-30° -W	西側調査区外。カクランに切られる。
D13	い15	-	210	〈87〉	71	N-2° -W	カクランに切られる。
D14	へ17	-	〈140〉	130	61	N-57° -E	東側調査区外。
D15	む36	-	(344)	〈80〉	27	N-12° -W	西側調査区外。D16を切り、カクランに切られる。
D16	む36	-	〈142〉	〈82〉	24	N-7° -W	西側調査区外。D15、カクランに切られる。
D17	み30	-	〈124〉	〈104〉	39	N-13° -W	西側調査区外。カクランに切られる。
D18	み28	隅丸長方形	70	〈50〉	34	N-17° -W	西側調査区外。
D19	欠						
D20	は11	長方形	151	88	26	N-15° -W	D23を切る。
D21	ひ5	-	324	〈134〉	129	N-16° -W	西側調査区外。
D22	ふ12	円形	208	197	84	N-37° -E	P242・249・251・252・327・343に切られ、M1を切る
D23	は11	-	〈124〉	〈62〉	31	N-42° -E	D20、P346・356、カクランに切られる。
D24	欠						
D25	け6	長方形	371	283	38	N-22° -W	未調査区あり。トレンチ、カクランに切られ、M1を切る。

第31表 東五里田遺跡Ⅱ単独ピット一覧表

遺構名	出土位置	規模 (cm)		平面形	覆土	備考
		長径×短径×深さ				
P1	け8	96×22×19	楕円形	1.暗褐色土層 (10YR3/3) 2.褐色土層 (10YR4/6)	M1を切る。	
P2	け8	39×15×18	不整形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P3	け8	20×18×18	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P4	け9	36×32×31	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P5	こ9	29×24×16	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P6	こ9	26×25×13	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P7	こ9	22×21×10	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P8	こ9	20×16×17	楕円形	1.暗褐色土層 (10YR3/3) 2.褐色土層 (10YR4/6)	M1を切る。	
P9	こ9	21×20×18	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P10	こ10	61×56×18	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P11	こ10	46×36×22	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P12	こ10	50×44×19	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P13	さ10	37×26×13	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P14	さ10	57×47×23	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P15	さ10	69×33×60	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	M1を切る。土師器カメ5片	
P16	さ10	27×20×46	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P17	さ10	37×36×15	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P18	し10	41×38×20	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P19	し10	44×39×15	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P20	し11	28×21×14	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P21	し11	43×24×11	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P22	し11	19×17×9	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P23	し11	50×31×19	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P24	し11	51×38×19	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P25	し11	42×35×21	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P26	さ11	26×24×11	円形	褐色土層 (10YR4/4)	P41を切る。	
P27	さ11	34×33×16	円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P28	さ11	37×18×32	楕円形	褐灰色土層 (10YR4/1)		
P29	こ9	65×63×34	円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P30	こ9	50×31×16	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P31	こ9	52×44×13	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	M1を切る。	
P32	さ11	26×21×11	楕円形	1.褐灰色土層 (10YR4/1) 2.褐色土層 (10YR4/6)		
P33	さ11	23×21×6	円形	1.褐灰色土層 (10YR4/1) 2.褐色土層 (10YR4/6)		
P34	し12	43×40×35	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)		
P35	さ11	26×24×7	円形	1.褐色土層 (10YR4/4) 2.褐色土層 (10YR4/6)		
P36	こ11	42×32×18	楕円形	1.褐色土層 (10YR4/4) 2.褐色土層 (10YR4/6)		
P37	さ11	22×22×17	円形	1.褐色土層 (10YR4/4) 2.褐色土層 (10YR4/6)		
P38	さ11	29×22×13	楕円形	1.褐色土層 (10YR4/4) 2.褐色土層 (10YR4/6)		
P39	さ10	28×28×11	円形	1.褐色土層 (10YR4/4) 2.褐色土層 (10YR4/6)	M1を切る。	
P40	し10	28×18×17	楕円形	1.褐色土層 (10YR4/4) 2.褐色土層 (10YR4/6)		
P41	さ11	138×103×52	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	P26に切られ、M1を切る。	
P42	さ8	22×19×15	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P43	さ8	27×25×34	円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P44	し8	50×44×23	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P45	し8	27×23×17	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P46	欠					
P47	欠					
P48	す8	27×23×15	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P49	せ8	52×40×29	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)		
P50	せ8	46×44×17	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)		
P51	せ9	56×48×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	須恵器カメ1片、土師器カメ1片	
P52	せ9	39×30×35	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P53	欠					
P54	欠					
P55	す8	54×48×25	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		

遺構名	出土位置	規模 (cm)		平面形	覆土	備考
		長径×短径×深さ				
P56	す8	35×30×20	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P57	つ7	32×32×13	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	P58を切る。	
P58	つ7	〈40〉×18×7	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P57に切られる。	
P59	て7	62×44×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P60	つ7	29×27×10	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)		
P61	て7	26×22×9	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P62	つ7	51×41×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H4を切る。	
P63	つ7	29×19×7	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H4を切る。	
P64	つ7	38×30×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H4を切る。	
P65	つ7	58×40×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H4を切る。	
P66	ち7	58×47×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	土師器カメ2片、杯1片	
P67	ち7	55×36×11	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	須恵器カメ1片、	
P68	ち7	42×34×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	土師器カメ1片	
P69	ち7	72×65×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)		
P70	欠					
P71	つ8	18×14×8	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)		
P72	つ7	57×43×16	楕円形	-		
P73	た8	138×97×57	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.黒褐色土層 (10YR2/3)	縄文2片	
P74	す8	〈84〉×73×25	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	P76に切られ、P75を切る。	
P75	す9	110×〈66〉×21	-	褐色土層 (10YR4/4)	F2、P74に切られる。	
P76	す8	33×29×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P74を切る。	
P77	す8	37×28×11	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P78	け12	160×77×36	不整形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P79	す9	41×39×41	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P80	す9	54×46×14	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P81	す10	33×32×26	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P82	す10	78×76×48	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	P136を切る。	
P83	せ10	48×42×27	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P84	せ11	46×42×18	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P85	せ11	56×53×18	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	P135を切る。	
P86	せ11	59×52×21	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P87	せ11	66×60×26	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P88	せ11	76×66×40	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	M1を切る。	
P89	せ11	58×40×17	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P90	け10	127×64×38	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P91	し10	86×61×23	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P92	し11	53×33×22	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	H8に切られ、M1を切る。	
P93	さ12	30×23×18	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P94	欠					
P95	し13	23×22×23	円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P96	欠					
P97	し13	48×46×18	円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P98	欠					
P99	こ10	26×25×6	円形	褐色土層 (10YR4/4)	土師器カメ3片、弥生前期カメ2片	
P100	こ13	65×64×41	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	土師器カメ1片	
P101	け13	70×63×26	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P102	こ13	82×58×21	不整形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P103	こ13	114×101×40	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)		
P104	こ12	46×40×6	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)		
P105	さ12	120×63×14	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)		
P106	た7	44×32×18	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P107	た8	36×34×24	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)		
P108	そ8	49×48×18	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P109	そ8	42×40×29	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)		
P110	せ7	66×58×19	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)		

遺構名	出土位置	規模 (cm)	平面形	覆土	備考
		長径×短径×深さ			
P111	欠				
P112	こ14	42×32×25	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P113	さ14	38×30×22	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P114	し13	31×26×6	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P115	欠				
P116	し14	31×26×10	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P117	欠				
P118	す13	24×23×14	円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P119	欠				
P120	欠				
P121	欠				
P122	さ15	26×23×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P123	し12	60×23×14	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P124	欠				
P125	し15	30×24×21	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P126	こ15	48×43×22	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P127	け13	58×47×12	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P128	け13	36×24×18	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P129	せ10	21×20×25	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	
P130	せ10	20×18×25	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	
P131	こ15	27×26×14	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	
P132	こ15	50×28×14	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	
P133	け16	28×27×19	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	
P134	し10	29×28×22	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P135	せ11	56×43×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P85に切られる。
P136	す10	110×98×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P82に切られる。
P137	し10	82×62×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P138	と6	164×92×39	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P139	な7	128×84×15	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P140	な7	114×76×62	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	F8に変更。 カクランに切られる。
P141	に7	146×81×58	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	カクランに切られる。
P142	ぬ7	96×52×11	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P143	ぬ6	64×62×42	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P144	ぬ6	102×68×21	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P145	か11	97×48×18	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P146	き11	87×64×19	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P147	お11	61×38×25	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P148	お11	54×29×30	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P149	え11	42×40×28	円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P150	お11	80×64×44	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	P164を切る。
P151	お12	29×27×9	円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P152	う11	78×66×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P153	う12	57×54×23	円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P154	え17	60×58×20	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P155	え16	67×56×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P156	え10	34×24×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P157	お10	24×24×13	円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P158	お10	26×25×14	円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P159	て8	219×85×70	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P160	ひ9	36×30×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P289に切られる。
P161	と7	36×35×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P162	か10	25×25×13	円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P163	お9	65×56×14	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P164	お11	47×42×10	楕円形	褐色土層 (10YR4/4)	P150に切られる。
P165	お12	69×56×28	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	

遺構名	出土位置	規模 (cm)	平面形	覆土	備考
		長径×短径×深さ			
P166	か12	29×28×21	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P167	か12	25×22×24	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P168	さ14	20×18×20	円形	褐色土層 (10YR4/4)	
P169	つ7	76×(51)×34	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	H4に切られる。
P170	て6	56×50×30	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR3/2)	
P171	す11	53×24×14	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	M1を切る。
P172	せ11	58×28×15	楕円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	M1を切る。
P173	せ11	33×30×9	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	M1を切る。
P174	せ11	27×25×18	円形	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	M1を切る。
P175	ぬ8	62×50×18	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P176	た7	76×28×38	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	H5に切られる。
P177	ち8	85×67×20	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P178	つ8	42×35×17	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/4)	
P179	に9	69×(42)×31	-	1.黒褐色土層 (10YR3/2) 2.暗褐色土層 (10YR3/4)	F1、カクランに切られる。
P180	ぬ9	102×76×40	楕円形	1.暗褐色土層 (10YR3/3) 2.黒褐色土層 (10YR2/3) 3.暗褐色土層 (10YR3/3)	カクランに切られる。
P181	ぬ8	130×90×69	-	暗褐色土層 (10YR3/3)	F1、カクランに切られる。
P182	と9	74×(56)×29	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P184と重複。
P183	な9	58×51×22	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H2を切る。
P184	と9	(45)×44×13	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	P182と重複。H2に切られる。
P185	て9	47×(35)×20	-	暗褐色土層 (10YR3/3)	H2に切られる。
P186	な8	83×42×25	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	H2を切る。
P187	は21	64×62×29	円形	にぶい黄褐色土層 (10YR6/4)	
P188	な16	22×20×8	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P189	に16	44×27×22	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P190	に16	44×(20)×14	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	カクランに切られる。
P191	に15	23×22×21	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P192	に15	25×19×8	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/4)	
P193	に15	30×25×7	楕円形	にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)	
P194	に15	24×22×10	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P195	に15	64×42×14	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/4)	
P196	に15	38×38×28	円形	にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)	弥生カメ?1片
P197	な16	36×32×5	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P198	な16	32×28×8	楕円形	にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)	
P199	な16	84×54×8	楕円形	にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)	
P200	な16	92×(75)×22	-	灰黄褐色土層 (10YR4/2)	カクランに切られる。
P201	ぬ15	44×29×18	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P202	ぬ16	149×60×28	-	黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。
P203	ぬ15	52×42×31	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/4)	
P204	の15	76×67×21	楕円形	にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)	
P205	と16	112×100×39	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	土師器カメ1片
P206	に15	28×22×2	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P207	欠				
P208	い17	33×23×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P209	い16	107×45×32	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR2/3) 3.黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。
P210	い16	34×20×6	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR3/2)	
P211	い16	91×(38)×11	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。
P212	い15	72×45×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P213	い14	42×40×15	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P214	い14	60×(23)×40	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	カクランに切られる。
P215	い14	23×21×13	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P216	い14	37×(21)×26	-	黒褐色土層 (10YR3/2)	P217を切。カクランに切られる。
P217	い14	26×22×17	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	P216に切られる。
P218	い14	46×44×11	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P219	い14	74×(26)×16	-	黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。
P220	い13	68×(20)×16	-	黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。

遺構名	出土位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆土	備考
P222	い13	25×23×34	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P223	い13	50×29×36	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P224	い13	27×23×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P225	い13	111×(34)×24	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	カクランに切られる。
P226	い13	41×(20)×15	-	暗褐色土層 (10YR3/3)	カクランに切られる。
P227	い12	(84)×83×14	-	黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。
P228	い12	28×22×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P229	い12	31×18×11	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。
P230	い12	39×34×4	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P231	い11	67×(23)×13	-	黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。
P232	あ10	19×(16)×22	-	黒褐色土層 (10YR3/2)	カクランに切られる。
P233	う17	24×21×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P234	う19	34×30×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P235	う20	31×(29)×19	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	カクランに切られる。
P236	み32	44×33×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P237	み32	39×32×7	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P238	へ12	28×22×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る。
P239	へ12	24×21×29	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る。
P240	ふ12	28×23×14	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る。
P241	ふ11	43×39×28	円形	1.暗褐色土層 (10YR3/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/4)	
P242	ふ11	26×24×14	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	D22を切る。
P243	へ11	27×22×23	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	柱痕9cm巾。
P244	へ11	23×18×7	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P245	ふ11	45×38×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P246	ふ11	18×16×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P247を切る。
P247	ふ11	30×21×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P246に切られる。
P248	ふ11	31×29×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P249	ふ11	25×24×29	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/4)	D22を切る。
P250	ふ11	26×21×35	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P251	ふ11	45×42×33	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/4)	D22を切る。
P252	ふ11	35×30×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	D22を切る。
P253	ふ11	30×27×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P254	ふ11	32×29×36	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P255	ひ11	88×67×41	長方形	暗褐色土層 (10YR3/3)	P322を切る。
P256	ひ11	37×35×25	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P257	ふ11	25×23×17	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P258	ふ11	48×39×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P259	ふ11	38×33×31	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	P260を切る。
P260	ふ11	55×33×13	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	P259に切られる。
P261	ふ11	58×40×33	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P262	ふ11	28×26×26	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P263	ふ11	23×22×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P264	ふ11	52×43×24	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P265	ふ11	23×15×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P266	へ11	41×34×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P267	ふ11	(48)×42×30	-	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	P306と重複。
P268	ふ11	24×23×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P269	ふ11	27×24×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P270	ふ11	26×21×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P271	ふ10	43×33×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P272	ふ10	25×21×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P273を切る。
P273	ふ10	(40)×36×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P274を切り、 P272に切られる。
P274	ふ10	25×(23)×15	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P273に切られる。
P275	ふ10	39×32×38	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	

遺構名	出土位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆土	備考
P277	ふ10	28×26×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P278	ふ10	37×36×17	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P279	ふ10	38×31×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P280	ふ10	58×51×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P281	ふ10	28×26×12	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P282	ふ10	26×24×15	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P283	ふ10	28×28×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P284	ふ10	26×22×18	長方形	-	カクランに切られる。
P285	ふ10	60×36×25	不整形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P286	ふ10	46×31×18	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P287	ふ10	28×24×13	長方形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P288	ふ9	40×38×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	F5に変更。
P289	ふ9	114×79×17	不整形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P160を切る。
P290	ひ9	52×40×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P291	ふ9	64×42×21	不整形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	F5に変更。
P292	ふ9	42×34×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P293	ふ9	50×38×8	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P294	ふ9	42×26×17	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	F5を切る。
P295	ふ9	57×46×18	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	F5に変更。
P296	ふ8	49×40×23	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P297	ふ8	38×37×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P298	ふ8	46×38×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P299	ふ8	36×36×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P300	ふ8	22×21×11	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P301	ふ8	23×23×14	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P364を切る。
P302	ひ8	25×24×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P303	ふ8	23×22×18	方形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P304	ひ8	24×22×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P305	ひ8	26×24×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P306	ふ11	47×(38)×35	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P267と重複。
P307	ひ10	34×28×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P308	ひ9	23×22×9	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	F5に変更。
P309	ひ10	29×23×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P310	ふ9	29×23×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	F5に変更。
P311	ふ9	36×32×29	不整形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P312	ふ9	38×27×22	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P313	ひ9	37×33×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P314	ひ9	27×24×8	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P315	ひ9	37×25×13	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P316	ひ9	60×50×18	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	F5に変更。
P317	ふ7	23×(22)×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	西側調査区外。
P318	ふ7	28×26×24	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P319	ふ7	24×22×25	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P320	ふ7	39×26×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P321	ふ8	23×22×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P322	ひ11	(23)×23×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P255に切られる。
P323	ふ12	30×26×19	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P324	ふ12	23×22×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P325	ふ12	27×22×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P326	ふ12	28×24×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P347・348を切る。
P327	ふ12	34×31×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D22を切る。
P328	ふ12	28×28×13	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P329	ひ12	27×23×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P330	ひ12	28×27×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。

遺構名	出土位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆土	備考
P331	ひ12	43×33×17	不整形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P332	は12	28×26×37	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P333	は12	26×25×31	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P334	は12	23×23×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P335	ふ12	25×24×18	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H18、M1を切る。
P336	ひ11	64×33×33	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P337	ひ11	25×24×22	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P338	ひ11	27×26×27	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P339	ひ11	31×30×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P340に切られる。
P340	ひ11	39×30×22	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P339を切る。
P341	ひ11	28×24×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P342	ひ8	28×26×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P343	ふ11	30×22×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D22を切る。
P344	そ7	58×56×15	円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	H5を切る。
P345	ひ10	28×23×14	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H19を切る。
P346	ひ11	16×15×12	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D23を切る。
P347	ふ12	16×14×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P326に切られる。
P348	ふ12	〈140〉×45×44	楕円形	1.灰黄褐色土層 (10YR4/2) 2.黒褐色土層 (10YR3/2) 3.黒褐色土層 (10YR2/2)	P326、カクランに切られ、M1を切る。
P349	は4	92×90×39	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P350	の4	〈125〉×70×40	楕円形	1.暗褐色土層 (10YR3/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	H201に切られ、P368・369を切る。
P351	の5	95×70×47	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR2/3)	P366・437を切る。
P352	の9	32×32×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	H12を切る。
P353	ひ12	17×15×9	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P354	ひ12	72×38×48	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P355	ひ12	18×18×14	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P356	は11	33×20×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D23を切る。
P357	へ11	〈46〉×〈35〉×23	-	暗褐色土層 (10YR3/3)	西側調査区外、カクランに切られる。
P358	へ12	31×〈22〉×20	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	カクランに切られる。
P359	へ12	29×20×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	カクランに切られる。
P360	ひ12	24×24×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P361	ふ12	36×34×16	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P362	ぬ5	70×62×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	F6に切られる。
P363	ふ8	85×74×31	長方形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P364	ふ8	129×73×54	楕円形	1.暗褐色土層 (10YR3/4) 2.暗褐色土層 (10YR3/4)	P301に切られる。
P365	ひ8	57×38×22	楕円形	1.暗褐色土層 (10YR3/4) 2.暗褐色土層 (10YR3/4)	
P366	の5	〈140〉×76×32	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR2/3)	P351に切られる。
P367	の4	100×78×21	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR3/2) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P368	の4	〈178〉×96×46	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR3/2) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	P350に切られ、P369を切る。
P369	の4	〈101〉×40×29	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	P350・368に切られる。
P370	に6	107×〈66〉×53	-	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.黒褐色土層 (10YR2/3)	F8に変更、カクランに切られる。
P371	に5	211×72×24	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	F8に変更。
P372	な5	80×70×34	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	F8に変更。
P373	な5	59×47×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P374	な5	61×45×22	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	F8に変更。
P375	と6	96×73×49	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	F8に変更。
P376	な6	79×44×15	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	F8に変更。
P377	な6	54×45×15	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	F8に変更。
P378	と6	61×51×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P379	と6	144×68×24	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR3/2) 3.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P380	て6	57×52×15	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P381	た7	72×63×28	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P382	た7	32×〈30〉×21	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	H5に切られる。
P383	え8	52×49×17	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P384	え8	125×60×33	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/4) 3.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P385	え8	20×19×21	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	

遺構名	出土位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆土	備考
P386	お9	108×58×29	不整形	1.暗褐色土層 (10YR3/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P387	お9	106×50×37	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR3/2)	
P388	お8	25×25×13	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P389	お8	〈61〉×54×29	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR3/2)	南側調査区外。
P390	か8	52×42×16	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P391を切る。
P391	か8	〈129〉×61×40	不整形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P390に切られる。
P392	か8	60×38×24	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P393	か8	21×20×21	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P394	か8	34×26×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P395	き8	20×20×21	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P396	か7	117×60×29	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR3/2) 3.暗褐色土層 (10YR3/3)	
P397	く8	24×24×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P398	く8	31×28×22	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P399	く7	32×25×27	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る。
P400	く7	27×15×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	M1を切る。
P401	く7	51×49×28	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P402	く7	135×52×39	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	M1を切る。
P403	く7	21×18×10	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P404	こ7	87×48×31	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/4)	
P405	こ7	66×65×23	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P406	さ8	15×13×9	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P407	さ8	28×18×21	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P408	さ8	51×51×29	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P409	さ8	50×26×14	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P410	さ8	25×13×20	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P411	す7	22×21×34	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P412	す8	82×58×5	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P413	え9	41×38×14	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P414	え9	22×17×20	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P415	え9	16×16×25	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P416	え9	35×22×10	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P417	う9	80×78×20	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P418	す8	22×21×8	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P419	す8	26×26×11	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P420	さ8	19×19×10	円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P421	す6	71×〈50〉×23	-	黒褐色土層 (10YR2/3)	カクランに切られる。
P422	け8	72×34×26	楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	M1を切る。
P423	く7	49×42×19	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR3/2) 2.黒褐色土層 (10YR2/3) 3.暗褐色土層 (10YR3/3)	M1を切る。
P424	お8	25×24×10	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P425	お8	22×20×6	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P426	お8	24×21×10	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P427	お8	23×18×22	楕円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P428	い9	35×33×26	円形	暗褐色土層 (10YR3/4)	
P429	い10	41×40×14	円形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P430	さ7	16×16×14	円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	
P431	そ8	76×36×26	楕円形	にぶい黄褐色土層(10YR4/3)	H5を切る。
P432	け8	〈124〉×90×47	不整形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR3/2)	P433に切られ、M1を切る。
P433	け8	92×48×47	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P432・M1を切る。
P434	せ12	36×24×26	楕円形	-	H9に切られる。
P435	ふ11	21×〈12〉×25	楕円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	H19を切る。
P436	ふ11	26×〈24〉×25	-	黒褐色土層 (10YR3/2)	H19を切る。
P437	の4	〈91〉×69×32	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR2/3)	P351・366に切られる。
P438	か8	221×34×17	不整形	暗褐色土層 (10YR3/3)	
P439	ぬ9	〈88〉×80×35	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.暗褐色土層 (10YR3/3) 3.黒褐色土層 (10YR2/3)	D8に切られる。



H1 セクション (東より)



H1 完掘 (西より)



H1 カマド (西より)



H1 カマド (南より)



H1 堀方 (西より)



H2 セクション (東より)



H2 完掘 (北より)



H2 カマド (東より)



H2 カマド芯材 (南より)



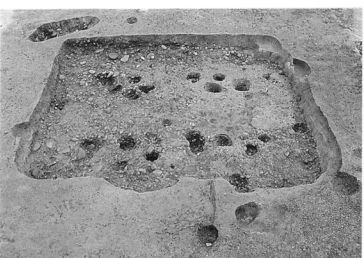
H2 カマド堀方 (東より)



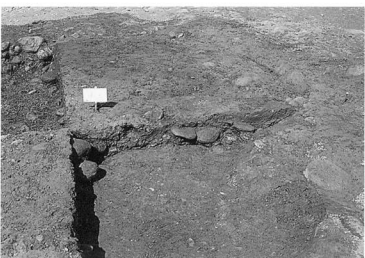
H2 旧カマド煙道 (東より)



H2 旧カマド煙道 (南より)



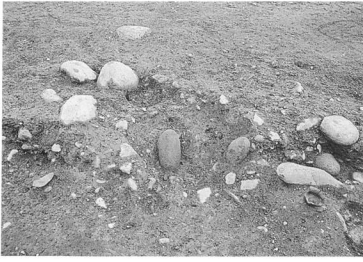
H2 堀方 (北より)



H3 セクション (東より)



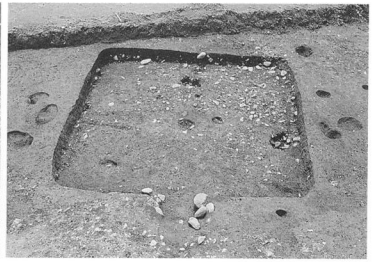
H3 完掘 (南より)



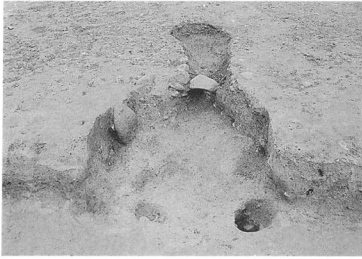
H3 カマド (南より)



H3 堀方 (西より)



H4 完掘 (北より)



H4 カマド堀方 (南より)



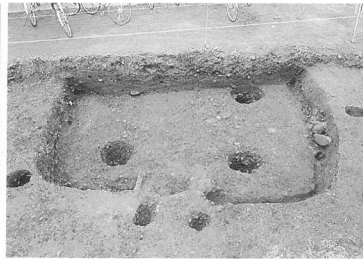
H4 カマド堀方 (東より)



H4 堀方 (南より)



H5 セクション (北より)



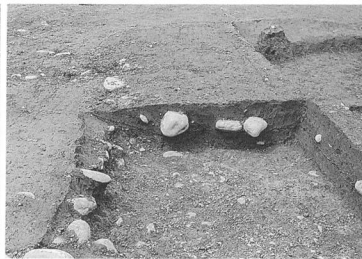
H5 完掘 (北より)



H5 カマド (東より)



H5 カマド堀方 (東より)



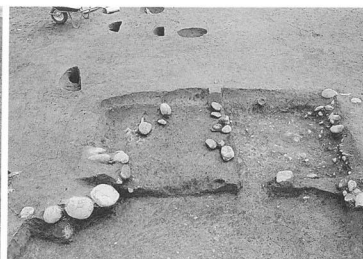
H6 セクション (東より)



H6 セクション (南より)



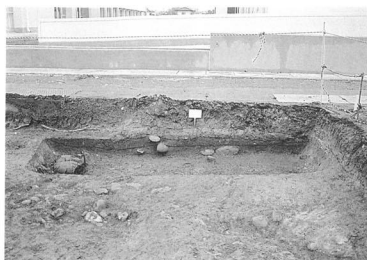
H6 カマド (東より)



H6 完掘 (西より)



H6 カマド堀方 (東より)



H7 セクション (東より)



H7 完掘 (南より)



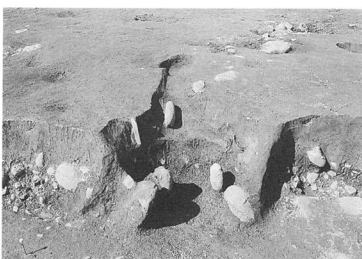
H7 堀方 (南より)



H8 セクション (東より)



H8 完掘 (南より)



H8 カマド完掘 (南より)



H8 カマド堀方 (東より)



H8 堀方 (南より)



H9 セクション (東より)



H9 完掘 (北より)



H9 カマド (東より)



H9 カマド堀方 (東より)



H9 堀方 (南より)



H10 カマド (東より)



H10 堀方 (東より)



H11 カマド完掘 (南より)



H11 堀方 (南より)



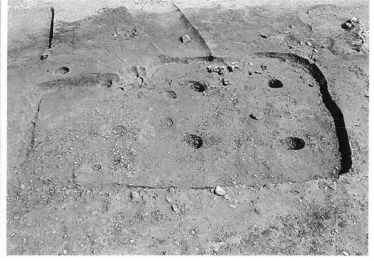
H12 カマド完掘 (南より)



H12 カマド芯材 (南より)



H12 カマド堀方 (東より)



H12・13 完掘 (南より)



H12・13 堀方 (南より)



H13 カマド堀方 (東より)



H19 カマド完掘 (西より)



H19 堀方 (西より)



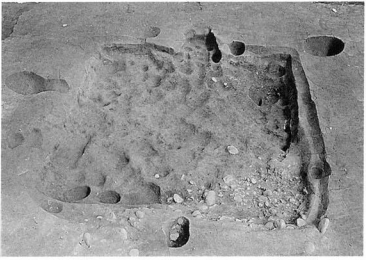
H22 カマドセクション (西より)



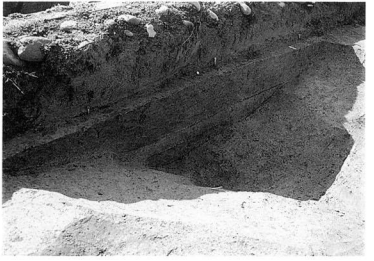
H22 完掘 (南より)



H22 カマド完掘 (南より)



H22 堀方 (南より)



M1 セクション (北より)



M1 南端完掘 (北より)



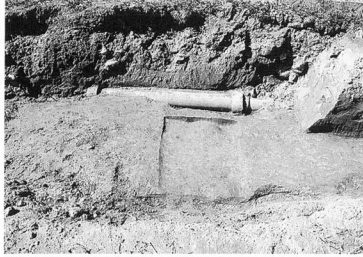
M1 南端完掘 (南より)



M1 西端完掘 (東より)



M3 完掘 (東より)



M4 完掘 (東より)



M5 完掘 (東より)



M6 完掘 (南より)



⑤地点西全景 (北より)



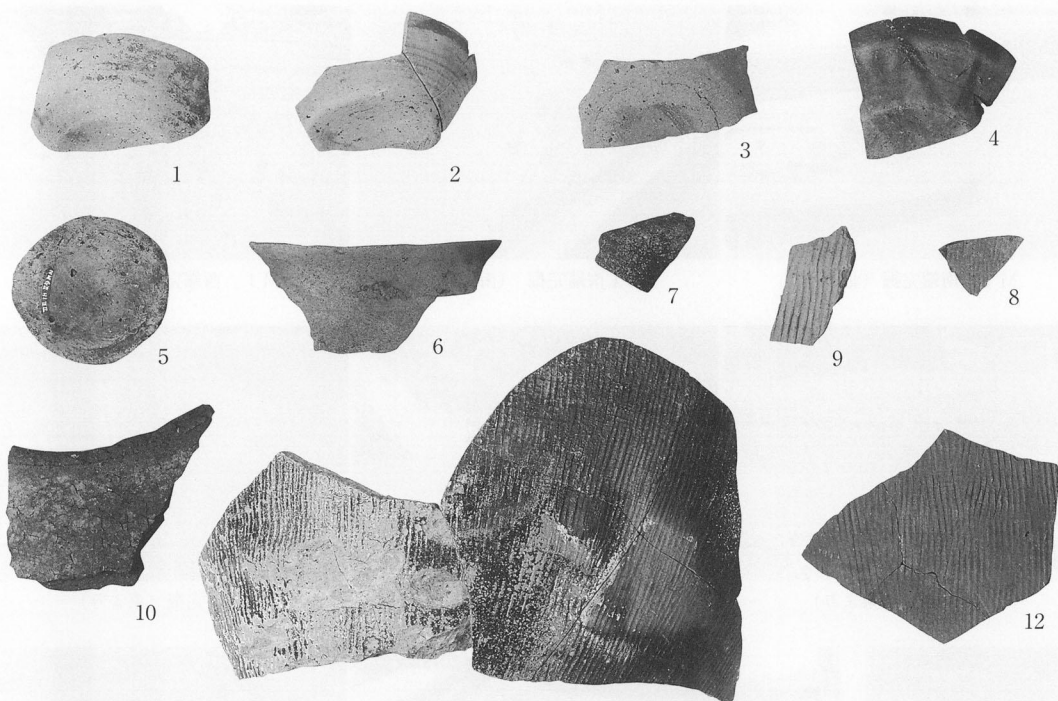
⑤地点西全景 (南より)



⑤地点南全景 (西より)

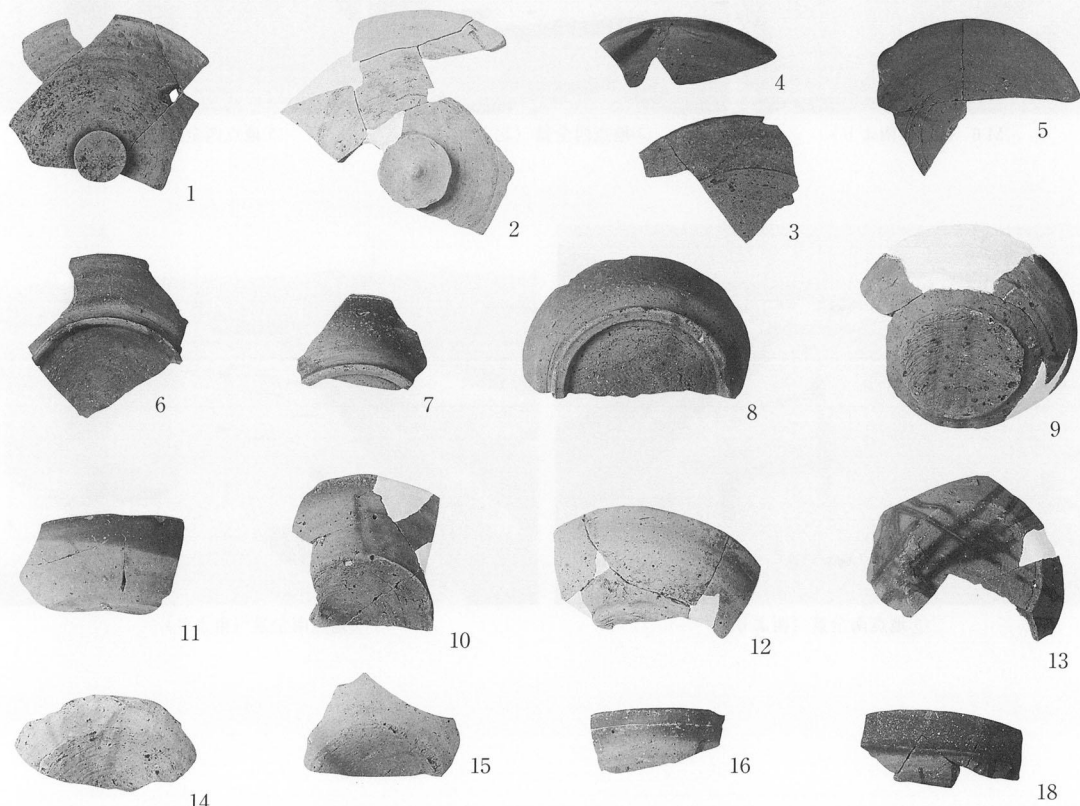


⑤地点南全景 (東より)



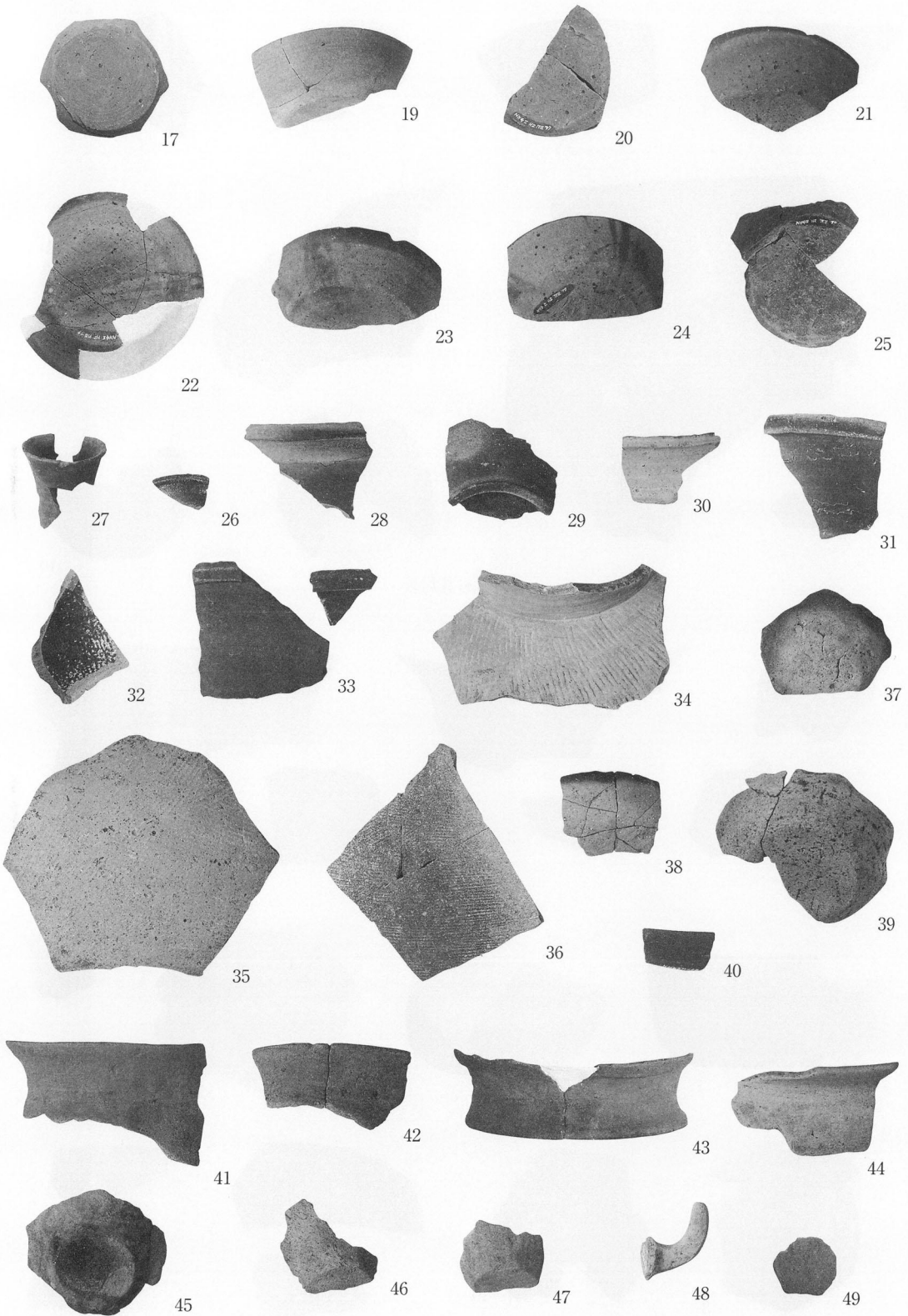
H 1 号住居址

11

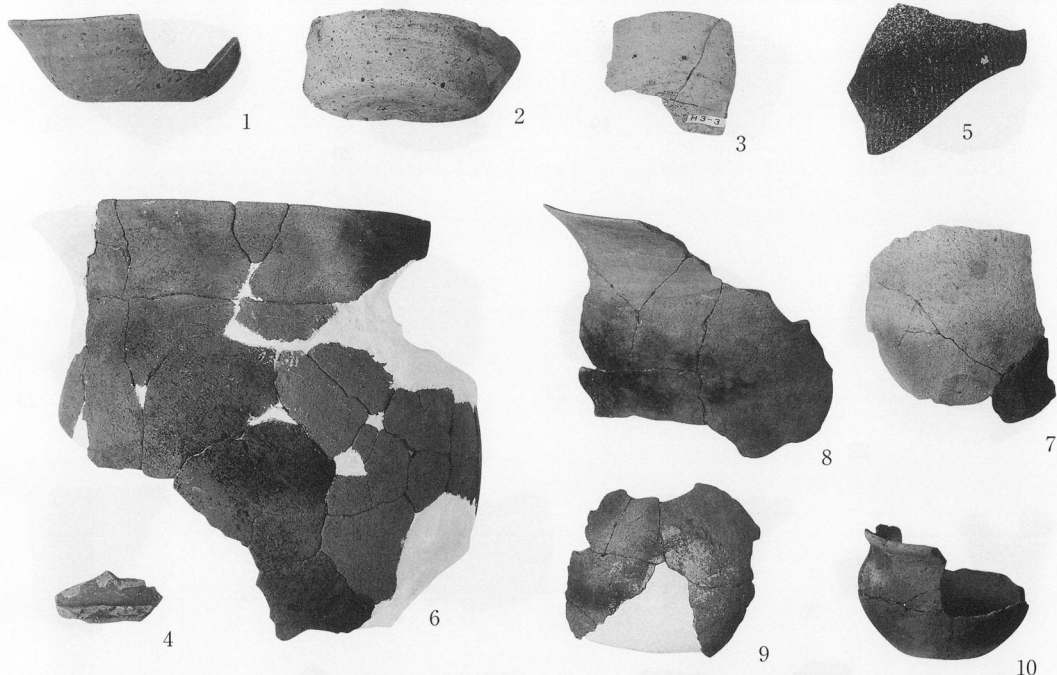


H 2 号住居址

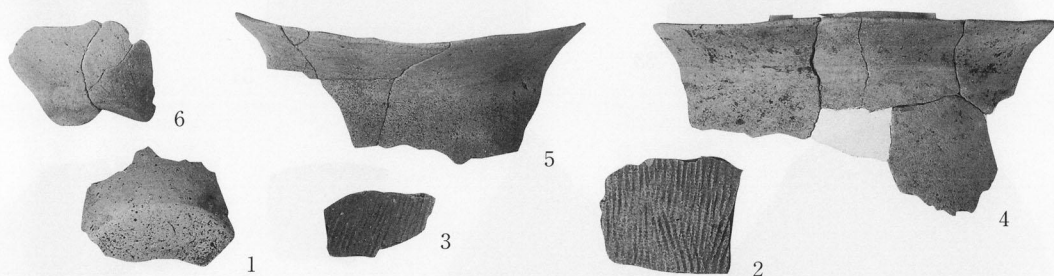
18



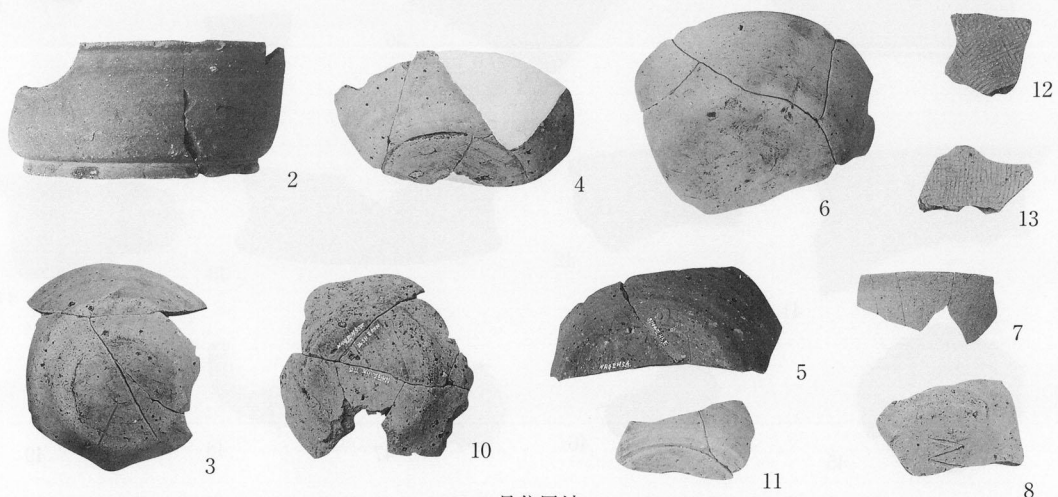
H 2 号住居址



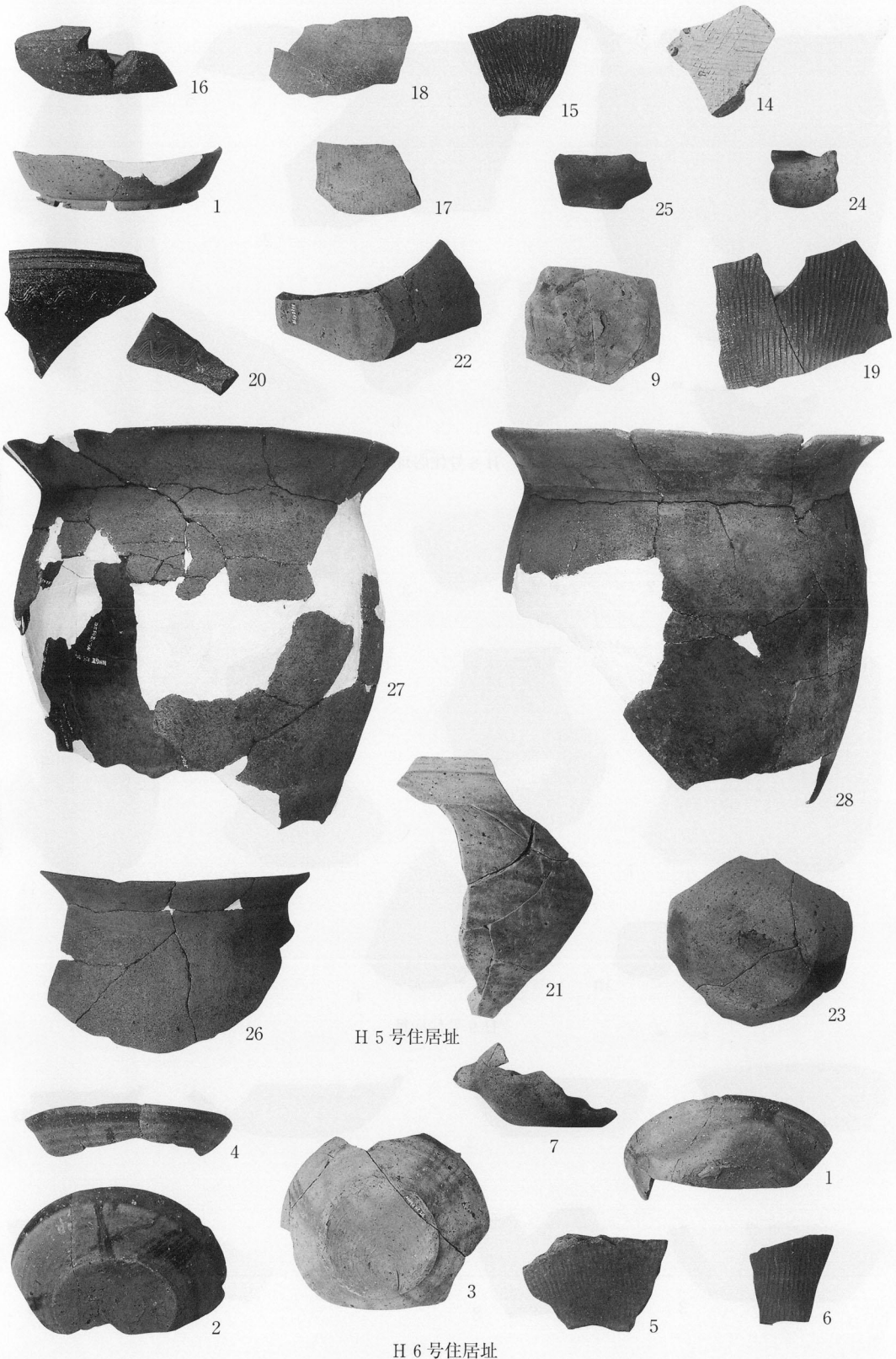
H 3 号住居址



H 4 号住居址

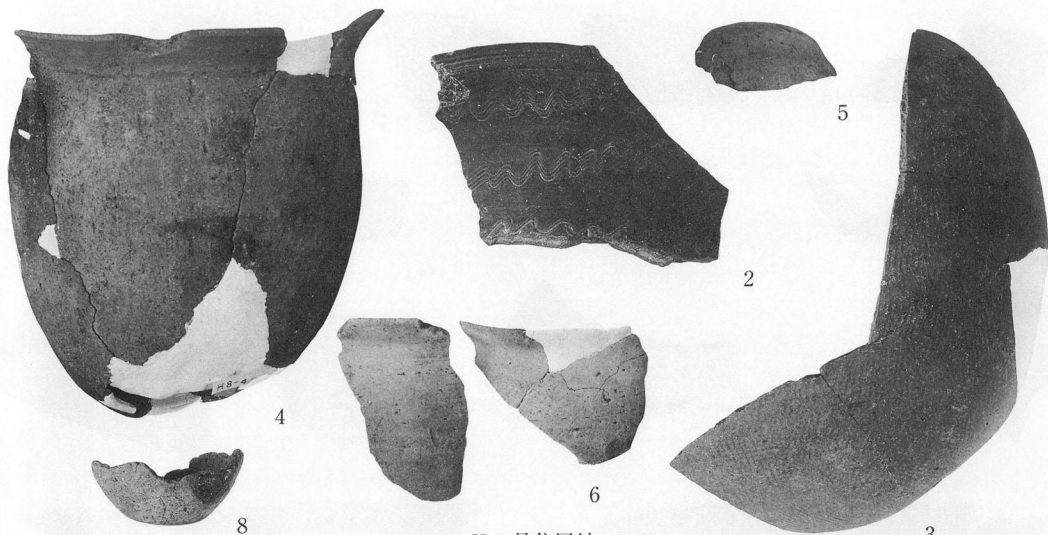


H 5 号住居址

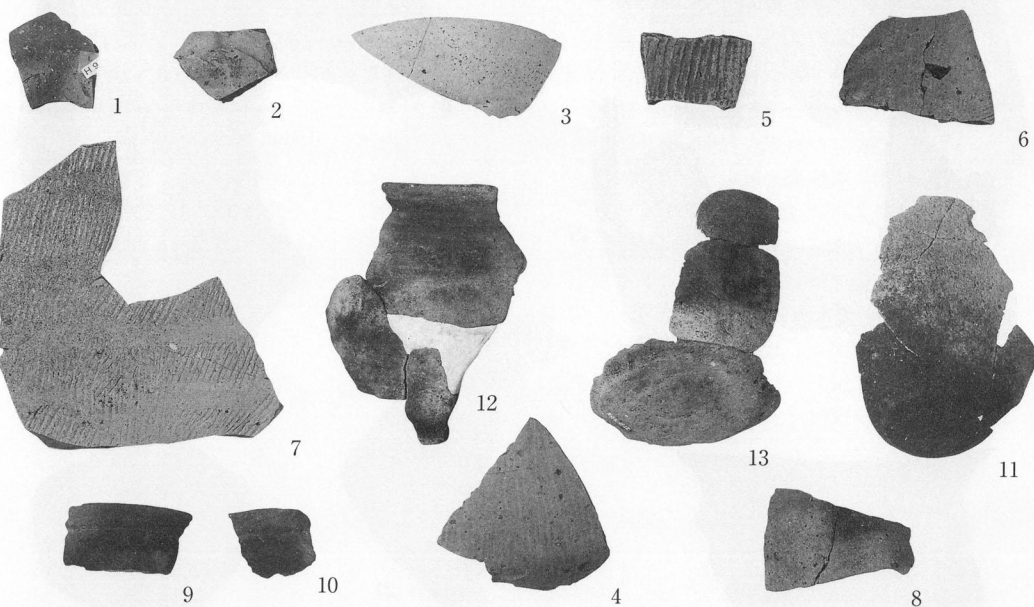


H 5 号住居址

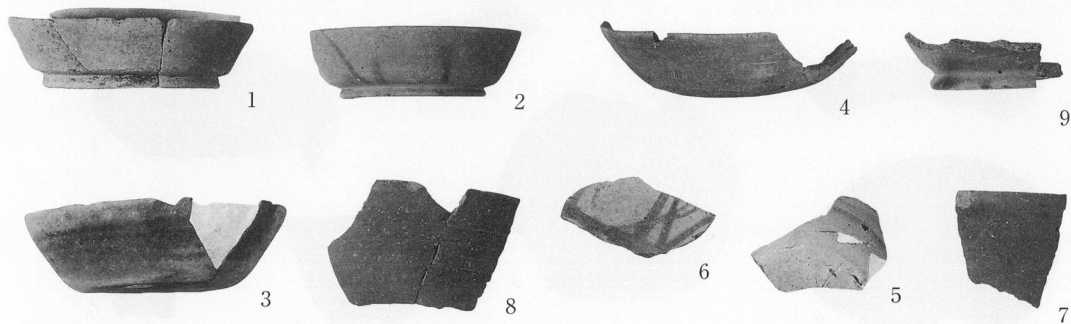
H 6 号住居址



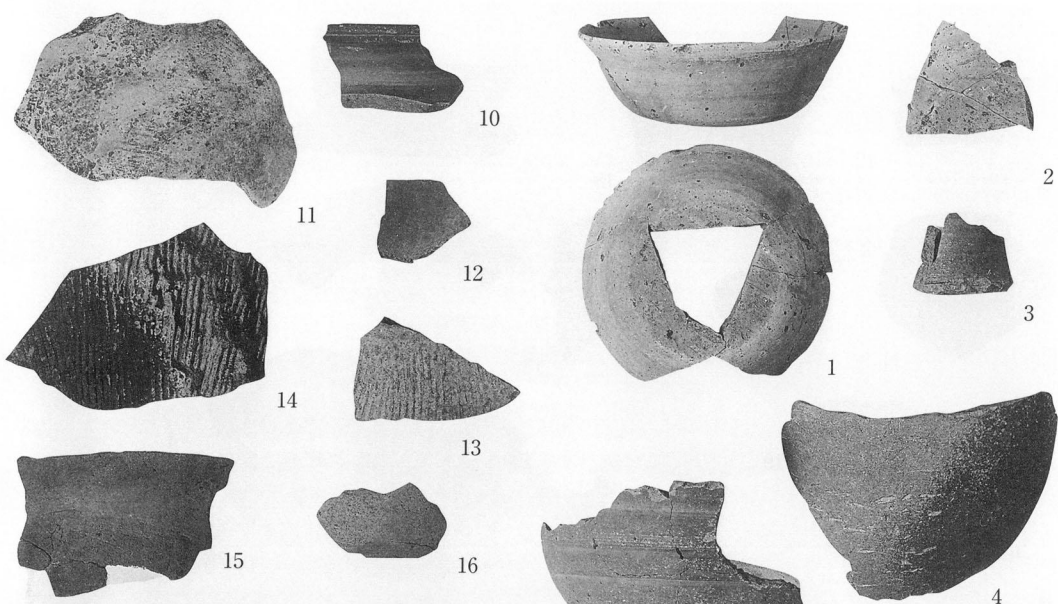
H 8号住居址



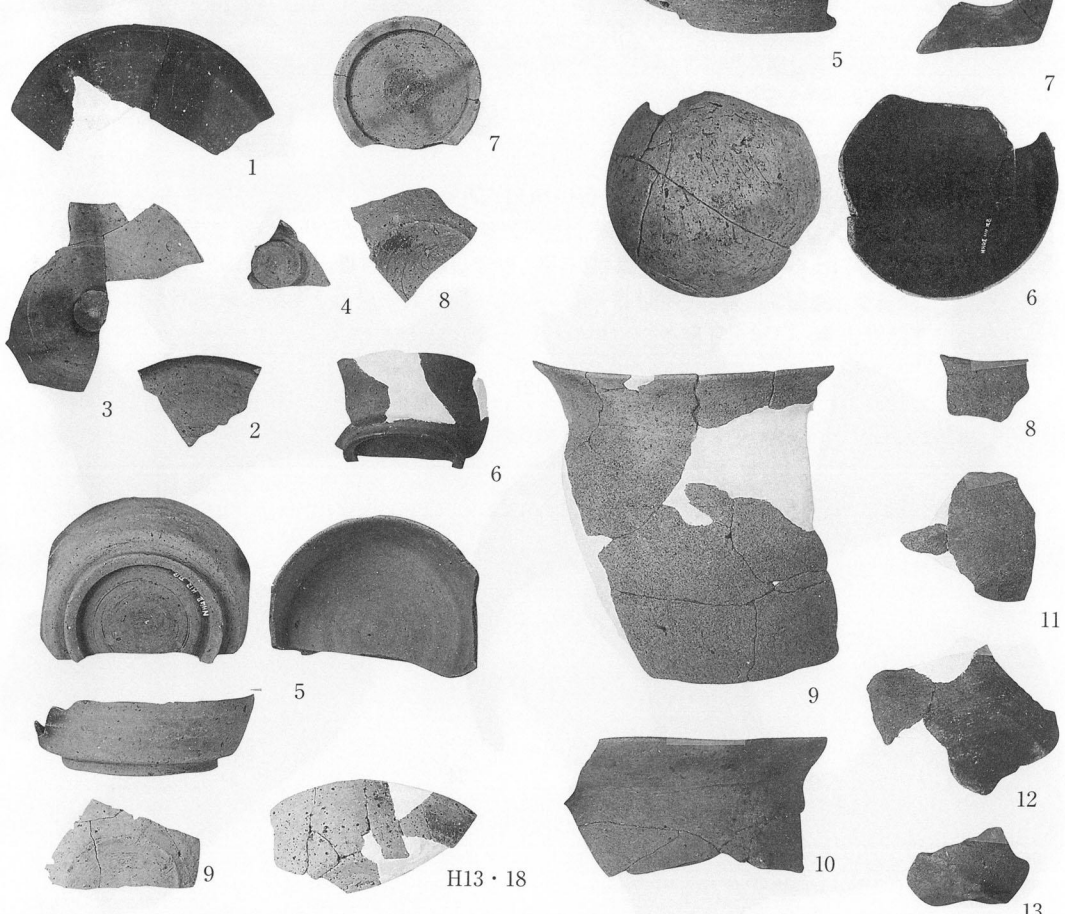
H 9号住居址



H10号住居址



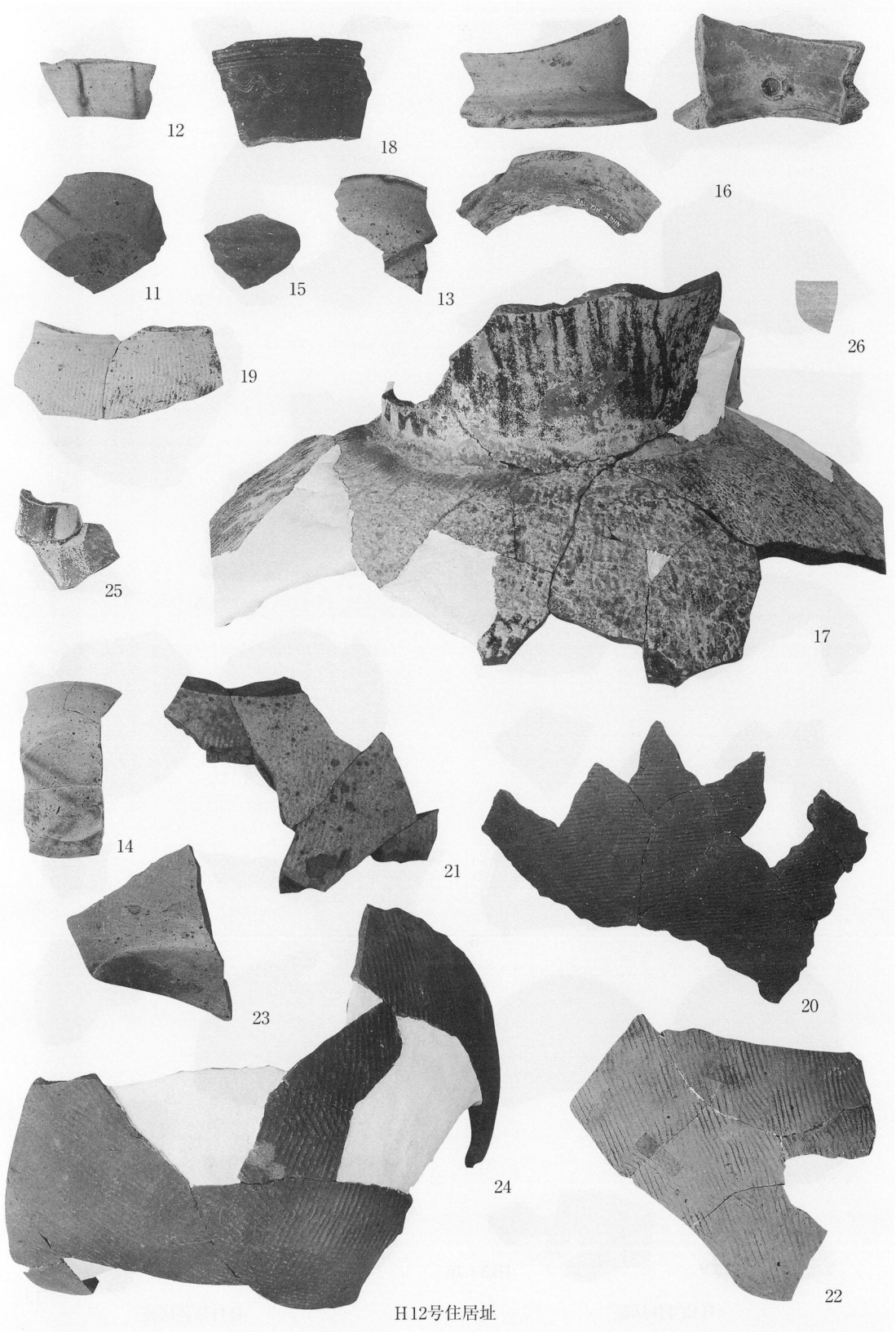
H10号住居址



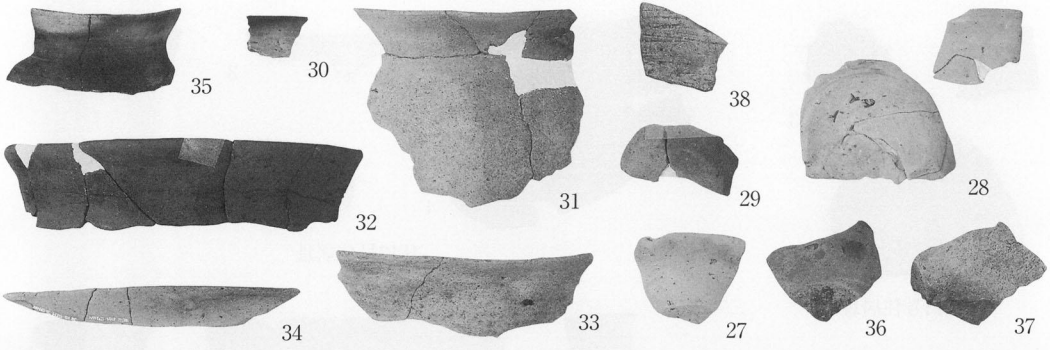
H12号住居址

H11号住居址

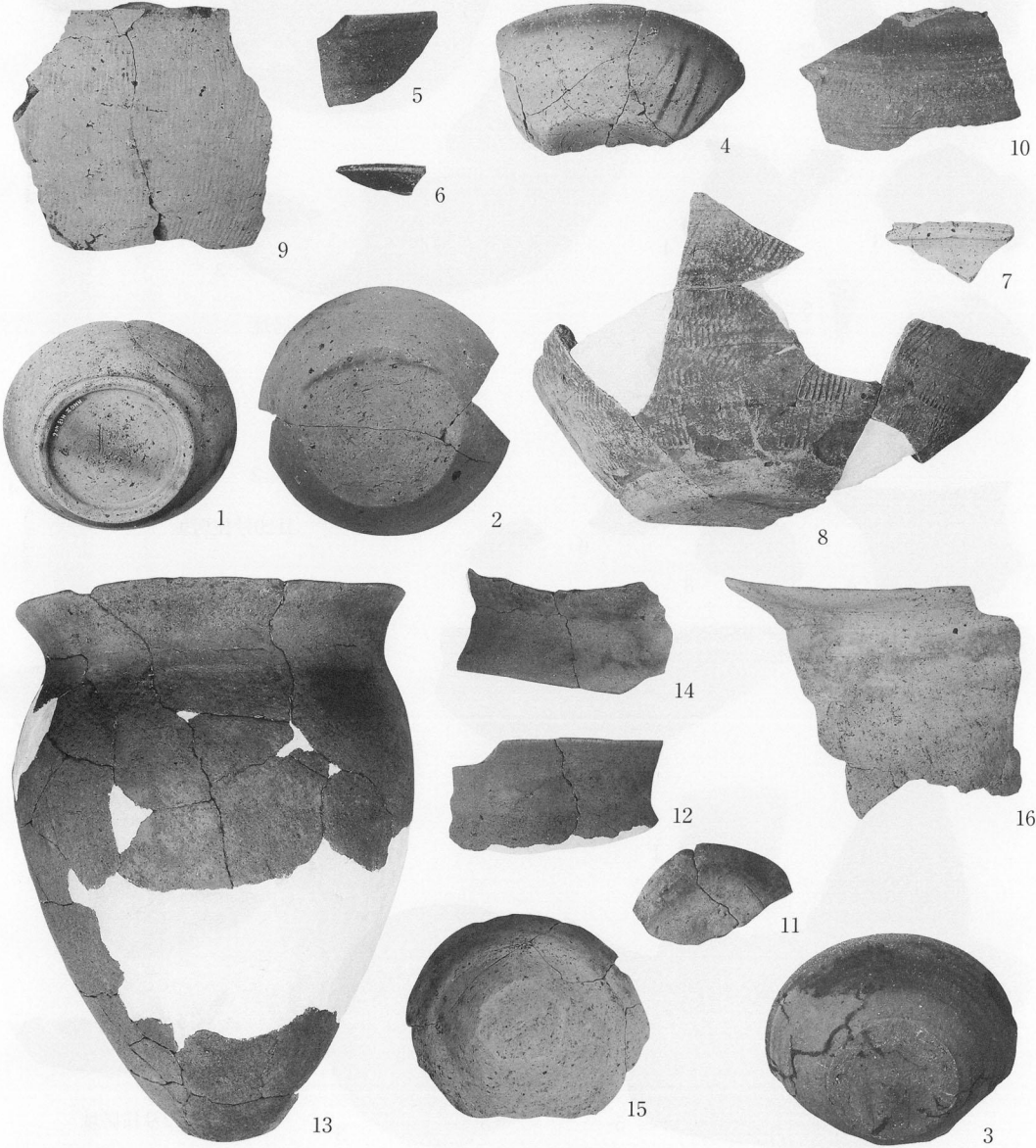
H13·18



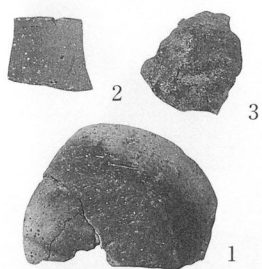
H 12号住居址



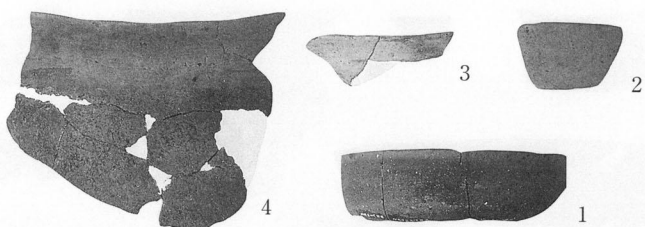
H12号住居址



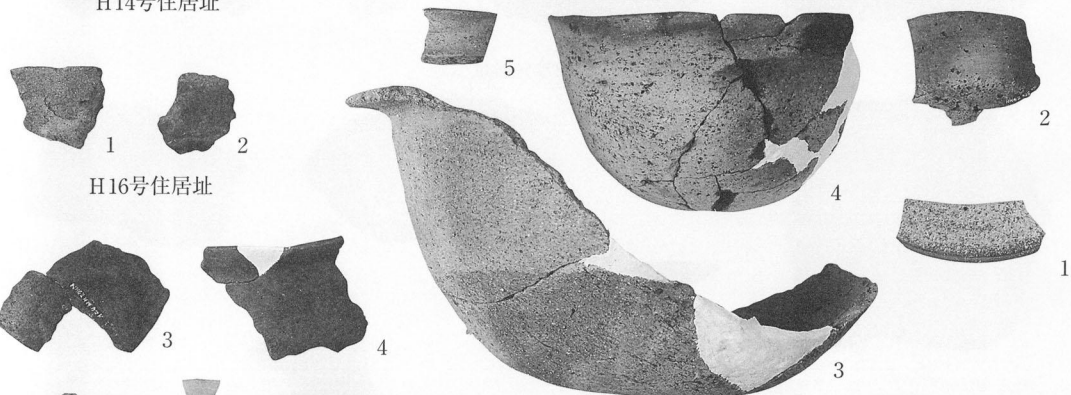
H13号住居址



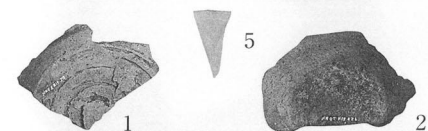
H14号住居址



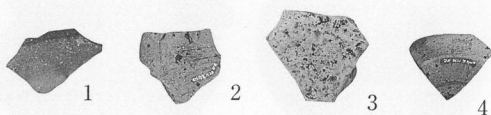
H17号住居址



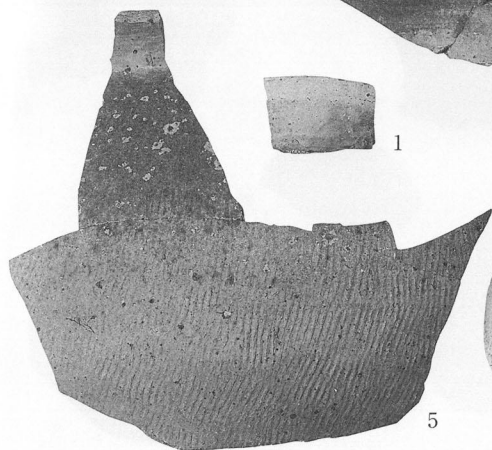
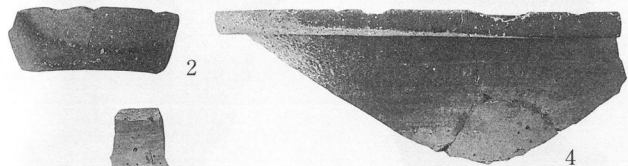
H18号住居址



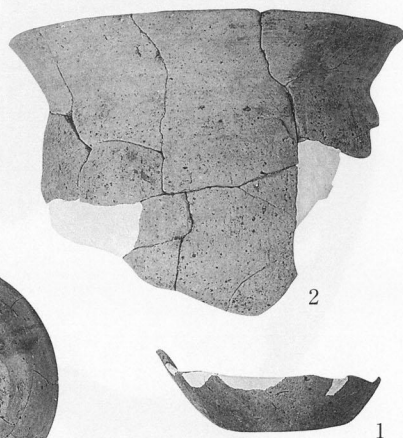
H19号住居址



H20号住居址



H21号住居址



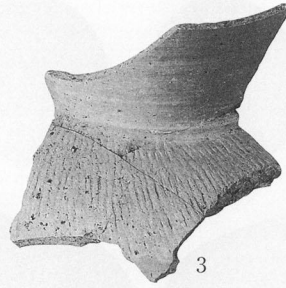
H22号住居址



F1号掘立柱建物址



D9号土坑



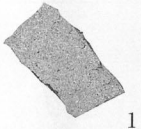
D6号土坑



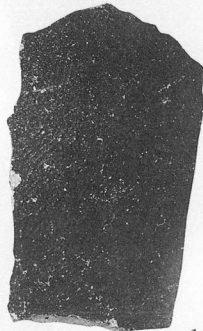
D4号土坑



D20号土坑



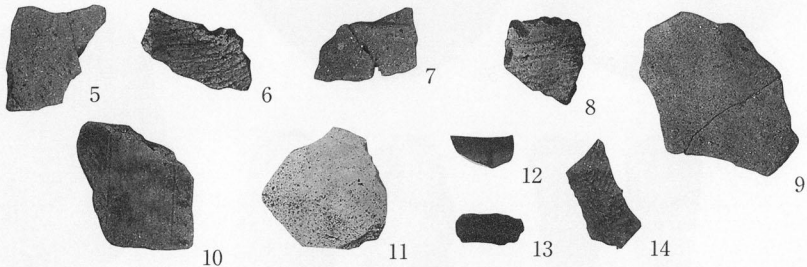
D22号土坑



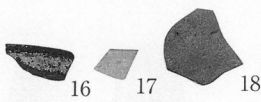
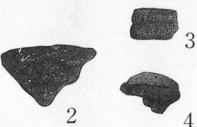
D21号土坑



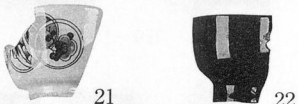
D25号土坑



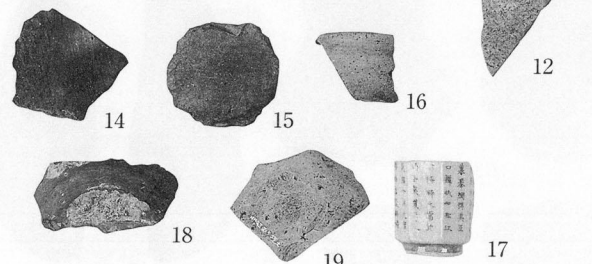
M1号溝址



M6号溝址



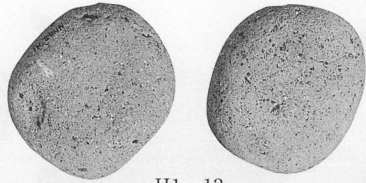
M7号溝址



単独ピット



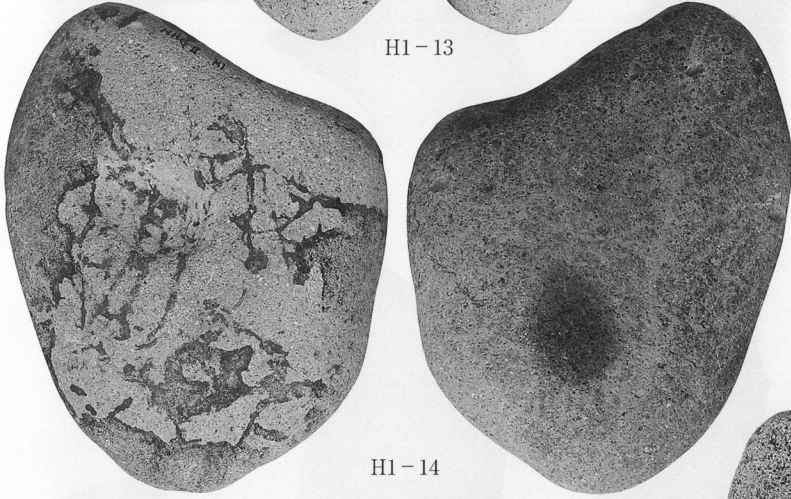
図版十六
石製品



H1-13



H3-11



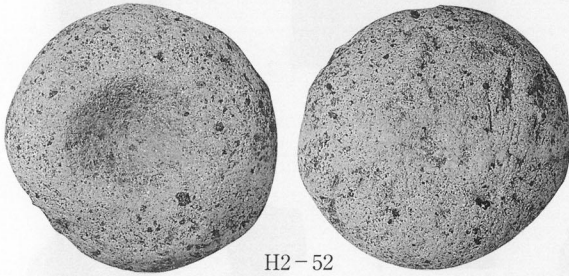
H1-14



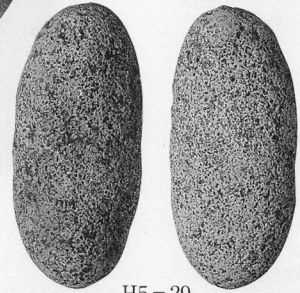
H4-7



H7-5



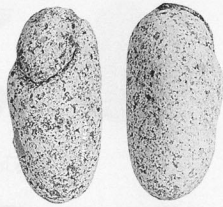
H2-52



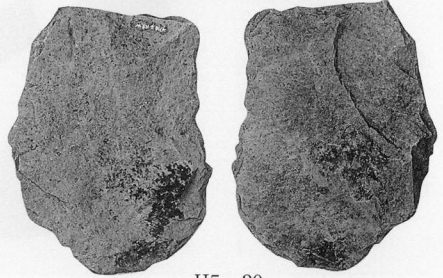
H5-29



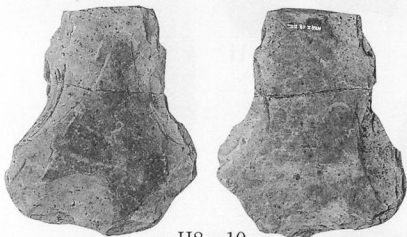
H2-50



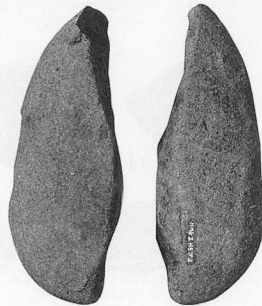
H2-51



H5-30



H8-10



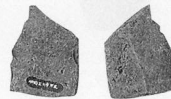
H8-12



H9-16



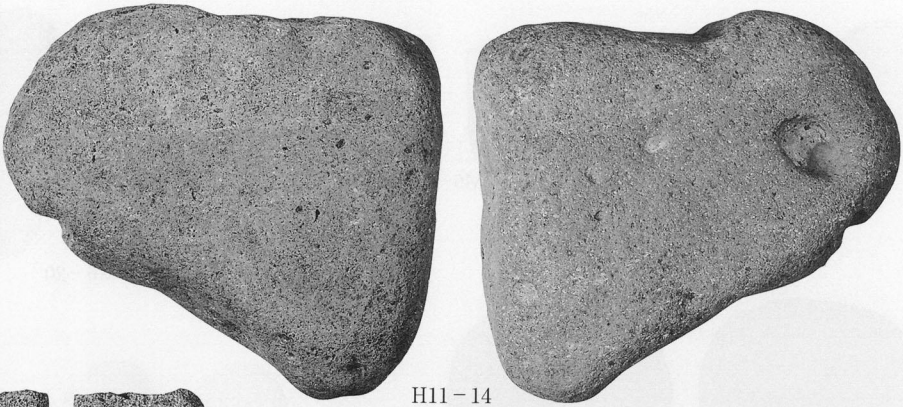
H8-11



H9-14



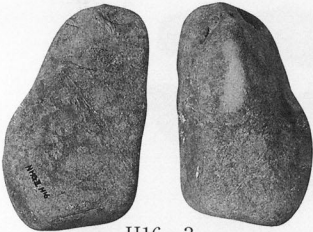
H9-15



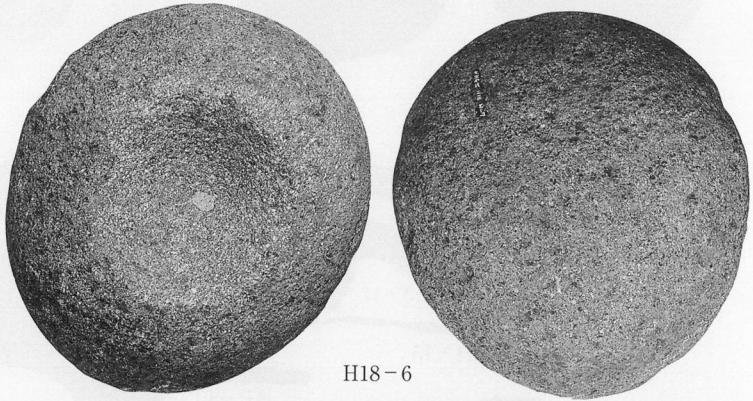
H11-14



H12-40



H16-3



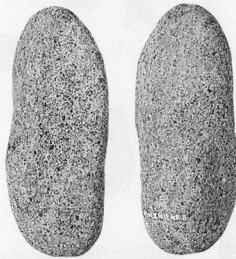
H18-6



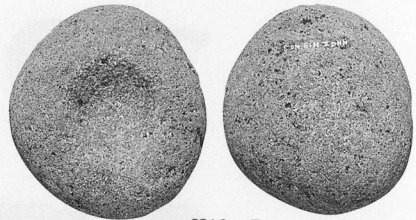
H19-6



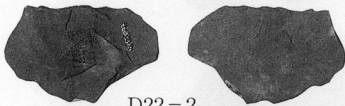
H18-8



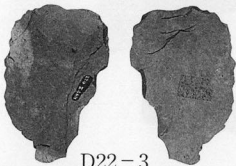
H18-9



H18-7



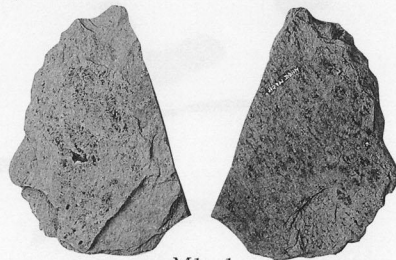
D22-2



D22-3



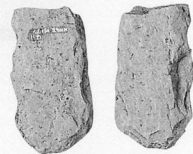
D22-4



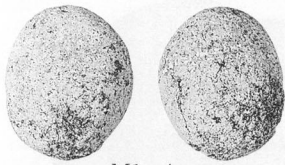
M1-1



M1-2



M1-3



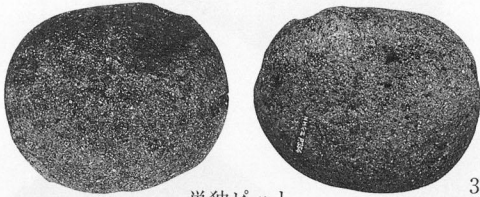
M1-4



M6-19

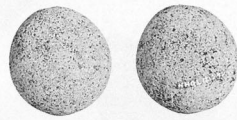


M6-20



単独ピット

3



単独ピット

9



H5-31



H6-11



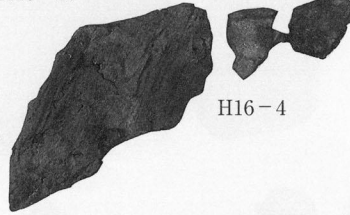
H10-17



H13-17



M1-15



H16-4



単P-1



単P-4



単P-6



単P-20



H11-15



単P-13



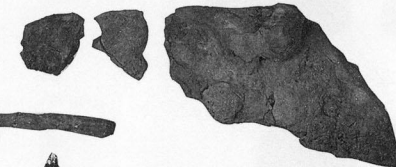
単P-5



H21-10



H12-41



青銅製品・鉄製品・古銭・石鏃

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第166集

東五里田遺跡Ⅱ

— 長野県佐久市野沢東五里田遺跡Ⅱ発掘調査報告書 —

2009年3月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501
長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006
長野県佐久市志賀5953
TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 ダンバラ印刷

報告書抄録

書名	東五里田遺跡Ⅱ
ふりがな	ひがしごりたいせきに
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第166集
編著者名	森泉かよ子
編集・発行機関	佐久市教育委員会 文化財課
発行年月日	2009.3.31
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	東五里田遺跡Ⅱ (NHGⅡ)
遺跡所在地	佐久市野沢東五里田441-2
遺跡番号	423
経度	138°-27'-49"~138°-27'-57"
緯度	36°-13'-15"~36°-13'-20"
調査期間	2006.4.1~2006.11.30 (現場) 2008.4.1~2009.3.31
調査面積	6,300㎡
調査原因	野沢中学校校庭造成工事
種別	集落址
主な時代	奈良
遺跡概要	包含層-縄文中期後半-弥生前期-土器+石鏃 集落址-奈良-竪穴住居址+掘立柱建物址+土坑+溝址 +ピット-土師器+須恵器+鉄製品+青銅製品 +石製品 -中世-掘立柱建物址+土坑+ピット-青磁
特記事項	奈良時代の集落の構成を捉えられる良好な資料。 奈良時代の土器の変遷の様子がわかる。